



東 京 圖 書 館					
一	二	二	九		
〇	四	架	函	屬	類
冊	号				

五

伯克爾  
氏著

英國文明史

土居光華  
萱生泰三

全譯 第五編下

事物諸般、  
主義

英國歴史

其ノ續

右ハ余ガ本編ニ於テ論述セント欲スル所ノ要領ニシテ、今之ヲ以テ、更ニ恒久真價ヲ有スル所ノ諸種ノ成果ニ論究セントス。凡ソ事物諸般ノ主義ハ、其ノ最モ發達生育セシ所ノ邦國ニ就テ之ヲ考索スルハ、其ノ未タ發育成長セザル所ノ邦國ニ於テ之ヲ探討スルニ比スレバ、更大ニ容易ナリトス。然リ而メ我英國ニ在リテハ、他ノ諸邦ニ比スレバ、世道ノ上進、其ノ規律順序ニ外ル、一太カ少ナク、亦諸般ノ攪擾ヲ蒙ル、一甚タ尠ナシ、故ニ英國歴史ヲ編纂スルニ當リテハ、逐々前論ニ於テ探討シ來ル所ノ諸般幫助ノ引用ヲ要スルヲ以急ナリトス。夫レ

英國歴史ヲ使テ、最モ貴重ナラシムル所以ノ者ハ、唯ニ其ノ史乘ニ於テ、其ノ國事ノ進歩ハ、善事惡事ニ論ナク、總テ他國ノ干涉ヲ蒙ル丁少ナキヲ以テナリ、斯ク我英國ノ開明ハ、諸般ノ攪擾ヲ蒙ル丁尠ナク且ツ其ノ進歩ノ多ク自然ニ就リ、健康安全ナル國質ニシテ、諸般ノ傷瘼亦甚少ナキヲ以テ、其ノ傷瘼感發ノ如何ヲ論ズルニ當リテハ、是亦其ノ傷瘼最モ夥多著明ナル邦國ニ就テ其ノ原由ヲ探討考究セザル可カラズ、抑開明上進ノ鞏固ト耐久ハ、必其ノ諸元質ノ親和密合ノ規則順序ト、又其ノ日常動作ノ調和整理ニ屬スル者ナリ、故ニ其ノ諸元質配合調理ノ諸法則ハ、其ノ配合調理ノ最モ普周

諸元質

ナル邦國ニ於テ、之カ考察ヲ要スト雖、其ノ諸元質各自一個ノ法則ニ至リテハ、亦之ヲ其ノ元質ノ勢力最モ活潑強盛ナル所ノ者ニ就テ之ヲ考究セザル可カラズ、是ハ故ニ余ハ我英國ノ歴史ヲ謂ツテ、諸般ハ主義元質、兩ナガラ其ノ調和整理ハ宜キヲ得テ、最モ耐久鞏固ナル者トナシ、之ヲ撰擇スルト雖モ、其ノ諸般ハ主義元質ヲ探討考究スルニ及ンデハ、其ノ勢力最モ強盛其ノ發達亦最秀拔ニシテ、終ニ調和全体ノ權衡ヲ違亂セシハ邦國ニ就テ之ヲ考察詳明スルヲ以テ、大ニ實事ニ於テ利益アリトス、

余輩ハ今斯ノ如キノ計畫工夫ヲ以テ、豫ジメ之カ防禦

府 宗教文學政

ヲ設クルトキハ、推究ノ途上ニ横塞スル所ノ諸種ノ困  
 難ヲ排除シ、更ニ顧慮スヘキ者ナシト雖モ、余ハ此ノ計  
 畫ヲ以テ將ニ直ニ論究セントスル所ノ疆域ニ進入ス  
 ルニ先タチテ、尚ホ從前未發ノ二三ノ論題ヲ揭示シ、論  
 辯審議以テ常ニ襲來止マザル所ノ諸種ノ妨碍ヲ鎮壓  
 セントス。今余ガ未發ハ論題ト稱道セシ所ハ者ハ、宗教  
 文學政府ハ、三者乃チ是ナリ、此ハ三者ハ天下衆人ハ所  
 見ニ於テハ、人事開進ノ大基本トナス者ナリ、然ルニ其  
 ハ所見ハ、謬誤ハ、本史ハ論述ヲ待テ、必明瞭ナルニ至ル  
 ベシト雖、其ノ謬誤ハ、既ニ遍ク四方ニ傳播シ、又稍信  
 任、不可キニ似タル者アルヲ以テ、余ハ更ニ之ニ關スル

所ハ一ニハ略説ヲ掲ゲ、其ハ三大勢力ハ、曾テ世道ノ開  
 進ニ於テ占有セシ所ハ形勢如何ヲ示サントス、  
 若シ一個人民ヲ使テ、全ク世上ノ風化ヲ蒙ムルナク、  
 獨立孤行セシメ、能ク其ノ形狀ヲ觀察スル所ハ、其ノ人  
 民ノ宗教文學政府ハ、必世道上進ノ原因ナル者ニアラ  
 ズ、却テ其ノ世道ノ上進ニ感化セラル、所以ヲ發見ス  
 ベシ、故ニ此三者ハ、社會開進ノ程度ニ隨フテ、其ノ形狀  
 成果ヲ異ニセザルヲ得ザル者ニシテ、其ノ成果ハ亦必  
 外物ノ感觸誘引ヲ蒙ラザル者ナシ、果シテ其ノ誘引ヲ  
 蒙ラザル者トセバ、能ク常ニ事物疑問ヲ決定シ、且亦能  
 ク道理ヲ識別スル所ノ開明人士ニシテ、其ノ自家平生

宗教改革ノ  
邦國

ノ見識ニ反シ、妄誕據ナキノ宗教ヲ崇奉スルノ理ナカ  
ルヘシ、又古來宗教改革ノ邦國多シト雖、未夕貴尊ノ  
宗教ヲ棄テ、賤劣ノ宗教ニ變移スル者ナク、亦善良ナル  
宗教ニシテ、世道ノ上進ヲ妨害スルヲ見ズ、而シテ若シ  
其ノ人民、外物ノ刺衝ヲ蒙ムルナキハ、自家智慧ノ  
上進シテ、自ラ其ノ宗教ノ善惡良否ヲ分別スルノ識力  
ヲ有スルノ時期ニ達セザレバ、其ノ常ニ崇奉スル所ノ  
宗教ヲ取捨改革シ能ハザルベシ、又其ノ自家固有ノ智  
識從來暗澁鹵莽ニシテ、停止進退セザルハ、永遠其ノ  
宗教ヲ取捨スルノ期ナカルベシ、又國人其ノ舊來ノ無  
智盲昧ヲ脱去スルノ能ハザルノ間ハ、其ノ宗教ハ永遠

其ノ舊慣ヲ改ムルナカレバ、蓋無智盲昧ナル人民  
ニ在リテハ、其ノ自家蠢愚ノ勢力ヲ以テ、漸次其ノ宗說  
ニ奇怪ヲ增加シ、奉鬼ヲ夥多ニシ、世上ノ諸顯象ハ直ニ  
此ノ諸神ノ管掌支揮ニ出ル者トシ、隨テ此等賤惡愚蒙  
ノ宗教ニ遷移セラル、者ナリ、之ニ反シテ智識次第ニ  
上進シ、稍事理ヲ識別スルヲ得、且宗教ノ事理ヲ考索  
スルノ一層精密ナル所ノ人民ニ在ツテハ、疑惑ノ思念  
其ノ間ニ發生シ、必宗教ヲ使テ、其ノ奇怪ヲ減殺シ、其ノ  
愚蒙ヲ除去シ、又能ク其ノ迷溺ノ濫信ヲ薄弱ナラシム  
ル者ナリ、然ラハ則チ、人或ハ謂ハントス、最初ハ蠢愚ハ、  
宗教ハ未ダ改良セザルニ由ル者ニシテ、後來宗教ハ改

良善美ナルニ及シテ、始メテ智識ヲ發達シ得タルナリ、ト、是ハ猶ホ後事ノ前事ニ繼テ發起スルトアルトキニ際シ、其ノ前事ハ、則チ結果ニシテ、其ノ後事ハ原因ナリ、ト云フガ如シ、是ハ決シテ人事百般ノ理由ヲ考索スベキハ方術トナスベカラズ、且余輩ハ何ニ由ツテ此等論者ハ此ノ如キ方術ヲ以テ、人世古今ノ事理ヲ考索セハト企圖セシヤヲ推測スルヲ得ザルナリ

以上三節ハ、社會ノ上進ニ關係スル所ノ宗教ノ勢ヲ論ス、

夫レ一世ニ流行スル所ノ宗教ノ思想ハ、其ノ一世ニ行ハル、所ノ事理發達ノ形勢中ニ浮遊スル者ナリ、而シテ

宗教ノ思想

テ宗教ノ思念、最モ深厚ナルキハ、亦一世ノ行為ニ影響スルコト多シ、然ルニ古來未ダ智識ノ開進ニ先チテ、宗教ノ階級ヲ加ヘシ者ヲ見ズ、又余輩毎ニ謂ラク若ク愚昧猛惡ノ地方ニシテ、能ク温和且善良ナル宗教ヲ設立シ得ルコトアレバ、亦能ク巖石ノ面ニ播種シテ、之ヲ生育セシムルヲ得ベシト、是等ノ事理ハ、余輩屢試驗スル所ニシテ、其ノ成規ハ、毫モ之ヲ變易シ得ル能ハザル者ナリ、古今非常ノ憤發教師ノ輩出スルアリテ、非常惻誠ヲ以テ、其ノ自家尊崇スル所ノ宗教ヲ以テ、之ヲ蒙昧野蠻ノ國民ニ傳播移植セント企圖シ、續々野蠻ノ地方ニ入り、無比ノ勉勵ヲ以テ、基督宗教ヲ説キ、或ハ蠻人ト約盟ヲ立

テ、或ハ之ニ施與シ、百方其ノ蠻民ヲ誘導セシト雖、  
ニ其ノ功ヲ奏セシナシ、故ニ其ノ勇敢活潑ナル傳教  
牧師ガ毎々蠻地ノ教化ヲ誇道スル所ト、通常旅客ガ歴  
覽實視セシ所ノ事蹟ヲ對照シテ、能ク其ノ狀況ヲ考察  
スル所ハ、其ノ所謂信奉ハ、唯虚飾ニシテ、其實蠻民之ヲ  
信スルニ非ズ、唯ニ其ノ新來ノ儀式禮貌ヲ修ムルノミ  
ニシテ、宗教真意ニ至リテハ、一點之ヲ解スルニアラス、  
其ノ信奉ハ全ク其ノ外ニ留マリテ、其ノ他ハ毫モ進達  
スルナシ、蠻民能ク自家ノ生兒ヲ使テ、之ニ洗禮ヲ受  
ケシムルヲ得可ク、能ク誓詞ヲ發スヘク、能ク寺觀ニ  
參詣スルヲアルベシ、斯ノ如キノ事頂ニ於テハ、皆盡ク

之ヲ能セザルヲナカルベシト雖モ、其ノ心事ニ至リテ  
ハ、常ニ基督ノ宗旨ニ背戾シ、更ニ其ノ木偶石像ニ拜禮  
セシ當時ニ異ナルヲナシ、夫レ宗教ノ儀式禮貌ハ凡テ  
外部ニ存スルヲ以テ、其ノ内部ニ存ス可キ所ノ真理ヲ  
洞察シ能ハザル所ノ者ニ於ケルモ、一タヒ之ヲ實視ス  
ル所ハ直ニ其ノ禮樣ヲ學習シ、其ノ儀式ヲ模寫スルヲ  
得ヘシト雖モ、宗教ノ信念ヲシテ、永ク腦中ニ留存セ  
シムル者ハ、内部深密ノ變化ニ在リテ、此ノ内部深密ノ  
變化ハ、其ノ蠻民ノ常ニ相伍シ相侶トスル所ノ野獸一  
般ノ狀態ヲ脱スルニ在ラザレバ、固ヨリ之ヲ能ス可キ  
者ニアラス、無智蠢愚ヲ驅逐シテ、宗教始メテ之ニ進入

スルヲ得ベシ、是レ則チ極大ノ廣益ヲ定立ス可キ所ノ  
進路ナリ、而シテ余親シク蠻夷諸國ノ歴史ヲ精査シ、亦其  
ハ古今ノ景状ヲ洞察セシ後能ク、無智野蠻ノ國民ニ在  
リテ、永遠其ノ基督宗教ヲ崇奉スル所ハ者ヲ察スルニ  
大抵其地ニ來ル所ハ傳教牧師ハ、拔群ハ有識學士ニシ  
テ、亦熱心惻誠ハ思念ヲ抱キ、當初蠻民ヲ使テ、事物考究  
ハ習慣ヲ造ラシム、次第ニ其ハ智識ヲ修積セシム、其ハ  
智カヲ以テ能ク、宗教ハ大義ヲ理解スルヲ得セシム  
是レニ憑リテ之ニ宗教ハ事理ヲ教誨セシ者ナリ、然ル  
ニ此等ノ恩澤ヲ受ケシ所ハ國土ハ、宇内甚々稀少ニシ  
テ、多クハ一時外部ハ、改宗信者タルニ過ザルナリ、

以上ノ一節ハ、傳教牧師ノ勉勵ヲ以テ、前論ヲ証明  
ス、

宗教ハ世道  
上進ノ本源  
ニアラス

眼ヲ放ツテ、能ク今古ノ事理ヲ觀察スルハ、宇内ノ宗  
教ハ、曾テ世道上進ノ本原タル者ニアラス、唯ニ世道上  
進ノ成果タルヲ知ルベシ、然ルニ若シ一區一郷ノ事理  
ニ就テ、之ヲ論シ、又小時短期ノ實見ヲ以テ、之ヲ考フル  
ハ、屢其ノ通則ヲ攪亂シ、大ニ天然ノ進動ニ相背反ス  
ルガ如キノ狀勢ヲ見ルベシ、是等ハ惟一個人士ノ異行  
ニ出テ、其ノ精カト勇氣ヲ以テ、能ク自家一個ヲ規律ス  
ル所ノ小法ヲ振起シ、延テ一般社會ノ大法ヲ攪擾違亂  
スルニ外ナラザルナリ、又古來大賢哲學ニシテ、一生唯



一事業ヲ專ラニシ、或ハ人事進動ノ狀勢ヲ豫期シ、或ハ宗教ヲ振興シ、理學ヲ講究シ、能ク人世ヲ裨益セシ者少シトセズ、是レ何等ノ理由アツテ、其ノ欺ノ如クナルヤハ、今直ニ証明シ得ベカラズト雖モ、能ク古今ノ歴史ヲ通覽スル片ハ、此ノ如キ新說卓見ノ起原ハ、全ク一人一個ノ頭腦ヨリ出テ、其ノ結果ハ、其ノ之ヲ結成セシムル所ノ一世ノ景狀如何ニ關セザルナシ、故ニ若シ其ノ發顯スル所ノ宗教理學ヲ使テ、其ノ高妙其ノ國民ノ形狀智慧ニ照シテ、其ノ程度ヲ超越スル片ハ、當時決シテ其ノ地方ニ行ナハル、了能ハズ、蓋人民ノ意思、能ク其ノ理學宗教ヲ容受スル<sub>了</sub>ヲ得ルノ程期ニ至リ、始メテ其

ノ光輝ヲ發揚スルヲ得ベキナリ、又各學問諸宗教ニ於ケルモ同一同理ニシテ、能ク其ノ一家流ヲ開キ、一門派ヲ立ツルニ至ル迄ハ、其ノ間必多少ノ寃死者アリテ、或ハ一時ノ汚名ヲ蒙リ、或ハ其ノ身ヲ以テ之ガ犧牲トナサバル<sub>了</sub>ナシ、其ノ故何如トナレバ、此等人士ノ見識ハ、遙ニ其ノ一世ノ智識ニ表出スルヲ以テ、其社會ニ在リテハ、此輩人士ノ發顯セシ所ノ真理ヲ見テ、能ク之ヲ逢迎受用スルノ量ナキニ由ルナリ、然ルニ事物通常ノ進歩ヲ以テスト雖モ、其ノ後二三ノ世代ヲ經歷スル片ハ、始メテ其ノ論說ノ平和ニシテ、曾テ怪シムニ足ラザルヲ覺了シ、又稍星霜ヲ經過スル片ハ、漸ク其ノ緊要貴重

強迫又人為  
ノ措置

ナル丁ヲ知得シ、茲ニ至リテ始メテ尋常普通ノ學徒ノ如キモ、其ノ以前ニ在リテ之ヲ非難排撃セシ一ノ至愚ナルヲ突フニ至ル、是レ智識ノ開達他ノ妨害ヲ蒙ルナク、其ノ修積ト、蔓延ニ於テ、大ニ自由不羈ナル所アリテ、之ヲ練磨セシ所ノ時世ニ於ケル景狀ナリ、然ルニ強迫又ハ人為ノ措置ヲ以テ、若シ、此ノ社會ヲ妨害シ、其ノ智識練磨ノ道ヲ阻遏スルキハ、其ノ以前ニ發顯セシ所ノ真理ハ、如何ニ緊要貴重ノ性質ヲ有スル者タリト雖モ、之ヲ迎容スヘキノ期ハ永ク來會スル能ハザルナリ、凡テ同一ノ真理ニシテ、此ノ一世ニ在リテ深ク世人ノ嫌忌攻撃ヲ蒙リ、又彼ノ一世ニ在リテハ、厚ク貴重愛用

セラル、ハ、其ノ理由抑何如ソヤ、夫レ真理ヲ使テ終始變化セザル者トスル片ハ、必之ヲ逢受スル所ノ社會ナル者ハ、前後時世ヲ異ニスルニ隨ツテ、其ノ風氣ヲ變化セシメザルヲ得ザルナリ、是レ則チ始メニシテ排シ、終リニシテ迎フル所以ナリ、又古今ノ史乘ヲ通覽スルニ、人間最貴重ノ主義ヲ使テ、無智蒙昧ノ國土ニ發顯セシムルトキハ、其ノ應驗ヲ現スル能ハザル者、歴々指數ニ違アラズ、獨一真神ノ説ノ如キハ、古昔人ノ既ニ發論セシ所ニシテ、其ノ後幾百年ノ間、其ノ邦人毫モ之ニ注目スル者ナシ、夫レ已ニ此ノ如キ高尚ノ説ヲ發揚スト雖モ、其ノ第一ニ之ヲ逢迎受用スベキ所ノ人民ニシテ、尚

ヘブリュー人

野蠻蒙昧ノ習風ヲ脱スル丁能ハザレバ、此ノ説亦各自ノ意思ヲ使テ此ノ高妙不思議ノ思想ニ向ハシムル丁ヲ得ズ、又蠻民一般ノ通情ニシテ、ヘブリュー人ノ如キモ常ニ其ノ眼前ニ發顯スル所ノ諸般ノ變幻奇怪ヲ見テ、愈其ノ迷溺心思ヲ鼓舞スル所ノ多神ノ宗教ヲ追求シ、却テ真神一途ニ歸スル丁能ハス、終ニ森林原野到ル處トシテ、司宰ノ神明アラザルナキノ甚シキニ至レリ、斯ノ如キ形狀ハ、無智蠢愚ノ成果ナル拜像宗旨ノ真面目ニシテ、乃ヘブリュー人ノ常願ヲ遂ケシモノト云フ可ナリ、然リ而シテ當時ヘブリュー國ハ、國人ヲ使テ一意ニ獨一真神ヲ奉崇セシメント欲シ、嚴罰苛法之ヲ威嚇スト

雖モ、其ノ國民ハ依然蒙昧蠢愚ニシテ、屢之ヲ背違シ、其ノ各自常ニ、理會シ得ル所ノ迷溺ヲ回復シ、或ハ黄金ヲ以テ犢牛ヲ鑄造シ、或ハ黄銅ヲ鑄テ蛇蟲ヲ作り、之ヲ拜崇奉信シテ、終始止ム丁アル丁ナシ、然ルニ今日其ノ風習ヲ觀ルニ、絶ニ其ノ痕跡ヲ存セザル者ノ如シ、斯等ハ決シテ宗教思念ノ提醒、其ノ古代ヨリモ増加セシニ非ズ、又宗教恐怖ノ感激、其ノ數多ナルニモ由ラズ、惟ニ其ノ迷溺ノ減消ハ、全ク國民專ラ其ノ古來ノ社會ヲ洗除シ、其ノ舊觀ヲ一新シテ、舊時ニ在リテ人心ヲ感動セシ所ノ光景ヲ放棄セシニ由ル者ナリ、蓋世道ハ開進ニ隨テ、古昔人民ヲ使テ、或ハ歡喜ハ感情ヲ生シ、或ハ恐怖ハ

思念ヲ起サシタレバ、諸般ノ根源ハ、今ハ全ク其ノ勢  
 カヲ失フニ及ヒ、ヘブリュー人種ノ如キモ、今日ニ至リテ  
 ハ、白日雲筒ヲ視、夜間火柱ヲ視ルハ、奇變ナク、亦法律ヲ  
 シヤイナル山ニ受ケ、雷電ヲホレブ山ヨリ、聽クハ、異事ナ  
 カル可シ、夫レ斯ノ如ク、ノ異事奇變ヲ實視スルノ間ニ  
 在リテハ、其ノ國民ノ心意ハ、自然拜像ノ信者ヲラザル  
 ヲ得ズ、而ハ一朝其ノ機會間隙ニ投セバ、其ノ蓄積スル  
 所ノ拜像ノ宿念ハ、忽チ發顯シテ、拜像ノ實行家ト變ス  
 可シ、是レ則其ノ國民ハ、野蠻ノ空氣中ニ游泳スルヲ以  
 テ、其ノ結果自カラ然ラザルヲ得ザルナリ、然ルニ方今  
 ヘブリュー人種ノ古昔信奉セシ所ノ數神ノ宗教ヲ放擲

輿論ト智識  
ノ連結

シ舊時ニ於テハ、曾テ移殖シ能ハサル所ハ、獨一真神ハ  
 宗教ヲ奉崇シ得タルハ、世道ノ上進ニ隨ツテ、其ノ宗教  
 次第ニ淡泊ニ遷リ、人智亦之ヲ逢迎改革シ得ルハ、程度  
 ニ達セシニ由ルト云ハザルベカラズ、

以上一節ハ、ヘブリュー人種ヲ以テ前論ヲ証明ス、

各國人民ノ經過レ來ル所ノ實蹟ヲ以テ之ヲ察スルハ、  
 ハ、一國ノ輿論ト其ノ智識ノ連結ハ、斯ノ如ク親密ニシ、  
 其ノ宗教開進ノ程度ハ、常ニ智識上進ノ程度ニ隨從ス  
 ルト亦此ノ如ク必定ナル者ナリ、而シテ今此ノ貴重ノ  
 道理ヲシテ、尚ホ一層詳細明瞭ナラシメントテ要スル  
 為メニ、余輩ハ將ニ基督宗教傳播ノ初歐洲ニ於テ其ノ

羅馬國教

發顯經歷セシ所ノ諸般ノ事情ヲ舉テ之ヲ証明セントス、羅馬國人ハ、概シテ之ヲ云ヘハ無智野蠻ノ種族ニシテ、且ツ虎狼猛惡ノ夷民ト稱スベシ、凡テ國民此ノ形狀ニアルキハ其ノ國教ハ、必多神宗教タラザルヲ得ズ、故ニ羅馬國ニ在リテモ、其ノ大家哲學數人ヲ除クノ外其ノ國民ハ孰レモ皆木偶土像ヲ信崇セザルナシ、然ルニ基督宗教ハ、遽然此ノ野蕃ノ國民中ニ入ルヲ以テ、其ノ高妙深遠ノ旨趣モ、容易ニ其ノ光運ヲ發揚スルニ地ナク而シテ其ノ後稍年月ヲ經過スルニ隨テ、歐洲ハ其ノ北方生蕃移民ノ全ク攪亂スル所トナリ、之カ爲メニ又羅馬國民ノ野蠻ニ超過スル所ノ猛惡愚心ヲ輸入シ、亦

隨テ迷溺ノ勢力ヲ增加セリ而シテ當時基督宗教ハ此ノ新古二個ノ猛惡迷溺ヨリ發育生長スル所ノ材質ニ寄リ、以テ其ノ宗旨ヲ設立セントテ企望セリ、故ニ其ノ成就セシ所ノ結果ハ其ノ望外ニ出ツル者多クシテ、能ク諸種ノ迷溺ヲ阻遏驅逐セシカ如シト雖モ、大約歐洲最良ノ國土ヲ信從セシメシ後ニ及ンデ、其ノ形狀ハ猶ホ其ノ以前ニ異ナルトナク國民一體下賤ノ位置ニ安ンジ、迷溺ノ心情ヲ免ル能ハズ、或ハ其ノ位置ニ在リテハ其ノ人民此ノ一事ニ於テ能ク迷溺ヲ脱シ得ルモ尚ホ彼ノ一事ニ在リテハ、更ニ之ヲ脱スルト能ハザルナリ、又其ノ教徒ヲ使テ、一神ヲ崇敬セシメ、一教ヲ奉信セ

シノントスルモ其ノ事全ク徒勞ニ屬シ、人民ノ意思ハ猶ホ依然トシテ進マズ、賤劣ニ甘ンシ、竟ニ高尚奇特ノ階梯ニ攀躋スルト能ハズ、到底混濁ノ宗教ニシテ、愚陋ノ教法ニアラサレバ、其ノ人民ノ意思ニ稱フト能ハス故ニ其ノ發顯セシ所ノ事情ハ、宗教歴史ノ考索家ノ共ニ能ク詳悉スル所ニシテ、爾來歐洲ノ迷溺心ハ、毫モ減少セシ所アルヲ見ズ、但其ノ方針ヲ變轉セシト云フヘキノミ、此ハ如キ情勢ニシテ、當時新入ノ基督宗教ハ、迷溺古宗教ノ敗壞セル所トナリ、偶像ノ崇拜ヲ發絶スルモ、之ニ換フルニ、使徒真人ノ崇拜ヲ創建シ、キルジノハ拜禮ハ變シテ、シビンノ拜禮トナリ、基督教ハ寺觀ニ於

テ異教ノ制式ヲ建設シ、獨リ異教ノ形態ヲ以テ、基督宗教ヲ假飾セシニ止ラズ、尚ホ其ノ教旨ハ如キモ、直ニ之ヲ剽竊シテ、之ヲ基督宗教ニ混同セリ、其ノ後又世代ハ經歷スルニ隨ツテ、基督宗教ノ容貌ハ全ク其ノ痕蹟ヲ削リ、其ノ嘉スヘク貴フヘキハ状態ハ蕩然去ツテ、其ハ影ヲ見ルト能ハザルニ至レリ、

又其ノ後數百年ヲ經テ、基督宗教徐々其ノ暗暝ノ雲霧ヲ掃ヒ、稍敗壞ノ容貌ヲ修シ、聊カ真正ノ光暉ヲ發揚セシトイヘドモ、歐洲最開明ノ諸國ニシテ、猶ホ此迷霧ノ間ニ彷徨シ、其ノ遮蔽ヲ蒙ル者許多ナリトス、然リ而ノ宗教迷溺ノ雲霧ヲ排シ、僅ニ其ノ改革ノ端緒ヲ發シタ

タルハ、乃チ歐洲人民ノ智慧ニ於テ幾許カ其ノ昏迷愚  
 惑ノ境界ヲ脱シ、開達上進ノ針路ニ就キシ徵候ト云、可  
 ナリ、人間智識ノ上進ニ隨ツテ、其ノ從前至善至美ナリ  
 ト稱セシ所ノ迷溺モ、漸ク之ヲ凌辱嫌忌シ、次第ニ其ノ  
 思念ヲ長シ、終ニ一千五百年代ニ及ンテ近世歴史中ニ  
 於テ、其ノ最モ著明ナル宗教革命ノ一大變亂ヲ提起ス  
 ルニ至レリ、然レモ今本論ニ於テ、余輩ハ專ラ推究スベ  
 キ所ハ、要點ハ、歐洲各國基督宗教ヲ以テ、其ノ國教ト定  
 立セ、以後夫尚ホ數百年間、其ノ各國人民孰レモ無智蠢  
 愚ニシテ、未ダ迷溺ノ區域ヲ脱却スル不能ハズ、且之ガ  
 為メニ、又基督宗教ニ於ケル固有單純ナル法式ヲ迎接

新舊教

執行スル不能ハズ、多ク其ノ法式ヲ變換毀壞シ、終ニ其  
 ハ宗教自然ノ成果ヲ結了スル能ハザル所ハ、原由ヲ探  
 討スルヲ以テ餘アリトス、  
 若シ能ク宗教歴史ヲ閱覽スルキハ、必宗教ノ思念ハ既  
 ニ之ニ先ツ所ノ智慧發達ノ事アラザル以上ハ、其ノ功  
 効ノ人民ニ裨益ヲ與フル者多カラザルノ例証ハ、每冊  
 處トシテ見ルベカラザル所ナカルベシ、而シテ其ノ最  
 モ較著ナル例証ヲ知ラント要セバ、新教宗徒ノ常ニ施  
 行セシ所ノ勢力ヲ以テ、其ノ舊教宗徒ノ勢力ニ對照セ  
 バ、必其ノ明瞭ナルヲ覺フヘシ、抑舊教ノ新教ニ於ケル  
 ハ、猶ホ黑暗世代ノ一千五百年代ニ於ケルカゴトシ、蓋

レ黑暗世代ニ在リテ、人民各無智亂信ナルヲ以テ、其ノ建設セレ所ノ宗教ハ、恫誠過大ニシテ智識甚狹隘ナリ、然ルニ已ニ一千五百年代ニ至リテハ、其ノ智識ハ依然タリト雖モ、之ヲ其ノ黑暗世代ニ比スレハ、智識ノ進歩稍著大ナルヲ以テ、宗教ニ於テモ亦時世ニ隨ツテ、之ガ構成ヲ變更セザルヲ得ズ、即チ其ノ宗教ヲ使テ、其ノ考究ヲ自由ナラシメ、又其ノ奇怪ヲ減セシメ、大ニ使徒聖人、及古典偶像ヲ省キ、又或ハ其ノ宗教ノ諸法式ノ煩雜ヲ除却シ、苦行齋戒求免禁娶等ノ如キ、古來普通尋常ノ事ト思惟スル所ノ諸種ノ苛虐ヲ省略節減セリ、是レ則チ新教ノ由テ起ル所以ニシテ、新教ニ於テハ、又此般ノ

歐洲諸邦ノ干涉

事項ヲ新造セリ、而シテ新教ノ主義ノ能ク其ノ時世ニ適合シ、其ノ傳播ノ迅速ナリシハ、皆世人ノ知ル所ニシテ、若シ當時此ノ新教ノ進動ヲシテ、毫モ之ヲ阻遏スルトナク、充分ニ其ノ威力ヲ擴張スルヲ得セシメバ、數世ノ經過ニ由ツテ、古來ノ迷溺ヲ掃蕩シ、之ニ替ルニ單純簡一ナル宗教ヲ蔓延シ、各國智慧ノ上進ト、共ニ駢シテ滯撓躊躇セサリシヤ必然ナリ、然ルニ不幸ニシテ、歐洲各邦ノ政府ハ、常ニ其ノ自己本分ノ責任ヲ、ザル所ハ諸事ニ干涉シ、宗教上ニ於ケルモ、其ノ人民ノ便益ヲ保護スルヲ以テ、專ラ政府ノ責任トナシ、且常ニ舊教宗徒ニカク合セ、屢舊教宗徒ハ為メニ其ノ異端ヲ防遏シ、



宗教ノ戰爭  
屠戮奇虐

以テ人智自然ハ發育ヲ禁止セリ、斯ハ如キ干涉ハ政府  
 往々陷リ易キ所ニシテ、其ハ本源ハ治者ハ才識乏クシ  
 テ、施政ハ權限ヲ知ラサルニ依ル者ナリ、而シテ此暗愚  
 ヲリ引起スル所ノ禍害ハ、皆明々瞭々ニシテ、今之ヲ文  
 飾セント欲スルモ、亦能ハサル所ナリ、中古歐洲ニ於テ、  
 宗教ニ起原スル所ノ戰爭、屠戮、苛虐等ノ爲メニ、禍害ヲ  
 蒙ルヲ殆ト百五十年ノ久シキヲ經ルト雖、其ノ屠戮  
 戰爭ハ、大概政府其ノ權限ヲ識了セザルニ由ル者ニシ  
 テ、若シ其ノ治者タル者ヲ使テ、人民各自ノ思念ニ干與  
 スベカラズ、尤宗教ノ信仰ハ、各自ノ所好ニ任セザルベ  
 カラズ、政府ハ固ヨリ之ヲ是非ス可キノ權利ヲ有セザ

ル所以ヲ悟ラシメバ、必斯ノ如キノ慘情ヲ演出セザル  
 ヤ明ラカナリ、然ルニ往時ハ其ノ主義未ダ世ニ出デス、  
 且曾テ之ニ著目ス可キノ才識ヲ有セス、漸ク一千六百  
 年代ノ中葉ニ至リテ、宗教ノ大爭亂、稍其ノ氣焰ヲ收メ、  
 各國自ラ其ノ公同ノ宗教ヲ定立シ、永遠之ヲ改變スル  
 一ナキヲ期セシヲ以テ、二百有餘年、復宗教紛紜ヨリ戰  
 闘屠戮ヲ提起セシ者ヲ見ス、蓋此間舊教奉崇ノ邦國ハ、  
 常ニ舊教ヲ奉信シ、新教ノ邦國モ亦同レク新教ヲ奉崇  
 シテ、各曾テ其ノ宗規ヲ變更セザルナリ、  
 是等ヲ以テ、之ヲ察スレバ、歐洲諸國ノ宗教改良ノ次序  
 ハ、天然ノ法則ニ由リテ進前セシ者ニアラズ、却リテ人

爲ヲ以テ天然ノ法則順序ヲ破壊セシメタル所以ヲ者  
出スルニ至ルベシ、故ニ當時若シ歐洲諸邦國ヲ使テ、具  
ニ天然ノ順序ヲ進前セシメバ、其ノ最開明ナル諸邦ハ、  
皆悉ク新教ヲ奉崇シ、半開諸邦ハ又必舊教ヲ奉崇セザ  
ルヲ得ズ、此ノ接近事理ノ眩惑ヲ以テ、古今人士動モスレ  
バ、近世社會ノ開明ハ、多ク新教宗徒ノ勢力ヲ以テ之ヲ  
陶鎔セシ者ナリト、其ノ謬見ヲ立ル者アリ、是レ全ク其  
ノ開明ノ進度ノ未ダ其ノ適度ニ達セザル以上ハ、新教  
亦其ノ功力ヲ施行スル一能ハザルノ理由ヲ了解セザ  
ルノ罪ト云フ可シ、夫レ事物進動ノ形状、若シ其ノ本然  
ノ順序ヲ過ラザルハ、宗教改革ノ狀勢ハ、便チ以テ智

宗教改革ノ  
狀勢

識進歩ノ尺度ト爲スニ足ルベシト雖、政府ノ權勢、寺  
觀ノ威力、時アリテ是レカ攪擾者トナルアリテ、其ノ宗  
教自然ノ順序ヲ違背セシムル一許多ナリトス、然ルニ  
ウキストハリヤ、盟約ニ於テ、歐洲政治ノ關係ヲ一定セ  
シヨリ、宗教爭論ノ熱心、頓ニ大ニ消退シ、各人自ラ其ノ  
宗教改革ノ爲メニ、貴重ノ光陰ヲ費シ、國教顛覆ノ爲メ  
ニ、天賦ノ性命ヲ危クスルガ如キハ、寔ニ其ノ至愚ノ舉  
タルヲ辨識スルニ至レリ、加之政府ハ、固ヨリ宗教ノ改  
革ヲ嫌忌スルヲ以テ、敢テ此ノ平和ノ狀勢ヲ幫助シテ、  
大ニ其ノ利害ニ注目セ、古來ノ干涉主義ヲ放擲シ、國教  
ハ孰レモ其ノ自由ニ任セ、新舊兩教共ニ敢テ其ノ優劣

取捨ヲナス一ナキニ及ベリ是レ寔ニ政府萬世ノ上策ニシテ余カ平生稱讚スル所ナリ斯ハ如キノ理由ナルヲ以テ現今各國ニ於テ尊崇信奉スル所ノ國教ハ以テ其ハ邦國現今ハ開明進步ハ尺度標準ト爲スニ足ラズ唯ニ其ノ國教ハ往時之ヲ定立セシ時世ハ國情ヲ表シ其ハ當時ハ發憤ニ停立シテ爾後更ニ一步ヲ動カサハル者ト云フベシ

以上四節ハ基督宗教歴史ノ上代ヲ以テ前論ヲ証明ス

以上論述シ來ル所ノ者ハ歐洲諸邦ノ宗教定立ノ本源ナリ然ルニ今其ノ實地成立ノ成績ヲ考察スルキハ余

各國立教ノ原目

佛蘭西及燕格蘭瑞典

輩ハ又將ニ別ニ大ニ得ル所アラントス抑各國自ラ其ノ國教ヲ定立スルヲ原目ハ各國其ノ歷世本然ノ情勢ニ由テ定ムル者ニアラズ唯ニ其ノ一二ノ有力者ノ權勢ニ因リテ恣ニ之ヲ定立セシ者ナルヲ以テ其ノ國教ヨリ成立スル所ノ結果ハ大抵其ノ當初企圖セシ者ノ外ニ出テ其ノ本意ヲ違スル者アルヲ見ズ蓋舊教ハ新教ニ比スレバ其ノ例宜ク迷溺多ク且峻峭嚴酷ナラザル可カラズト雖モ能ク其ノ實地ニ就テ之ヲ見レハ舊教ヲ奉崇スル所ノ邦國ハ未タ必シモ新教ヲ奉崇スル所ノ邦國ヨリモ迷溺嚴酷ナラザルナリ就中佛蘭西國人ノ如キハ他ノ開明諸邦ノ新教人民ニ比スレハ更ニ

差異ナキ者ノ如シト云ヘドモ、之ヲ蘇格蘭瑞典ノ新教  
人民ニ較スレバ、遙カニ其ノ兇惡性情ノ薄弱ナルヲ見  
ルヘシ、又蘇格蘭ノ僧侶、人民ハ、佛蘭西人民ニ比スレハ  
迷溺最モ深ク、固陋最モ甚シク、殊ニ異教他宗ヲ疾惡セ  
リ、是レ固ヨリ一般人民ニ就テ之ヲ論ズルノミ、高等人  
士亦同シク斯ノ如シト云フニアラザルナリ、瑞典國ハ  
歐洲ノ中ニ於テ、新教奉崇ノ舊國ナリト雖、亦屢舊教  
奉崇ノ邦國ノ為シ能ハザル所ノ峻酷苛虐ヲ醸出セリ、  
若シ此ノ峻酷苛虐ヲ使テ、人民各自其ノ宗教ヲ採擇ス  
ル所ノ邦國、即チ瑞典ノ如ク、國教ノ威力、強大ナラサル  
地方ニ現出セシメハ、亦益其ノ之ヲ嫌忌スルヲ見シ、

新教ノ舊教ニ優越スル所以

能ク右ノ事情ヲ見ルトキハ、人民一時ノ變動ニ依リテ、  
其ノ智識程度ニ超越スル所ノ宗教ヲ尊奉信守スル結  
果成績ハ、大体其望外ニ出テ、其ノ本意ニ歸セザル所以  
ヲ覺了スベシ、況ンヤ其ノ歸納ノ區域ヲ廣メ、詳細ニ之  
ヲ考察スルキハ、其ノ証明亦最モ容易ニシテ、且明瞭ナ  
ルニ至ルヘシ、夫レ新教ノ舊教ニ優越スル所以ハ、其ノ  
迷溺ト峻酷ヲ減少シ、能ク宗教ノ威力ヲ壓抑スルニ在  
リ、然ルニ余輩歐洲ノ實地ニ就テ之ヲ察スルニ、高尚ナ  
ル宗教ヲ祀リテ、若シ之ヲ野鄙ナル國民中ニ設立スル  
キハ、毎ニ其ノ高尚ノ本性ヲ失ハザルハナシ、蘇格蘭瑞  
典ノ國民、及瑞西中各地人民ノ如キハ、其ノ開明ノ程度

皆未ダ佛蘭西國民ニ及ハズシテ、其ノ迷溺モ亦常ニ強盛ナルヲ以テ、其ノ宗教ハ佛蘭西國ノ宗教ヨリモ高明深遠ナリト雖モ、之ニ由リテ其ノ得ル所ノ利益ハ、却リテ太々僅少ナリ、又三百年前ノ其ノ邦國人民ノ習慣ト、古傳口碑ノ勢力ハ、當時能ク其ノ人民ヲ使テ、其ノ宗教ヲ尊信セシメ、今日ニ至ルマデ、尚ホ之ヲ傳承セシムト雖モ、其ノ宗教ハ古今國運變遷ノ形勢ニ由リテ、利益ヲ邦家ニ與フルト太々少シ、若シ、蘇格蘭ニ來往シ、務メテ、其ノ國民ノ思想念慮ヲ考察シ、蘇格蘭ノ神學ヲ探見且其ノ寺觀ノ歴史ヲ繙トキ、又其ノ教會及法教審議ノ史衆ヲ閱覽スルキハ、蘇格蘭ニ於テハ、其ノ宗教ノ爲メ、其

宗教及人民ノ品位

ノ利益ヲ得ルコト甚少ク、又其ノ峻嚴苛酷ノ氣風太々強大ニシテ、天然新教改革ノ傾向ト、其ノ角度ノ甚々相遠隔スルヲ見シ、然ルニ今詳ニ佛蘭西國ノ形情ヲ探討スルキハ、元來其ノ宗教ノ性質ハ、慳吝ナルベク、且迷溺夥多ナルヘキ者ナリト雖モ、其人民ハ頗ル寛大ノ氣風ニ富ミ、迷溺ノ思念亦太々稀少ナリ、是レ他ナシ、佛蘭西國ニ在リテハ、宗教ノ品位、其ノ人民ノ品位ヨリモ低劣ナルナリ、又佛蘭西ノ寛大ハ、舊教ノ本質ニ允當セズ、蘇格蘭ノ固執ハ、新教ノ本質ニ適應セザルナリ、凡テ此ノ二國ニ於テ、人民ノ氣風常ニ宗教ノ本質ヲ鑠消シ、且其ノ之ヲ奉崇スル所ノ人民ニ於ケル

開明進步ノ程度ハ常ニ其ノ宗教ニ調和セザルヲ以テ、其ノ國教ノ過半ハ、毎ニ全ク無効ニ屬セルナリ、然ラハ、則チ世道ハ上進ヲ以テ、宗教ハ功績トナスハ、過大ノ謬見ニシテ、宗教能ク其ハ國民開化ハ程度ニ適應スルキハ固ヨリ政府ノ保監ヲ須ズシテ、其ハ昌盛ヲ致スベキナリ、之ニ反シテ其ハ人民開明ノ程度、其ハ宗教ニ適度セザルキハ假令幾多ノ保護ヲ加フトイヘトモ、曾テ其ハ功益ヲ奏セザル者ナリ、故ニ若シ政府ニシテ、務メテ斯ノ如キ宗教ヲ保護昌盛ナラシメントスルハ、獨リ痴呆ノ拙策ナルハ、ミニアラズ、亦更ニ至惡ノ政略ニ云ハルベカラズ、

文學ノ推究

以上四節ハ、瑞典、及蘇格蘭ヲ以テ前論ヲ証明ス、讀者若シ幸ニ余ガ前論ヲ記憶シ、其ノ主意精神ヲ把握スルコトヲ得ハ、其ノ第二ノ攪擾者ナル文學ニ就テハ、復更ニ余カ詳論審議待スレテ、前段宗教ニ關セシ所ノ論理ヲ移シテ、直ニ其ノ文學ノ推究ニ適用スヘキナリ、夫レ所謂文學ナル者ヲ使テ、若シ全ク自由健全ニシテ、毫モ其ノ本質ヲ毀傷セシメサル片ハ、文學ハ單ニ其ノ國民ノ智識ヲ兼載スル所ノ器ニシテ、且其ノ智識ヲ熔冶スル所ノ模型ナリ、而シテ此ノ文學ノ其ノ國民ニ於ケルハ、前文屢論述セシ如ク、一人一個ノ秀拔絶倫ニシテ、一世ノ平準ヲ超越スル者ナキニレモ非スト、雖モ、若シ其ノ

實施家及練  
智家

秀技少シク其ノ度ニ過クル片ハ、忽チ四方ノ非駁ヲ喚  
 起シ、大ニ其ノ度ヲ駛クトキハ、遂ニ敵人ノ為メニ攻撃  
 破壊セララル、ニ至者ナリ、凡テ實施者流ト、練智家ノ其  
 ノ間太夕隔離スル時ハ、練智家ハ其ノ勢力ヲ失墜シ、實  
 施家モ亦其ノ利益ヲ拋擲スヘシ、是等ノ形情ハ屢舊世  
 界中ニ於テ、其ノ人民蠢愚盲昧ニシテ、其ノ修練理學家  
 ヲ使テ、其ノ意匠ヲ行フニ餘地ナカラシメタル時場ニ  
 於テ、發顯スル所ナリ、即希臘羅馬ノ國民其ノ開化文明  
 ヲ維持スル一能ハス、唯一時其ノ邦國ノ華飾トナセシ  
 所以ハ、職トシテ是ニ之レ由ラザルハナシ、又現今日耳  
 曼ニ於テハ其ノ高妙ノ文學ハ、皆各自一家學ノ体裁ヲ

日耳曼ノ文  
學

書籍ノ用

成シ、一般其國民ニ干與セザルヲ以テ、其ノ文學ハ高尚  
 ナリト雖、其ノ一國ノ世道上進ニ於テハ、毫モ其ノ影  
 響ヲ生ゼザルカ爲ニ、其ノ文學ノ形勢ハ、更ニ宗教ノ風  
 樣ト異ナル處ヲ見ス、故ニ古來歐洲諸邦文學ニ由テ、廣  
 大ノ利益ヲ得シト雖、其利益ハ文學ニ由ツテ發生セ  
 シ者ヨリ來ルニアラズシテ、唯ニ其ノ文學ニ依ツテ保  
 存維持セシ所ノ者ヨリ生ゼシト云フベシ、夫ハ智識ハ  
 先ヅ之ヲ發見曉得スルハ、後チ始メテ之ヲ書冊ニ登錄  
 スル者ナレバ、則チ書籍ノ用ハ、唯ニ智慧ハ材料ヲ安全  
 ニ保持シ、其ノ需用ニ際シテ、便宜ニ之ニ應シ得ヘキ所  
 ハ、倉庫ハ類ニ外ナラザルナリ、又文學ハ武庫ハ如シ、其

ハ用ハ唯ニ人智ノ兵器ヲ藏シ有用ハ時ニ臨ンテ容易  
ニ之ヲ供フルハミニシテ其ハ實無價ノ物品ト云フベ  
シ然ルニ濫リニ文体句調等ハ末事ニ拘泥シ其ハ本主  
旨ヲ忘却シ兵器ヲ顧リミスシテ偏ニ其ハ武庫ヲ壯觀  
ナラシメ貯倉ヲ修飾セント欲シテ其ハ貯藏スル所ノ  
材品ヲ毀損スルニ至ル如キハ豈ニ拙劣ハ論辯家ト云  
ハザル可ケンヤ

然ルニ今古人士常ニ此ノ謬見ヲ抱カサル者ナク嘗テ  
文學士ノ言ヲ聽クニ多クハ自ラ文學ヲ贊シ又之カ保  
護説ヲナシ而メ其ノ骨肉精神タル所ノ自由ト壯氣ノ  
必用ヲ説ク者甚タ稀ナリ實ニ古來學士ノ景情ヲ察ス

真智識

ルニ皆無氣無力ニシテ獨リ其ノ智識上ノ利益ヲ振興  
増加セント欲スル者ナキノミナラズ甚レキハ智識ノ  
何ニ由ツテ構造シ得タルヤヲ解セル者アルニ似タリ  
夫レ世道ノ上進ヲ振興ス可キ所ノ真智識ナル者ハ惟  
思想ト事物ノ關係或ハ其ノ各自ノ間ニ起ル所ノ關係  
何如ヲ理會スルニ在リ即チ物理ト心理トノ二法則ヲ  
辨識スルニ在ルナリ若シ一タヒ此ノ二法則ヲ理解辨  
識スルノ時期ニ到達スルヲアルハ則チ人智ノ大体  
已ニ完全セシ者ト云フヘシ然ルニ世道上進ノ此ノ時  
期ニ達スル間ハ文學ハ惟其ノ諸法則ノ辨識ト其ノ諸  
法則ヲ發見ス可キ所ノ材料ノ間ニ立テ交通親和ヲ左



文學修練ノ  
目的

右スル者ニシテ、其ノ價格ハ、乃其ノ廣狹大小ニ在リト  
 稱スベシ、又世間教育ノ主務ハ專ラ此ノ諸法則ヲ辨識  
 理會セントスル所ノ大進動ヲ鼓舞シ、人ヲ使テ之ヲ為  
 スニ便宜ナラシムルト、其ノ之ヲ好ムノ思念ヲ熾盛ト  
 ラシムルノ幫助ヲ増加スルニ在リ、此ノ如キ目的ヲ以  
 テ、文學ヲ修練スレバ、其ノ利用ハ實ニ廣大ナルベシト  
 雖モ、若シ此ノ文學ヲ以テ、人世教育ノ諸學科中ノ一門  
 流ニ位セシメ、之ヲ修練セント欲スルハ、則事物ノ順序  
 ヲ混亂スル者ニシテ、又有益最良ノ器具ヲ使テ、卑賤無  
 用ニ屬セシムルモノト云フベシ、右ノ如ク其ノ用途ヲ  
 誤ルヲ屢ナルヲ以テ、余輩、今世哲家大家ト稱セラレ、

文學ハ思想  
ノ倉庫

者ヲ見ルニ、其ノ智識ハ其ノ教育ノ活潑ナルガ爲メニ、  
 却リテ大ニ阻攔セラレ、者アリ、又其ノ人士ハ、其ノ修  
 練ニ由リテ、自己ノ偏私ヲ解散スルヲ能ハズ、反リテ之  
 レガ爲メニ、其ノ偏私ヲ使テ、益固陋技ヲ能ハザルニ至  
 ラレムル者アリ、蓋シ文學ハ、人間思想ノ倉庫タルヲ以  
 テ、其ノ貯藏スル所ノ者ハ、獨リ本然ノ智慧ノミナラズ、  
 其ノ間亦數多ノ怪異背理ノ事アルヲ免カレズ、故ニ文  
 學ニ由リテ生スル所ノ利益ハ、文學自家ヨリ生スル者  
 ニアラス、又其ノ之ヲ修練スル所ノ巧拙ト、其ノ撰擇ノ  
 當否何如ニモアラサルナリ、以上述ルカ如キハ、文學本  
 然ノ旨趣ニシテ、若シ之ニ違フキハ、一國ノ書籍ハ何如

ニ饒多ニシテ且美良ナリト雖凡其ノ書ハ即チ書籍本  
然ノ利用ヲ離脱スル者ニシテ全ク無用無價ノ物料ナ  
リト云ハザルヘカラス古來開明最進ノ邦國ニシテ其  
ノ常ニ修練スル所ノ文學ハ却リテ昔時ノ偏私ヲ愛養  
シ之ヲ撰擇スルカ如キ者アリ此等ノ邦國ニ在リテハ  
其ノ文學修練ノ結果ナル者ハ唯ニ古代ノ謬妄ヲ確實  
ナラシメ又古代ノ迷溺ヲ鞏固ナラシムル者ニシテ其  
ノ形狀ハ今日現ニ其ノ例ニ乏シカラス其ノ勤學修練  
ハ唯ニ人ヲ使テ無智ニ墮落セシムルノ具ニシテ其ノ  
修練愈深切ナレハ其ノ智識愈淺少ニ赴クハ余輩屢目  
擊實視スル所ナリ又或ハ其ノ社會ノ形狀ニ隨ヒ此ノ

弊風太夕普通ニシテ其ノ文學ハ常ニ其ノ利用ヲ呈ス  
ルヨリモ却リテ禍害ヲ社會ニ蒙ラシムルヲ許多ナル  
者アリ例セハ紀元五百年代ヨリ其ノ九百年ニ至ルマ  
テ其ノ間全歐洲ニ在リテ古來ノ弊風ヲ着破シ能ク自  
家ノ見識ヲ定立セシモノハ僅々三四輩ニ過サルナリ  
而シテ其ノ三四輩ノ如キモ其ノ言論尚ホ曖昧糝稜ニ  
シテ多クハ奇異ノ言詞ヲ以テ其ノ旨意ヲ遮蔽セリ其  
ノ他一般社會ニ至リテハ遙々四百年間全ク無智ノ境  
界ニ放下セラレテ終ニ早屈賤陋ノ地ヲ脱スルヲ能ハ  
ズ大勢斯ノ如ナルヲ以テ其ノ間或ハ勤學ニ適スヘキ  
者ハキニシモ非スト雖モ其修練考究スル所ハ書籍ハ

使徒聖人の古典ニアラザレバ、必師父ノ勸戒ニシテ、其ハ謬妄迷溺ヲ使テ、強盛鞏固ナラシムルニ足ルヘキ者ハミ、故ニ當時ノ著作ハ、孰レモ昔時專ラ流行セシ所ハ神學書ニシテ、荒唐妄誕ハ、喻言小説ニ外ナラス、而シテ此等ノ怪談妄説ハ、普ク世界ニ蔓延シ、遂ニ貴重眞實ナル一大道理ト信用セラレ、ヲ以テ、世人其ノ文學ヲ修練スルト愈密ニシテ、其ノ説話ヲ信スルト愈深ク、讀書愈深ケレハ、蠢愚益大ナルニ至レリ、故ニ余ハ常ニ以爲ラク、若シ紀元第六百年代及第七百年代ノ間ニ在リテ、歐洲ヲ使テ、幸ニ其ノ文字ノ智識ヲ撲滅シ、各人決シテ其ノ快暢適意ナル一書冊ヲ誦讀セシメ、サラシメハ、歐

希臘羅馬文學

洲今日ノ開明ハ、爾來駁々進歩シ來ルヨリ、モ、尙未一層ハ迅速ヲ加フヘシ、抑歐洲世道ノ上進、始メテ途ニ就クニ及ヒ、先ツ發顯セシ所ノ抗敵ハ、嘗テ文學ノ愛撫撫育セシ所ノ謬妄亂信ナリ、此時ニ當リ、間或ハ善良ノ書冊ナキニシモ、アラスト雖及、其ノ書冊ハ、惟ニ其ノ固有ノ眞味ヲ亡滅消散セシ者ナリ、希臘羅馬ノ文學ノ如キハ、皆僧侶門徒ノ保護ニ由リテ存留シ、尚ホ屢僧侶ノ校閱騰寫ヲ經サル者ナシ、豈當時僧侶門徒ノ誦讀者ニシテ、文學ノ爲メ能ク毫末ノ利益ヲ興シ得ル者アラシヤ、彼ノ僧侶ノ如キハ、獨リ上代記者ノ功績ヲ玩味シ能ハサルノミナラス、又其ノ詞理ノ佳處ヲ覺ルニ至ラス、却リ

テ文學人士ノ勇敢ナル其ノ考索ニ戰慄セサルヲ得ス  
斯ハ如クニシテ、一タビ文學光輝ハ灼々タルヲ觀覽ス  
ルキハ其ハ自己ハ視カハ其ハ外教記者ハ筆勢ニ眩暈  
シ其ハ一葉ヲ轉スル毎ニ戰々競々トシテ、恰モ深淵ニ  
臨ムカ如ク之レカ為メニ或ハ彼徒平素ハ修メ得シ所  
ハ思念ヲ誘惑セラレ、速ニ自家ヲ使テ、日夜罪惡ノ境界  
ニ墮落セシメントスルハ畏懼ヲ抱カサル者ナシ故ニ  
彼ハ徒ハ務メテ秀麗英華ハ章句ヲ刪除シ之ニ換ハル  
ニ鄙野拙劣ハ文字ヲ點綴シ以テ古文ハ風致ヲ減殺シ  
其謬妄亂信ヲ増加シ其ハ過失ヲ多クシ又從前散逸セ  
ル迷溺謬妄ハ斷編殘帙ヲ蒐輯シ以テ繕閱追索ニ便シ

文學人民ノ  
品質

其ハ勢カヲ永遠ニ傳ヘ後世遠裔ハ理會カヲ撓シ大ニ  
歐洲人民ヲ使テ蠢愚脫離ハ期會ヲ阻滯遲緩ナラシメ  
タリ

又當時人民ノ修練セシ所ノ文學ハ之ヲ其ノ修練スル  
所ノ人民ノ品質ニ比較スル片ハ其ノ品質太々賤劣ナ  
ルト已ニ前章ニ於テ陳述スル所ト同一理ニシテ畢竟  
保護監督者ノ其ノ人ニ乏シキニ由ラサルハナシ實ニ  
暗黒時代ノ如モ亦貴重緊要ナル資料ヲ含有スル所ノ  
文學ノ曾テ之レナキニシモアラスト雖氏唯ニ之ヲ利  
用スル所ノ法術何如ヲ解セサルナリ蓋シ羅典語ハ其  
ノ暗黒世代ニ遷ルノ後數世ノ間尚ホ土音ノ訛傳ニ存

羅典語

留セシヲ以テ、若シ之ヲ修練セント欲セハ、其ノ大家學士ノ書典ノ如キモ、亦能ク之ヲ考究シ得ヘキナリ、然ルニ斯ノ考究ハ大ニ當時社會ノ形勢ニ於テ、其ノ實地ノ事情ト相背馳セサルヲ得ス、何トナレハ大抵練智ノ徒ト雖モ、其ノ當時ノ形勢ニ壓倒セラレ、其ノ功名ノ標準ハ、之ヲ其ノ一世ニ於テ普通ニ行ハル、所ノ標準ニ由リテ、定立セサルヲ得サル者ニシテ、其ノ當世ノ標準ニ隨フ片ハ、寧鍛鍊功ヲ峻フルノ黄金ヲ捨テ、碌々用ナキノ鑛塊ヲ取ラサルヲ得ス、故ニ彼輩多クハ黄金ヲ顧リミスレテ、鑛塊ヲ聚積セリ、而メ此ノ弊風ハ今日ニ至リ、尚ホ社會ニ流傳シ、毎ニ文學中ニ於テ、真味太々乏少ニ

新思想新發明

シテ虚味太々許多ナリトス、然ラハ則文學ニ由リテ生スル所ノ結果ハ、其ノ優劣主トシテ、虚味ヲ揮發シテ、真味ヲ分別スルノ功拙何如ニアリトスヘシ、抑古今新思想。新發明ノ發顯ハ、必其ノ前其ノ猛威暴勢ヲ逞セシ所ノ虚飾浮妄ヲ減少スト雖モ、其ノ思想ノ世人ニ用ヒラレズ、其ノ發明ノ社會ニ行ナハレサル間ハ、其ノ思想發明ハ、毫末ノ勢力ヲ有セズ、亦毫末ノ利用ヲ社會ニ施ススル能ハサル者ナリ、文學ニ於ケルモ亦同一ニシテ、其ノ主旨前ニ論首ニ於テ概説セシ所ノ者ニ適應セサル片ハ、此文學ハ、曾テ社會人民ヲ利益スルヲ能ハス、是等ノ理義論辯ハ、已ニ宗教ノ一段ニ於テ、之ヲ詳悉シテ復

餘蘊アルナケレハ、今又重テ之ヲ贅セズ、若シ一國ハ  
宗教文學ナル者、當時國民ノ需求ニ適應セサルハ、文  
學ハ輕蔑セラレ、宗教ハ賤惡セラレテ、到底無用無功ニ  
屬スル者ナリ、故ニ社會ノ形勢此ノ境域ニ在ルハ、  
何如ニ至良ノ典籍ナルモ之ニ眼光ヲ注ク者ナク、何如  
ニ至善ノ教旨ト雖モ之ニ心思ヲ止ムル者ナク、遂ニ典  
籍ハ蠹魚ノ巢窟ト為リ、宗教ハ敗壞スル所ト為  
ラサルハナリ

以上三節ハ、社會ノ上進ニ關係スル所ノ文學ノ勢  
力ヲ論ス、

歐洲開明上  
進ノ本源

余ハ、今將ニ歐洲開明上進ノ本源ハ、大抵其ノ諸政府ノ

曾テ發揮セシ所ノ才幹ト、及其賢明ヲ以テ、舊來ノ諸法  
則ヲ改良シ、社會ノ諸患害ヲ贖得退却セシ所ノ功效ヲ  
辨明セントス、然ルニ若シ歐洲歴史ノ通説ニ遵ツテ、始  
メテ余カ此ノ意見ヲ聽クハ、恐クハ余ヲ以テ荒唐無  
稽ノ言論ヲナス者トシ、襟ヲ正クシテ之カ駁撃ヲナサ  
ルヘシ、寔ニ古來社會ノ諸通説ニ於テ、未ダ曾テ此ノ  
音見ノ如ク、奇異變幻ナル者ヲ見サレバ、其ノ驚怪亦其  
ノ謂ナキニアラサルナリ、然リト雖モ、余輩亦自ラ其ハ  
説アルナリ、夫ハ一國ノ執政家ナル者ハ、凡テ一般普通  
ハ形勢ニ於テ、其ノ國土ニ於テ、其ノ相伍スル所ハ國  
民ト同一、其ハ文學ニ養成セラレ、同一、其ハ古傳ニ薰陶

執政家受造物

セラレ亦其ハ同一ハ偏私ニ呼吸スルト明ラカナリ故  
 ニ執政家ハ當時最上至極ト稱道スル所ハ一世ハ風氣  
 ニ鑄造セラルハ受造物ニシテ一世ヲ鑄造スル所ハ創  
 造物者ニハアラサルナリ然ラハ則其ハ國執政家ハ施  
 行スル所ハ措置ハ一國社會進動ハ成果ニシテ亦決シ  
 テ社會進動ハ原因タラザルヤ明ラカナリ是ノ如キ道  
 理ハ歴史學者ノ常ニ自得スル者ニシテ獨リ臆想ヲ以  
 テ之ヲ判定スルヲ須ヒス亦其ノ實地ヲ以テ之ヲ証明  
 シ得ヘキナリ蓋シ何ノ國ヲ問ハス其ノ立法上及ヒ行  
 法上ニ於ケル所ノ大革命又ハ大變更ノ起ルヲアルモ  
 其ノ革命變更ハ嘗テ其ノ國執政家ノ思念ニ因縁スル

新議論

者ニアラス其ノ起原ハ必勇敢有為ノ賢哲學士ニシテ  
 其ノ才識ハ能ク一世ノ惡俗ヲ洞見シ之ヲ鼓舞シテ之  
 カ挽回匡正ノ策略ヲ畫示スル所ノ俊傑ナラサルハナ  
 シ然ルニ古今社會ニ發顯スル新議論ハ最開明ノ政府  
 ト雖氏直ニ其ノ匡正ノ策略ヲ施行スル能ハザル者ニ  
 シテ大略從前ノ惡俗ヲ扶持シ意ヲ其ノ挽回ニ注カス  
 而シテ形勢月ニ迫リ刺衝日ニ甚シク其ノ勢抗スヘカラ  
 ザルニ及ンテ一朝其ノ好機會ニ投シ之ヲ舉行スト雖  
 モ其ノ實中心悦テ之ニ服從スルニアラザルナリ然ルニ  
 其ノ革命變更ノ計策其ノ完全ヲ盡スノ後ニ至リテハ  
 其ノ功績ハ全ク其ノ計策ヲ使用セシ所ノ執政家ノ聰

英蘭文明史 第五卷 卷五

明ニ舉ルヲ以テ、國民タル者ハ、亦其ノ功績聰明ヲ稱美セザルヲ得ズ、是等ハ則政治進路ノ形情ニノ能ク古來各國智識ノ進動ヲ視察シ、能ク古來各國ノ律書ヲ考究フル所ノ者ハ、亦容易ニ了解シ得ヘキナリ、

以上一節ハ、社會ノ上進ニ關係スル所ノ政府ノ勢カヲ論ズ

右議論ニ就テ、其ノ確實完全ナル証明ハ、本史編纂ノ次序ヲ追ヒ、尚ホ詳カニ之ヲ辯論陳述ス可シト雖モ、先ツ其ノ方法ヲ示サシカ為ノニ、茲ニ我英國歴史ニ發顯シタル、千八百年間ノ最大事件ノ一ニ位スヘキ輸穀律廢止ノ顛末ヲ引用セントス、夫レ輸穀律廢止ノ其ノ時勢

輸穀律

輸穀律抗論

ニ適シ、且理ノ必然ナルハ、今日中才人士モ亦能ク識認許諾スル所ナリ、而メ今此ノ廢止ハ、何ニ於テ起原スルヤノ問題ヲ起スルハ、少ク我邦ノ歴史ニ習熟スル所ノ國人ハ、將ニ必言ハントス、是レ我英國議院ノ卓見ニ出ル者ナリト、又尚ホ一層深奥ノ見識ヲ有スル者ハ、是レ其ノ廢止ハ、主トシテ輸穀律抗論黨ノ勢力ニ由リ、此レニ亞ク者ハ、其ノ議論ヲ以テ政府ニ責迫セシ所ノ威力ニ由ル者ナリト、然ルニ能ク竊ニ其ノ大問題ノ曾テ經歷セシ所ノ沿革ヲ考察スルハ、其ノ輸穀律廢止ニ關シテ、我英國行政官、立法官、及輸穀律抗論黨ノ三者ハ、惟冥々中ニ在リテ、自カラ協同有勢ノ一大器具トナリ、其



ノ他諸般ノ勢力ヲ振起シテ、其ノ廢止ヲ獎勵セシ所以  
 ノ者タルヲ發見スヘシ、然リ而シテ此ノ三者ハ、殆ト一  
 百年前ノ舊時、俊士才人ノ首唱ニシテ、其輿論成育ノ標  
 章ナリ、今此ノ大進歩ノ論述ハ、姑ク之ヲ他日ニ譲リ、余  
 ハ此處ニ於テ、一事宜ク論辨セサルヘカラサル者アリ、  
 請遂ニ之ヲ述ヘシ、千七百年代ノ中葉以後ニ當リテ、經  
 濟學士ノ證明ニ由リ、保護稅ノ貿易上ニ於テ、一大背理  
 タル緣由ヲ發覺シ、能ク經濟學士ノ論旨ヲ會得シ、能ク  
 之ニ關スル所ノ証左ヲ收領スル者ハ、皆競ツテ之ヲ贊  
 成スルニ至レリ、是ヨリ以來、輸稅律ノ廢止ハ、獨リ抗論  
 黨派ハ論ナク、社會ノ便宜ニ於テ、均シク緊要ノ事項タ

經濟學士ノ  
 證明

ルノミナラス、智慧上ヨリ之ヲ論スルモ、亦至要ノ論點  
 トナリ、暗愚迂濶ノ人士ヲ除クノ外、皆悉ク其ノ不理ヲ  
 稱ヘ、其ノ廢止ヲ促カセリ、故ニ人民ノ智識、其ノ實際ノ  
 利害ニ詳悉ナルトキハ、其ノ勢、不良不正ノ法律ハ、自カ  
 ラ廢止ニ就カサルヲ得ズ、而シテ廣ク其ノ實際ヲ社會ニ  
 報告セシ者ハ、抗論黨派ノ功績ニシテ、其ノ實地ニ服從  
 セシ者ハ、議院ノ力ナリ、然リト雖モ、抗論黨ト、議院ハ、議  
 士ハ、惟能ク其ハ目的ヲ達セシムルニハ、其ハ功績  
 ハ、全ク社會知識ハ、上進ニ成リ、既ニ止テ得サルハ、勢ニ  
 逼ル者ヲ使テ、僅ニ其ハ進動ヲ急遽ハテシムルニ過  
 キサルナリ、試シニ其ハ輩ヲ使テ、其ハ百年以前ニ出テ

シハバ其ハ時世ハ進度未タ、此輩議士ハ見識ニ達セズ  
 シテ、毫モ其ハ議論ハ効驗ヲ顯ハサ、ルヤ必然ナリ、故  
 ニ此ハ議士輩ハ其ハ生前ハ時世ニ在リテ、先人ハ已ニ  
 發言論辨セシ所ハ論議ハ進動ニ由ツテ、生後薰陶セラ  
 ンタル受造者ニシテ、其ハ至大ハ功績ト稱スル所ハ者  
 モ、先人既定ハ論理ヲ承傳シ之ヲ實地ニ施行セシ者ニ  
 外ナラス、到底其ハ議論ハ其ハ先輩師父ヨリ教授セラ  
 レシ所ハ語氣ヲ暗シ之ヲ一層高聲ニ復讀セシ者ト云  
 フ可キナリ、

上下議院ノ  
發論建議

抑上下議院ノ發論建議ヲ以テ、英吉利王國ノ各部ニ施  
 行セシ所ノ新策妙案ニシテ、立法議官自個ノ意見ニ出

改新論者

テタル者ナキハ、彼輩亦自カラ知ル所ナリ、必ヤ其ノ論  
 議ハ已ニ數年來社會間ニ發顯シ、漸次其ノ体裁ヲ構成  
 シ、舊時ノ弊風ヲ掃蕩シ、其ノ同氣ヲ教興セシ所ノ者ナ  
 リ、今時我邦ノ改新論者ト稱スル代議士ノ如キモ、猶ホ  
 其溪流ニ汎々スル者ニシテ、其ノ維持扶植シ能ハザル  
 所ノ論議ヲ固執シ其ノ自家從前舉行セシ所ノ措置ヲ  
 見テ、過失謬誤タルヲ悟了スル者ナキカ如シ、最モ是等  
 改新論者ノ謬見ヲ以テ、常ニ排擊抗論スルモノ、其ノ數  
 許多ナリト雖モ、就中自由貿易論ヲ不可視スル如キハ、  
 其ノ最モ甚シキモノニシテ、其ノ最モ害アルモノナリ、  
 夫レ自由貿易ノ主義ハ、已ニ一百年間道理ノ大統連綿

自由貿易ノ  
主義

英國文獻史 第五卷

トシテ繼承シ、其ノ議論ノ根據、真確動スヘカラサルヤ  
 殆ント數理ノ定規ト一般ナリ、然ルニ改新論者ハ、尚龜  
 勉之ヲ抗絶セントスルニ似タルハ、獨リ政府官吏ノ智  
 識進步ニ於テ、逡巡趨起ナルヲ証スルノミナラス、又永  
 ク之ヲ以テ、立法諸員ノ無智短見ヲ証明スルニ足ル者  
 ト云フ可シ、又其ノ期望請願者ハ、國民ニシテ且之ヲ許  
 容スルノ緊要ナルハ、大家哲學已ニ二三前代ヨリ特ニ  
 明ニ論証セシ事項ト雖モ、大抵上下議院ノ例トシテ、之  
 ヲ一般ニ施行スルニ議決スルハ、非常ノ困難ニシテ、今  
 古未タ此ノ阻遏妨害ニ逢遭セスシテ、能ク其ノ功績ヲ  
 奏スル者ヲ見サルナリ、

輸穀律

改正議  
條例

余ノ斯ク輸穀律ヲ引用シテ、以テ前論ヲ証明セシ所以  
 ハ、此ノ律ノ廢止ニ關係スル所ノ事實皆ナ明瞭ニシテ、  
 現今余輩ノ記憶中ニ於テ、亦最モ接近新奇ナルヲ以テ  
 ナリ、蓋シ英國上下議院ニ於テ、議決セシ所ノ大事件ノ  
 中、改正議負撰舉條例ノ一事ヲ除クハ、此ノ輸穀律廢  
 止ノ事ヲ以テ最大ナリトス、而シテ其ノ議決ニ至ル順  
 序ハ、改正議負撰舉條例ノ議論ト同一外部ノ壓逼ヲ以  
 テ、強テ議士諸員ノ見識ヲ撓屈セシハ、當時既ニ明白  
 ニシテ、後來永ク記憶セザル可カラサルノ要件ナリ、且  
 之ヲ聞ク議院議士ノ輸穀律廢止ヲ議決許准セシハ、曾  
 テ快活好意ヲ以テ、之ヲ爲セシニアラズ、唯ニ畏懼戰慄

ノ思念ヨリ出タル者ナリト、又當時其ノ之ヲ議決許准  
セシ所ノ議員ハ、皆盡ク終生其ノ説ニ抗抵セシ所ノ人  
士ニシテ、忽然從前偏私ノ持論ヲ屈撓シ、遽ニ輿論ヲ代  
言シ、之ヲ許准セシ者タルヲ知ラサルヘカラス、斯クノ  
如キハ、輸穀律廢止ノ大略ニシテ、其ノ他、近世議院歴史  
ノ期節ニ列舉ス可キ所ノ緊要重大ノ事項ニシテ、其ノ  
顛末皆之ニ類似セザル者アラザルナリ、

以上二節ハ、輸穀律ノ廢止ヲ以テ前論ヲ証明ス、  
尚ホ茲ニ歐洲諸邦ノ開明ハ、大概其ノ政府施行ノ處置  
ニ由リテ上進セシ者ト、妄信政府家ヲ使テ、忽然驚醒セ  
シムルニ足ルヘキ一例アリ、何ソヤ、余曩古今歐洲諸邦

ニ於テ、奏功成就セシ所ノ諸大改革ヲ察スルニ、必新策  
新略ヲ創行スルニ在ラスシテ、多クハ古來襲傳ノ弊風  
謬政ヲ改良發棄スルニ在ラサルナシ蓋シ古來立法ノ  
添刪、其ノ舉太數多ナリト雖モ、其ノ最モ貴重スヘキ者  
ハ、毎ニ舊來ノ立法ヲ破毀刪除スルニ在リ、且古來制定  
スル所ニシテ、最良ノ法律ト稱スヘキ者ハ、必古法ヲ廢  
替ス可キ所ノ法律タラサルハナシ、前節已ニ論辯セシ  
如ク、輸穀律ノ如キモ、畢竟古法ヲ廢止シテ、其ノ貿易ヲ  
自由ナラシメシニ外ナラサルナリ、故ニ此ノ大改革ヲ  
實施執行セシ今日ニ至リテ、能ク其ノ爲ニ來リシ所ノ  
者ヲ顧リミレハ、其ノ成果ハ唯貿易ノ地位ヲ使テ、立法

官吏カ其ノ干涉主義ヲ施行セサル所ノ以前ニ挽回セ  
シニ過ザルナリ。此ノ外近世立法上ノ大改革ト稱ス可  
キ者ニ就テ、能ク其ノ事情ヲ考察スル片ハ、皆此ノ論議  
ニ外ル、一ナシ、則宗教苛虐ノ減少等ハ、現ニ其ノ適例  
ト稱スヘシ、方今尚ホ開明諸邦ニシテ、此ノ主義未タ全  
ク透徹セサル者アリト雖モ、是レ明ラカニ重大緊要ノ  
賞賜ト云ハザルヲ得ス、然ルニ此ノ薦讓屈退ノ由テ起  
ル所以ノ者ハ、全ク立法者流ノ自カラ、今古ノ進動及措  
置ヲ回顧シ、其舊軌ヲ廢却セシニ由ルヤ亦知ルヘキ  
ナリ、故ニ吾輩試ミニ能ク最モ寬仁ニシテ、且最モ開明  
ナル諸邦國ノ政略ヲ察スル片ハ、其ノ變更進行セシ所

ノ順序ハ、必上文ノ軌轍ニ差ハサルモノヲ見ルヘシ、方  
今立法ノ要務ト、其ノ志向ハ、古來立法家ノ無智盲昧ニ  
由テ、事物ノ進行ヲ屈曲セシ者ヲ擧ケテ、務メテ之ヲ其  
ノ本然ノ流溪ニ回復セシメントスルニ在リ、果シテ能  
ク之レヲ改作調査シ得ル者アレハ、誠ニ重大無上ノ恩  
人ニシテ、吾人至厚ノ感謝ニ慙チサル者ト云フヘキナ  
リ、然ルニ、余輩今一個一人ノ立法家ニ對スル片ハ、斯ク  
ノ加ク之ヲ感謝ス可シト雖モ、若シ立法家全体ノ社會  
ニ就テ之ヲ考フル片ハ、余輩又毫モ之ヲ感謝ス可キノ恩  
義ヲ有セザルナリ、凡ソ立法ニ於テ最モ貴尊ス可キノ所  
ノ改良ハ、毎ニ舊法ヲ破毀傾覆スルニ在ルヲ以テ、其ノ

傳統社會

社會ヲ一視平均スルハ更ニ其ノ善策良案ノ何タルヲ見サルナリ抑モ世道上進ノ功烈ハ傳統社會ニ於テ祖先曾テ社會ノ為メニ重大非常ノ禍害ヲ醸シ子孫幸ニ其ノ策略ヲ改革シ其ノ禍害ヲ匡正シ漸ク社會ノ進行ヲ使テ其ノ本然ノ溪流ニ回復セシメ子孫自カラ以テ已レハ功トシ社會亦隨テ之ヲ恩主恩人ト奉戴感喜スルカ如キ無識族黨ノ能ク與リ得ル所ニアラサルナリ

以上一節ハ至良ノ改革ハ舊法ヲ破毀スルニ在ルヲ論ス

行政社會ノ干渉

行政社會ノ干渉ニ於テ其ノ蔓延ノ廣大ト其ノ過失ノ

強盛ナルハ寔ニ識者ノ思想外ニ出テタリ然ルニ其ノ過失干渉ノ彼ノ如ク廣大強盛ナルノ間ニ在リテ世道開明ノ進度斯ノ如キノ程度ニ達シ得タルハ亦識者ノ共ニ驚嘆スル所ナリ而シテ歐羅巴洲中二三邦國又此ノ過失干渉ノ為メニ大ニ其ノ世道上進ヲ抑止セラレシ者アリ我英國ノ如キハ余カ節々論辨セシ如ク數百年間高等社會ノ推勢ハ却テ一般社會ノ推勢ニ及ハスト雖モ尚ホ干渉過失ヨリ我國歴史ノ中ニ於テ慘然タル章款ヲ編述セシムルニ及ヘリ此等禍害ノ列擧ハ即チ我英國立法ノ歴史ニシテ惟其ノ議論禁制廢立或ハ誅責刑罰ニ關スル所ノ條款ヲ除却スルハ其ノ他諸

今時ノ開明  
進歩

條款ハ總テ之ヲ失錯過誤ナリト云フモ敢テ失言ニア  
 ラザルヘシ、故ニ其ノ事理最モ明瞭ニシテ、元來立法家  
 ノ爭論ヲ要セザル所ノ者ヲ除ケハ、世ノ重要ト稱スヘ  
 キ者ハ、立法家ノ之ヲ保護セント欲スル為メニ、却リテ  
 其ノ損害ヲ蒙ラシメシヤ明ラカナリ抑モ今時ノ開明  
 進歩ハ、其ノ源流多端ナリト雖モ、就中貿易ノ如ク、至重  
 緊要ナル者ハ、之レアラサルヘシ、蓋シ通商貿易ハ、古今  
 万般ノ事頂ニ超過シテ、其ノ蔓延興張ニ隨テ、人生ノ幸  
 福快樂ヲ増加セリ、歐洲當時諸政府ノ通商貿易ニ關涉  
 スル諸規則ヲ設立スルヲ察スルニ、其ノ本旨ハ、必貿易  
 ヲ墜倒シ、商買ヲ顛覆セント欲スル者ノ如クニシテ、國

民ノ勉力作業ヲ使テ、其ノ自家本然ノ進路ヲ失ハシメ、  
 百方之ヲ利セントスル所ノ意ヲ以テ、續々法例ノ條款  
 ヲ増加シ、却リテ商業上ニ於テ、其ノ本意ニアラザル所  
 ノ禍害ヲ引出スル者亦過多ナリトセス、是ノ禍害妨碍  
 ハ、甚タ疾惡嫌忌スヘキ者ニシテ、我英國ノ如キハ、僅ニ  
 其ノ干涉主義ノ諸法例ヲ刪去セシヲ以テ、二十年来貿  
 易上ノ繁昌ヲ使テ、萬邦ニ冠絶セシムルノ美ヲ見ルニ  
 至レリ、夫レ古來通商貿易上ニ關セシ所ノ法則ハ、今日  
 廢棄セシト否トニ關ラス、能ク之ヲ熟察追考スル片ハ、  
 實ニ驚嘆スルニ堪タル者多シ、古今歐洲諸邦ノ商律治  
 革ハ、皆之ヲ以テ其ノ邦ノ通商貿易ノ勢力ヲ挫折妨碍

セシ所ノ計策ト稱スヘキ者ノミ、寔ニ方今此ノ謬誤ヲ洞見セシ所ノ諸邦國ハ、皆爭テ其ノ舊説ヲ變更シ、相共ニ謂テ曰ク、若シ從前干涉主義ノ繁劇ニシテ、密賣走私ノ事ナカラシメハ、諸邦ノ貿易ハ行ハル、ニ地ナク、全ク其ノ痕蹟ヲ滅絶スルニ至レルヤ必セリト、此ノ論議ハ殆ント奇怪信ス可カラサル者ノ如シト雖モ、實際曾テ通商貿易ノ大ニ衰微ヲ極メシ所以ト、側ラ其ノ干涉ノ勢力盛ニシ其ノ妨害ヲ致セシ所ノ景況ヲ熟察スル者ハ、毫モ之ヲ異議スル者アルヲ見ス、蓋シ往時ニ在ツテハ、通商貿易上ニ於テ、政府ノ干涉ハ、時トシテ處トシテ到ラサルナク、輸出上ニハ、必征アリ、衰微振ハサル

所ノ商賈ハ、之ヲ折毀均一ナラシムルノ重税アリ、或ハ此ノ職業ヲ禁シ、或ハ彼ノ職業ヲ昌盛ナラシメ、或ハ此ノ商品ハ、彼ノ殖民地地方ノ産物ナルヲ以テ、此ノ國土ニ移植耕耘スヘカラサルノ禁アリ、或ハ此ノ物品ハ、此ノ國土ニ耕耘スルモ可ナリ、又此處ニ齎シ来ルモ可ナリ、然レモ再ヒ之ヲ販賣ス可ラサルノ制アリ、又或ハ彼此ノ物品ハ、之ヲ齎来シテ、之ヲ販賣スルモ可ナリト雖モ、重ネテ之ヲ國外ニ輸出ス可カラサルノ法アリ、加之當時ニ在リテハ、雇錢ヲ限り、物價ヲ平均シ、贏錢ヲ制定シ、金利ヲ制限セル等ノ法律アリ、亦一種最モ苛酷ナル海關稅ノ制度アリテ、又毎ニ狡猾可憎ノ幻秤ヲ用キテ、其

幻秤



ノ税ヲ二三ニセシメ、買客ヲシテ其ノ收納ス可キ所ノ  
税額ヲ預知スルヲ能ハザラシムルノ暴戾ヲ施行セリ、  
斯ノ如キ不正苛酷ノ法律ヲ以テ、大ニ諸般ノ通商貿易  
ヲ荼毒妨害スルノミナラス、又消費者ト、生産者トニ及  
ホス所ノ刻剥亦極メテ重大ナル者アリ、海關ノ税額ハ、  
太々苛酷ニシテ、屢製造費ノ二倍、或ハ四倍ニ勝ル者ア  
リ、市場製造場及諸機關ニ論ナク、其ノ他、或ハ肆纏ノ未  
ト雖モ、其ノ干涉至ラザル所ナク、且ツ其ノ施行極メテ  
苛刻ニシテ、都會ニ驗査ノ吏アリテ奔走シ、埠頭ニ密商  
監察ノ吏負アリテ群集ス、而シテ彼等ノ職任ハ、一般私  
店ノ職事ヲ展闊シ、又其ノ貨包ヲ覬探シ、各物品ノ税銀

ヲ徵收スルニ外ナラス、而ルニ其ノ元來之ヲ爲スノ旨  
趣ヲ問ヘハ、全ク商業保護ノ悃誠ニ出ルト雖モ、今日却  
リテ公然貨幣ヲ濫收スルノ惡法ヲ結成セリ、故ニ政府  
ハ、萬般ノ處置ヲ整理スルニ苦シシ、人民ハ其ノ安寧ヲ  
失却シテ、到處終ニ不便不幸ノ嘆聲ヲ聽カサルナキノ  
甚シキニ至レリ、尚ホ約シテ之ヲ言ヘハ、力役社會ノ人  
民ハ、其ノ力役ヲ旺盛ナラシメンカ爲メニ、却リテ之ヲ  
剝奪セラレタル者ナリ、

以上一節ハ、政略家ノ通商貿易ニ干涉スルノ害ヲ  
論ス、

斯ノ如キ景況ハ、歐洲諸邦ニ於テ立法者タル者、其ノ父

道德上之禍

祖世襲ノ苦心ヲ以テ、其ノ商業上ニ恩惠セラレタル者ノ略述ナリ、抑モ前文ニ述フル如キノ制法ヲ以テ、古來經濟上ニ生成セシ所ノ禍害ハ、重大至深ナリト雖モ、其ノ道德上ニ顯出セシ所ノ禍害ニ比スレハ、尚ホ其ノ淺渺微少ナルヲ見ルヘシ、歐羅巴各部ニ於テ、密商走私者ノ黨類、リニ蜂起群集シ、矇昧ナル無智政略家ノ定設セシ所ノ法網ヲ跳躍シ、以テ其ノ横行ヲ天下ニ肆マ、ニセリ、此等ノ暴黨ハ、毫モ宥逐刑罰ヲ畏怖スルノ念ナク、常ニ亂暴狼藉ヲ事トシ、同伍ノ良民ヲ汚瀆シ、平和安寧ノ市邑ヲ使テ、曾テ知ラザル所ノ惡行ニ陥ラシメ、或ハ一族ヲ剽滅シ、又其ノ到ル處毎ニ縱酒偷盜亂行ノ惡

風ヲ散布シ、且ツ其ノ徒黨ヲ使テ、猥褻汚辱ノ淫行ニ導キ、其他斯等奸匪不法ノ社會ニ於テ、必ス常ニ免カル可カラザル諸種ノ惡俗ヲ傳播セシメ、大ニ社會ヲ壞敗セリ、尤テ斯ノ如キ無數ノ罪惡ハ、皆干涉主義ノ激成セシ者ニシテ、全ク歐洲諸邦ノ政府ハ、其罪ヲ辭スヘカラザル者ト云フヘシ、何トナレハ、尤テ此ノ諸罪惡ハ、當時法律ノ攬發スル所ノ者ニシテ、則チ今日其ノ法律ヲ廢棄セシヲ以テ、其ノ罪惡モ亦共ニ消滅セルヲ以テナリ、然ルニ政府家ハ、或ハ云ハントス、當時政府ニ於テ、斯ノ如キノ政略ヲ施行セサレハ、決シテ世道上進ノ裨益ヲ致スノ策ナシト、又或ハ云ハントス、方今社會ノ改進ハ、過

半其ノ政府ニ於テ、一トクヒ施行セシ所ノ古法ノ功績ニシテ、仮令之レカ爲メニ、其ノ兇徒ヲ激發セシテアリト雖、終ニ能ク其ノ兇惡ノ増進ヲ遮斷シ、其ノ類勢ヲ挽回シ、又其ノ嘗テ法制ノ過失ニ由ツテ喚起セシ所ノ罪惡ヲ制止レ得タレハ、未タ容易ニ古法舊規ヲ蔑視凌辱スヘカラサルナリト

然リト雖モ、斯ノ如キノ議論ハ、多少政府ノ体裁ヲ具備スル所ノ邦國人民ニ於テハ、固ヨリ承認許可スヘカラサル者ナリ、夫レ世界萬邦何ノ地方ニ論ナク、法律ヲ設立シ、有罪ヲ責罰ス可キノ權力アラザル者ナシ、若シ一朝其ノ權力ヲ失亡スルハ、其ノ邦國ハ則チ亂亡無法

ノ境界ナリ、而シテ今編者ノ今古存立ノ政府ヲ非難スル所ノ要點ハ、豈斯ノ如キノ浮論ヲ用ヒ、或ヤ唯ニ政府其ノ本分ノ作用ヲ超越シ、處置宜シキ得サル力爲メ、時々無量ノ損害ヲ存留セルニ在ルナリ、夫レ權勢ヲ愛シ、尊威ヲ貪ルハ、一般普通ノ人情ニシテ、一トクヒ其ノ權勢ヲ掌握スル一ヲ得ルキハ、能ク之ヲ濫用セサル者少ナシ、蓋シ政府タル者、其ノ邦國ノ開明上進ヲ利セシカ爲メ、必ス主トシテ施行スヘキ者ハ、其ノ邦國事理ノ整理ニ在リテ、其ノ整理ハ、大抵弱者ヲ扶持シテ、強者ノ啜噬ヲ裨制スルト、公衆ノ健康ヲ保全セシ爲メニ、豫メ之カ准備ヲ爲ス等ノ一二事項ニ適サルベシ、而シテ此等事務

ノ調理ハ、政府偉大ノ恩賜タルハ、既ニ各人各個ノ識  
認スル所ナリト雖、此ヲ以テ世道ノ開明ヲ催促シ、或  
ハ人間ノ進達ヲ鼓舞スル者ナリト云フヘカラス、何ト  
ナレハ、其ノ調理ニ由ツテ生スル所ノ事項ハ、唯ニ開明  
上進ノ期會ニ供給スルニ外ナラスシテ、其ノ開明上進  
ノ本資ハ、必ス別ニ他物ノ在ルアリテ、之カ誘導ヲナサ  
サルナシ、然リ而シテ、立法ハ本旨ハ、僅ニ前文數項ハ事  
理ヲ調理スルニ過サル所以ハ、適証ハ、智識次第ニ蔓延  
シ、事物無數ノ實驗ヲ經歷シ、數々世代ヲ更替スルニ隨  
ヒ、其混淆ナル人事ノ關係ヲ條理會シ、往時ノ政略家  
ニ在リテ、至善ノ確說論說ト自信セ、以テ、干渉主義

政府法律ノカ

ル保護ノ條款ヲ廢止スルヲ以テ、今日一世ノ輿論ト為  
ス所以ヲ見ルモ、亦其ハ違ハサルヲ知ルヘキナリ、  
以上二節ハ、密商走私及其ノ他之ニ因起スル所ノ  
諸罪惡ハ、立法者ノ喚起ニ由ルヲ論ス、  
故ニ政府法律ノカハ、世道上進ノ點ニ於テ、假令其ノ處  
置完全ノ宜シキヲ得ルアルモ、全ク無效無績ノ者ニシ  
テ、若シ誤リテ其ノ勢力ヲ使用シ、少ク有功ノ者タラシ  
メント企圖スルキハ、必ヤ重大非常ノ禍害ヲ惹出スル  
所以ヲ知ルヘシ、然ラハ則歐洲開明進歩ノ執政家ノ智  
ニ成ルトスル思想ハ、亦直ニ謬見タル所以ヲ發見スヘ  
シ、是等論辨ニ來ル所ノ道理ハ、獨リ推究上ノ成果ノミ

ナラス、其ノ事蹟ハ尚古今史衆ニ於テ、歴々現在スル所ノ事蹟ニ於テ、正確動カス可カラザル者ナリ、抑政府官更ノ其ノ本分限界ヲ識認セザルカ爲メニ、徒ニ其ノ國民ヲ使テ、福祉安寧ナラシメント期シ、自家一片ノ惻誠ヲ以テ、容易ニ國民ノ事理ヲ措置シ、却リテ國民ヲ使テ、重大ノ禍害ヲ蒙ラシメタルハ、豈咄々怪事ノ甚シキニアラスヤ、凡ソ保護政略ノ通商貿易ヲ損傷スル暴勢ト、亦此ニ亞テ因起スル所ノ罪惡ノ巨害トハ、余輩既ニ前文ニ於テ、之ヲ詳論セシト雖モ、尚ホ其ノ事蹟ノ明晰ヲ要スルハ、其ノ例太々饒多ニシテ、其ノ材甚自在ナリ、蓋數百年間、歐洲諸邦ノ政府ハ、宗教ヲ勸獎シ、亦其ノ謬

偽善偽善

妄ヲ鼓舞スルヲ以テ、只管政府本分ノ責任トセリ、故ニ其ノ釀成セシ所ノ禍害ハ、蔓延至ラサル所ナシ、就中其ノ禍害最モ重大ニシテ、二事必ス論究セザルベカラサル者アリ、乃チ偽善ノ増進ト、偽誓ノ播殖ナリ、偽善ノ増進ハ、異説ヲ嫌惡スルト甚タシク、其ノ之ヲ懲罰スルト酷ナルヨリ来ル者ナリ、夫レ人類タル者ハ、其ノ一人一個ノ心情ニ於テハ、或ハ其ノ社會ノ誘惡ニ感染スル一ツリ、獨立不羈ニシテ、自主自在ナリト雖モ、社會一般ノ全体ニ於テハ、社會ノ流動ニ昇降シ、固ヨリ之ニ抗抵シ、之ニ屈撓服從セサル一能ハサル者ナリ、況ンヤ其ノ誘惑流勢ハ、名利聞達ノ器械ヲ具シテ、公衆ノ心思ヲ欺

ク一足ルヲヤ、故ニ仮令公衆衷情喜シテ、其ノ本信ヲ棄却スルニアラザルモ、陽ニ其ノ口實ヲ變轉シ、當時ノ流行ヲ稱揚スル者ハ、皆所謂偽善粉飾ノ徒ト云フ可キ者ニシテ、此ノ誘惑ヲ鼓舞シ、其ノ流勢ヲ勸奨スル所ノ政府ハ、亦熟レモ偽善ノ幫助者ニシテ、亦粉飾家ノ創造者ト云ハサルヘカラス、然ラハ、則チ若シ政府ニシテ、其ハ施行措置ヲ以テ、各人自己ハ思念ヲ屈シ、其ノ指示スル所ノ論旨ヲ奉スル者ヲ使テ、多少其ノ特典ヲ受ケセシムル等ハ、トアルキハ、則チ其ノ政府ハ、古来羞惡スル所ハ、誘惑者ハ、黨魁ニシテ、到底人世ノ幸福寶貨ヲ舉テ、之ヲ其ノ自家在来ハ本意ヲ棄テ、其ノ宗旨ヲ變革セシマ

ハ偽善粉飾家ニ、賜與スル所ハ惡漢ニ、差異ナキナリ、又右ノ進動ニ伴ツテ、偽誓ノ播殖、其ノ勢力ヲ増加セリ、名聞利達ヲ喜ンテ、其ノ宗旨ヲ變更セシ徒ノ直ニ之ヲ任用スヘカラサルヲ疑ヒ、其ノ困難ヲ避クルニ、非常奇怪ノ計策ヲ以テシ、信徒ヲ使テ、其ノ奉崇ノ厚キヲ表セシメンカ爲メニ、之ニ要スルニ再三ノ誓矢ヲ以テシ、而シテ其ノ新改信徒ヲ使テ、永ク在来ノ宗規ヲ保存セントヲ揚言セシメタリ、總テ古来數多ノ誓法ヲ起シ、數様ノ盟約ヲ成サシムル者ハ、孰レモ皆他人ノ胸臆ヲ疑惑猜忌セシニ外ナラサルナリ、我英國ノ如キハ、兒童庠序ニ入ルルハ、先ツ誓詞ヲ發セシメサルハナシ、然ルニ其ノ

誓詞ノ主旨ハ、兒童ハ論ナク、稍學事修熟ノ輩ニ於ケル  
 モ、亦容易ニ理會シ能ハサル者ナリ、亦進ンテ上下議院  
 ニ列スルルキハ、亦其ノ宗教ノ奉意ヲ表シ、再ヒ茲ニ誓ハ  
 サルヲ得ス、又官途ニ於テハ、其ノ位置ヲ轉スル毎ニ、各  
 更ニ誓失ヲ行ハサルナシ、而シテ其ノ誓詞嚴肅ノ笑フ  
 ヘキハ、恰モ其ノ後來從事ス可キ職事ノ卑賤憐ヘキノ  
 状ヲ表示スル者ノ如シ、斯ノ如ク人ニ逼ツテ、神明ニ誓  
 矢セシムルノ數多ナルカ爲メニ、自然其ノ誓矢ハ一  
 派ノ事業トナリ、遂ニ之ヲ以テ、一種ノ新式ヲ設立セシ  
 ムルニ至ンリ、夫レ、事物再三數次ナルルキハ、人情之ヲ汚  
 瀆ス者ニシテ、誓矢遂ニ其ハ效ナカルヘシ、故ニ今日我

英國ニ於テ、能ク社會ノ情景ヲ觀察スル所、具眼有識  
 ハ、常ニ我人民中ニ行ハルル所ノ偽誓ヲ見テ、其ハ創造  
 本源ヲ政府ノ罪ニ歸シ、且其ハ流行普及セル為メニ、國  
 風民俗ノ敗壞ヲ引起シ、証言誓詞ハ聲價ヲ減殺シ、又國  
 民ヲ使テ、互ニ其ノ同族人類ハ言辭ヲ疑惑嫌猜セシム  
 ルニ至ルヲ大息長嘆セサル者アラサルナリ、

以上一節ハ、偽善偽誓ノ増進ハ、立法者ノ措置ニ由  
 ルヲ論ス、

此ノ如ク、基督宗教國ニ於テ、其ノ執政家ノ淺智ナル、干  
 渉ニ由リテ、造出スル所ノ隱頭兩種ノ罪惡ハ、人世中ニ  
 在リテ、其ノ最モ嫌惡ス可キノ事頂ニシテ、就中其ノ隱

隱頭兩種ノ  
 罪惡

惡ノ如キハ、特ニ寒心ス可キ所ノ險害アリ、然レモ其ノ  
 隱顯兩種ノ罪惡ノ如キハ、亦余カ所謂世道上進ノ本原  
 中ニ算入ス可キ者ニアラザルナリ、而シテ余輩ハ此ノ  
 罪惡發顯ノ理由ヲ推究シ、且古來ノ立法家タル者、特ニ  
 一理ヲ興シ、一主義ヲ弘張セント欲シテ、却リテ其ノ措  
 置ヲ誤ルノミナラス或ハ其ノ結果ノ其ノ嘗テ企圖セ  
 シ所ニ背戾セシ所以ヲ辨明スルハ、蓋シ難事ニアラザ  
 ルナリ、抑モ立法家タル者ノ嘗テ國民ノ為メニ、其ノ職  
 事ヲ保護セント欲シテ、設ケシ所ノ法律ハ、却リテ之カ  
 顛覆損害ヲ起シ、宗教ヲ旺盛ナラシメント欲シテ、編制  
 セシ所ノ法律ハ、却リテ之カ為メニ偽善粉飾ヲ養成セ

利子ノ制限

リ、又國民ノ信義ヲ厚クセント欲シテ制立セシ所ノ法  
 律ハ、却リテ之カ為メニ國民ノ偽誓誣妄ヲ増加セシメ  
 タルハ、余カ論辨ヲ以テ已ニ自カラ明瞭ナルヘシ、又是  
 ト等シク、古今各邦ニ於テ、或ハ貸借ノ高利ヲ禁シ、或ハ  
 利子ノ制限ヲ設ケ、之カ為メニ却リテ高利ヲ増加シ、金  
 利ノ騰貴ヲ促カサ、ルハナシ夫レ禁令ハ何如ニ酷薄  
 嚴肅ナリト雖モ、之カ為メ求需ト供給トノ間ニ存スル  
 所ノ自然ノ情實ヲ破壊スルヲ能ハサルヲ以テ、人民若  
 シ互ニ相貸借セントスルノ思意アルハ必ス其ノ相  
 互ノ權利ニ干涉スル所ノ法律ヲ脱漏ス可キ所ノ方術  
 ヲ施サ、ルヲ得ス若シ貸借兩主ノ定約ヲ使テ、毫モ其

英國文明史

第五篇

七



ノ阻碍スルヲナカラシメテハ、其ノ高利ノ程度ハ、貸借ノ景状ト同一ナラサルナシ即チ信義ノ多少ト、返還ノ速トニ関スル者アリ然レニ其ノ間政府ノ干涉之レアル片ハ、此ノ自然ノ調和ハ、必ス其ノ次序ノ混亂セサルヲ得ス、凡ソ政府ノ禁令ヲ逃脫スル者ハ、常ニ必ス多少ノ危険ヲ冒サ、バルヲ得サルヲ以テ、債主ハ亦必ス其ノ已カ犯罪ノ危険ヲ償ハンカ為メニ、更ニ多少ノ増利ヲ收ムルニアラサレハ、借主ノ求需ヲ肯ンセサル可シ、而シテ其ノ償贖ハ借主一方ニ於テ之ヲ辨セサルヲ得ス、是ニ於テ借主ハ、其ノ實、貸借一般ノ保険料タル所ノ利子ト、非常保険料ノ兩償ヲ合スヲ以テ、必竟二重ノ利子ヲ

出サ、バルヲ得ス、然ラハ則チ、歐洲諸邦ハ、立法者タル者ハ、措置ハ、皆此ハ二重利子ヲ出サ、シムルハ、策略ナリト云ハサルヘカラス、斯ハ如クニシテ、其ハ高利ヲ禁止セントス、ハ所ハ法律ハ、却テ之ヲ使テ、増加セシムル所ハ、媒介トナリ、其ハ法ハ、國民タル者、其己ハ便宜ヲ達セント欲ス、ル片ハ、必ス先ツ、之ヲ犯サ、バルヲ得ス、シテ、且其ハ犯罪ハ、刑罪ハ、全ク借主一方ハ、頭上ニ懸リ、恰モ立法者ハ、保護愛養セントス、ル所ハ、黨類ヲ使テ、互リテ困難勞苦セシムルニ及ヘリ、

以上一節ハ、利子制限ノ法律ハ、却テ高利ヲ促スヲ論ス、

出版ノ自由

又干渉ノ主義ト保護氣風ノ誤認ヲ以テ、基督宗教諸邦ニ於テ、政府ノ為メニ、此ノ他事物ノ尚ホ重大ナル禍害ヲ蒙ル者少シトセス、嘗テ政府ハ屢出版ノ自由ヲ壓倒シ、又政治及宗教ニ関スル所ノ論議ニ於テ、各自ノ意見ヲ發露セシメサラシメンカ為ニ、大ニ其ノ力ヲ盡セリ、又各邦ノ政府、多クハ其ノ奉崇スル所ノ宗教ヲ幫助セシカ為メニ、文學警視ノ制ヲ設ケ、之ヲ使テ、強ク各自他人ニ對シテ、其ノ思念ヲ發露スヘキ言詞本然ノ權利ヲ廢棄セシメントテ、魁メタリ、又明ラカニ智識擴充ノ進路ヲ妨害セサル所ノ邦國ト雖モ、未タ政府ニシテ、多少世道上進ノ妨害ヲナサ、ル者ナシ、故ニ智識擴充ノ器

文學

紙筆書籍雜誌

具ニシテ、且其ノ媒介ナル紙筆書籍雜誌等ノ如キハ、孰レノ政府ニ於ルモ、其ノ賦税ハ甚ク重ク今日仮令政府使テ尚ホ其ノ蠢愚ノ層級ヲ加ヘ、智識開進ヲ憎厭セシムト雖モ、其ノ税額ハ今之ニ些少ノ増加ヲナスコト能ハサルノ苛酷ヲ極ノタリ、此等政府ノ舉行セシ所ノ事蹟ヲ論スルハ、政府ハ嚴ニ人心ニ賦税セシ者ニ、即人間ノ思想ヲ使テ之ニ税錢ヲ上納セシメタルナリ、然ラハ則チ國民タル者、此彼ノ思想ヲ交換シ以テ、各自才藝ハ資料ヲ増進セシメント欲スルハ、必ス先ニ多少ノ貢銀ヲ租稅局ニ送送セサル可カラサルハ、理ニシテ、其ハ貢銀ハ即同族人類ノ智識ヲ増進セシカ為ニ、政府ニ

文學社會ノ  
賄賂

納ムル所ノ科金ナリ又此ハ貢銀ハ其ノ無限ハ貪欲ハ  
抑止スルト併ニ之ヲ以テ其ノ宥恕ヲ買ハシカ為メニ  
文學社會ヨリ政府ニ暗ハ所ノ賄賂ヲリ又此ノ貢銀ニ  
就テ其ノ最モ憎ムヘキ者ハ其ノ斯ノ如ク力役思想ノ  
兩職上ニ賦課スルノ慘酷ナルヨリ其ノ邦國人民間  
ニ釀成スル所ノ習慣是レナリ斯ク思想學士ハ拮据勉  
勵以テ儲ケ得ル所ノ利錢ハ過半ハ斯ノ如キ科金トシ  
テ政府ニ輔シ剩ヘ之レヲ以テ無耻貪婪ナル官衙ノ虛  
飾ヲ助ケ或ハ反覆任意ハ執政俗吏ハ費用ニ供シ或ハ  
之ヲ使テ國民政府ノ肆ニ國民辛苦ノ成果ナルノ事物  
宛索ノ資材ヲ剝奪掠取スル所ハ凡テタルハ以

テ遂ニ智識ノ暢達進路ヲ阻滯シ且大ニ有益ノ事業ヲ  
妨ケ或ハ高妙ノ思想ヲ抑塞シ或ハ哲學大家ノ勃興ヲ  
壓伏スルヲアルニ至ルハ豈慨嘆ハ極ナラスヤ

以上一節ハ立法家タル者安リニ法律ヲ設立セン  
為メニ大ニ智識ノ上進ヲ阻遏セシヲ論ス

以上ハ歐洲諸邦ノ立法上ノ政略ニ關シ顯出結果セシ  
所ノ効驗ニシテ其ノ議論ハ固ヨリ真確ニシ浮思妄想  
ニ出テサルナリ是レ僅ニ歐洲諸國ノ歴史ヲ誦讀セシ  
者ハ皆共ニ識認スル所ニシテ我英國ノ如キモ現ニ此  
ノ弊害ヲ殘留スル者アリ他歐洲諸邦ニ至リテハ其ノ  
勢力焰々トシテ更ニ底止スル所ヲ見ス今若レ其ノ弊

害ヲ列舉シテ一々遺漏スル一ナカラシメント欲セハ、其ノ總計ハ實ニ饒多ニシテ、盡スヘカラスト雖モ、却リテ余輩ヲ使テ、斯ノ如ク弊害簇々ノ中ニ於テ、亦斯ノ如ク文化ノ進達セシヲ驚嘆セシムルニ足ル者アリ、夫レ弊害夥多ノ中ニ在リテ、其ノ智慧ノ上進其ノ休止セサル所以ヲ察スルハ、亦人間威力ノ強大雄偉ナルヲ見ルヘシ又併セテ其ノ立法阻礙ノ勢力、若シ其ノ鋒銳ヲ讓レハ、智識ノ發達、亦異常ノ迅速ヲ得ル所以ヲ預知スヘシ、然ルニ世道上進ノ道途ニ於テ、古來立法官ノ奏セシ所ノ功績ハ、唯其ノ前人設立ノ法制ヲ發棄スルヨリ起ル所ノ便益ノミニシテ、其ノ餘更ニ涓滴ノ功勞ヲ

立法官ノ功績

與ヘシ一ナク、亦後來決シテ之ヲ冀望ス可キノ理アル一ナシ、若シ之ヲ冀望シ、之ニ歸スルハ、獨リ道理ニ背戾スルノミナラス、亦是レ理論ヲ玩弄スルノ惡戯ト云フ可キナリ、今世ニ在リテ立法官ノ恩惠ニ歸ス可キノ所ノ者ハ、獨リ其ノ舊法ヲ發棄セシ所ノ功績ニシテ、亦一世ニ在リテ、恩惠賜物トシテ稱揚スル所ノ者ハ、後世ニ至ルモ、亦正理賞賚ト識認セサルノ理ナカルヘシ、而シテ世人此ノ正理ナル者ヲ輕賤蔑視スルハ、是レ必一世智識ノ退却セシニアラサレハ、便チ其ノ開明非常ニ上進セシノ証左ナリ、若シ此ノ時ニ當リテ、政府猶ホ頑固ニシテ、其ノ舊轍ヲ變更シ得サルハ、其ノ國民ノ不幸ニシ

立法官ノ恩惠

テ、進退共ニ困難ナル景狀ニ沈淪セシ者ト云フヘシ、何  
 トナレハ若シ永ク此ノ如キノ政府ニ隨從スルキハ、必  
 ス其ノ邦國ヲ害シ、之ニ背叛スレハ、又其ノ一身ヲ使テ、  
 過大ノ禍害ニ陷ラシメサルヲ得ス、古來東方諸邦ノ立  
 君國ハ、多ク之ニ隨從スルヲ以テ常トナシ、又歐洲ノ諸  
 王國ニ在リテハ、常ニ之ニ背叛スルヲ以テ習トセリ、故  
 ニ歐洲ニ在リテハ、之レカ爲メニ興起スル所ノ謀反叛  
 逆ハ、古今ノ史衆處トシテ散見セサルナリ、暴君虐吏ト  
 國民トノ間ニ演出スル所ノ爭鬪ハ、續々トシテ間斷ア  
 ルトナシ、然リ而シテ獨リ我英國ニ於テハ、古來數世ノ  
 間、幸ニ能ク此ノ如キ危急ノ機期ヲ逃避シ、屢禍亂ヲ免

英國人民ノ  
 威力

レ得タルハ皆世人ノ知ル所ニシテ、今日縱令之ヲ稱贊  
 スルモ、未タ溢美トナスヘカラサルナリ、抑歐洲諸邦ノ  
 形勢ヲ通覽スルニ、惟我英國ハ國民ノ威力甚ク強盛ニ  
 シテ、政府ノ權力甚ク微弱ナリ、今立法ノ歴史ヲ閱スル  
 ニ、或ハ其中多少ノ差錯ナキニアラスト雖モ、概シテ之  
 ヲ云フキハ、王權ノ威力漸次ニ其ノ歩ヲ退ケ、常ニ其ノ  
 氣焰ヲ收メ、又道理ノ推排ニ畏避シ、諸般ノ改革自然ニ  
 行ナハレ、就中自治自由ノ說、頓ニ強盛ニ赴キシヨリ、諸  
 般ノ保護、及特許ハ、近來頗ニ之ヲ廢シ、其ノ外古代法制  
 ニシテ、昔時無上ノ勢力ヲ有セシ者、今日大ニ其ノ威力  
 ヲ減少シ、其ノ絶滅將ニ近キニ在ラントス、余輩尚茲ニ

英國立法官

一國人民福社ノ大基本

贅言不可キ所ハ一事アリ、我英國ハ之ヲ歐洲ハ諸邦ニ  
 比スルハ立法官ナル者ハ唯ニ國民思想ノ標準ニシテ、  
 且其ハ奴隸タルヲ以テ國民進歩ノ景況ニ於ケルモ亦  
 之ヲ他邦ニ比スルハ其ハ差錯實ニ僅少ニシテ、且反亂  
 革命ノ暴行亦太ク少ナシトス是ニ由ツテ之ヲ察スル  
 其ハ一國人民ノ福祉安寧ヲ興盛ナラシムル所ハ一大  
 基本ハ其ノ邦國ニ於ケル執政官ノ權勢甚ク弱ク事ヲ  
 行ハ極メテ謹慎ニシテ、且執政官曾テ其ノ權柄ヲ掌握  
 セントスルハ慾望ナク亦單ニ福利安寧ヲ保護セハト  
 企圖スルカ為メニ其ノ自家親任セラルハ所ハ國民ノ  
 冀望ヲ抑ヘ其レヲ使テ咨嗟怨恨セシムサルニアルト

ヲ更ニ理會シ得ヘキナリ、

以上一節ハ英國ハ他邦ニ比スレハ其ノ政府ノ為  
 メニ世道上進ノ阻遏妨害ヲ蒙ムル丁甚ク少ナキ  
 ヲ以テ邦國亦最モ昌盛ナルヲ論ス、

伯克爾英國文明史第五篇終

明治十二年七月七日版權免許  
同 八月一日出版

定價單七表五厘

譯者

土居光華

東京淺草區今戶町廿番地

同

萱生奉三

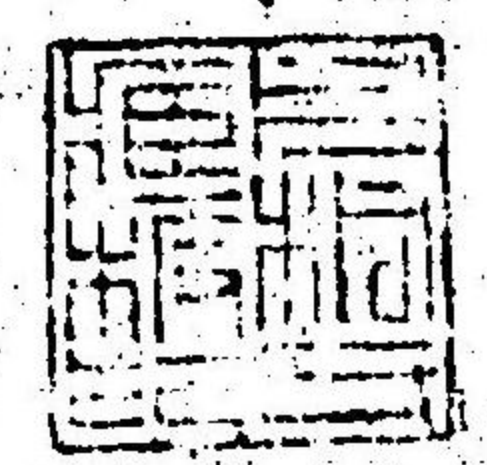
同 麹町區上二番丁十七番地

萱生

出版人

片桐起太郎

同 日本橋區堀江町二丁目十番地



同

小林新造

同 京橋區南傳馬町二丁目六番地

發兌書林

大坂心齋橋通北久太郎町

同 南一丁目

同 備後町四丁目

尾張名古屋本町八丁目

東京日本橋通一丁目

同 通二丁目

同 通三丁目

同 淺草茅町二丁目

同 芝太神宮前

同 芝三島町

同 日本橋通二丁目

柳原喜兵衛

松村九兵衛

梅原龜七

片野東四郎

北島茂兵衛

稻田佐兵衛

丸屋善七

北澤伊八

牧野吉兵衛

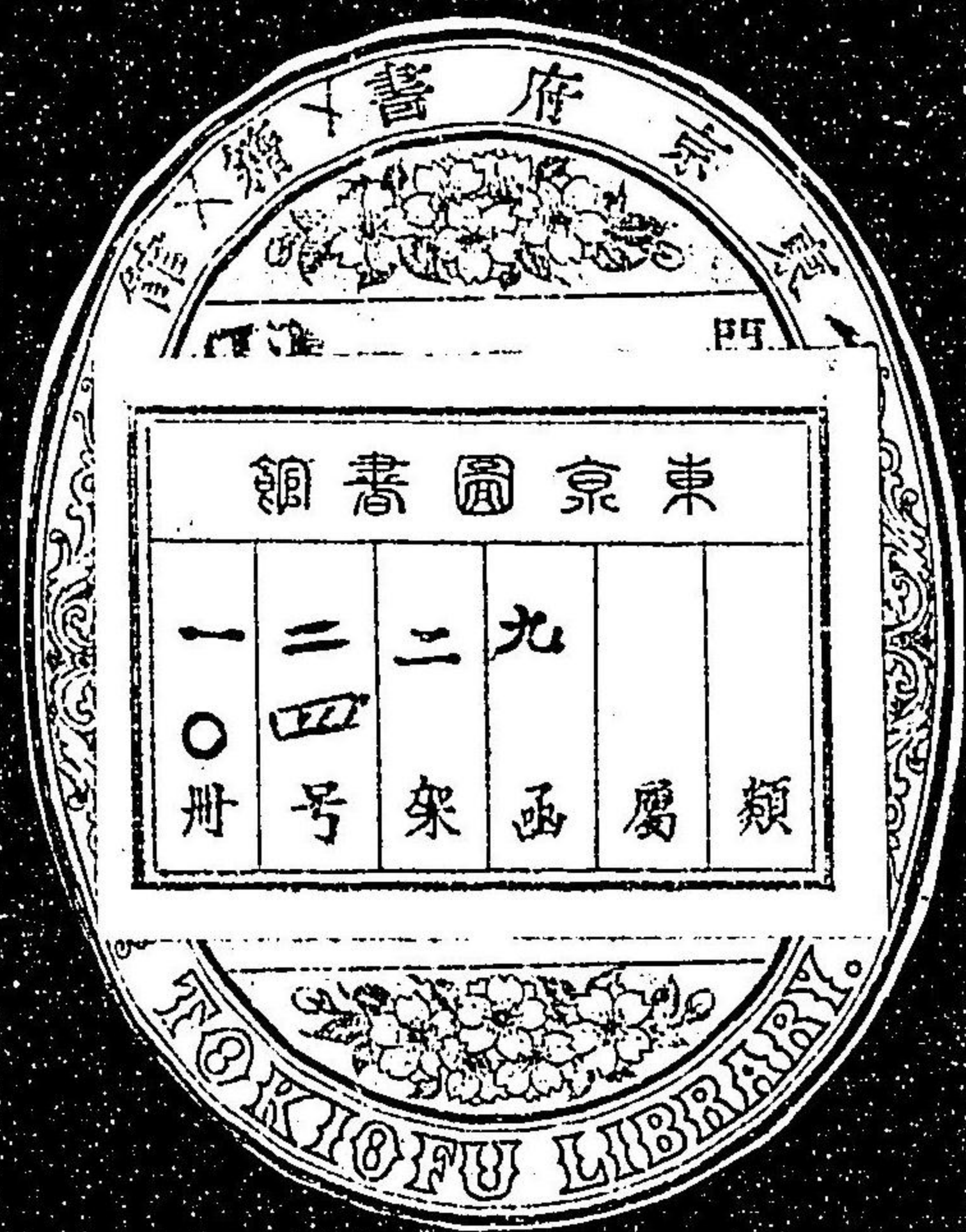
山中兵衛

小林新兵衛



氏  
著

全譯  
第六編



土居光華  
萱生奉三

全譯

第六編

HISTORY  
OF  
CIVILIZATION  
IN  
ENGLAND.  
BY  
HENRY THOMAS BUCKLE

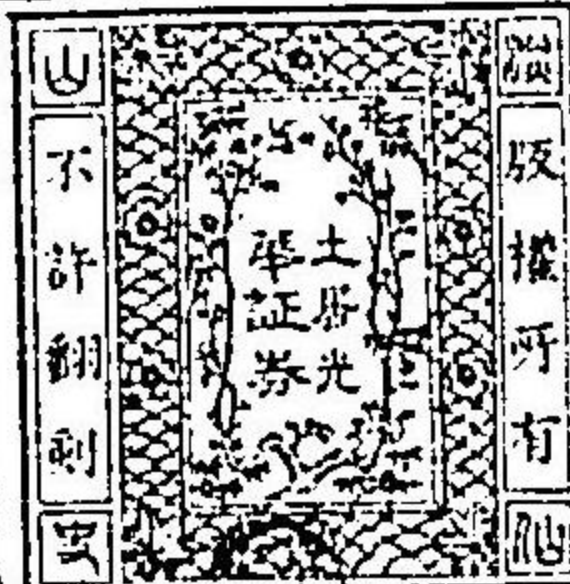
伯克爾氏著

英國文明史

一千八百七十二年倫敦出版

明治十二年十二月出版

寶文閣藏版



伯克爾文明史總論目錄

第六編

歷史ノ起源、及中世史學ノ形狀ヲ論ス、

○前編ノ大意ヲ再説ス、一節

○修史學ノ變遷ヲ推究スル片ハ、亦自カラ社會變

遷ノ搜索ヲ使テ、分明ナラシムルヲ論ス、二節

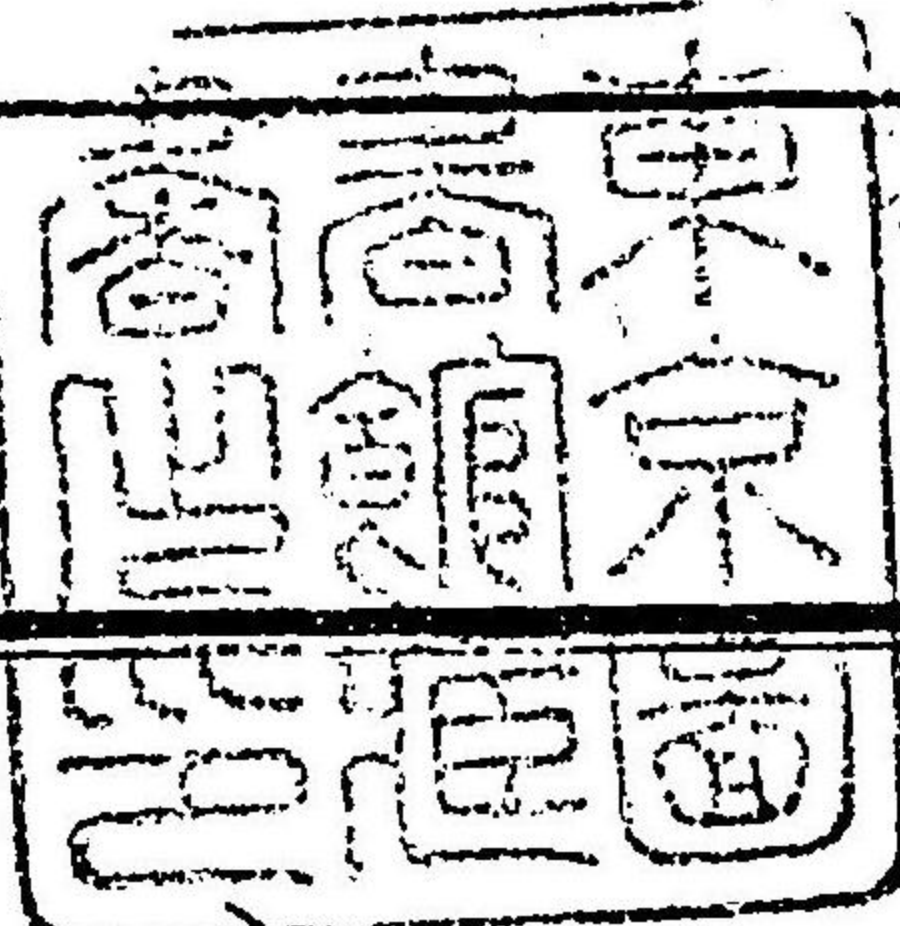
○太古ノ歴史ハ盡ク歌曲ナルヲ論ス、二節

○書寫ノ發明ハ歴史謬妄ノ一原因タルヲ論ス、五

○宗教ノ變遷ハ、各國太古史ノ敗壞ヲ因起セシヲ

論ス、五節

○歴史敗壞ノ最大原因ハ、僧徒權勢ノ熾盛ナルニ



英國文明史

第六編

目錄

一

土居光華  
萱生奉三

全譯

第六編



HISTORY  
OF  
CIVILIZATION  
IN  
ENGLAND.

HENRY THOMAS BUCKLE

伯克爾氏著  
英國文明史

伯克爾氏著

一千八百七十二年倫敦出版

明治十二年十二月出版

寶文閣藏版

伯克爾文明史總論目錄

第六編

歴史ノ起源及中世史學ノ形狀ヲ論ス

○前編ノ大意ヲ再説ス、一節

○修史學ノ變遷ヲ推究スルキハ、亦自カラ社會變

遷ノ搜索ヲ使テ、分明ナラシムルヲ論ス、二節

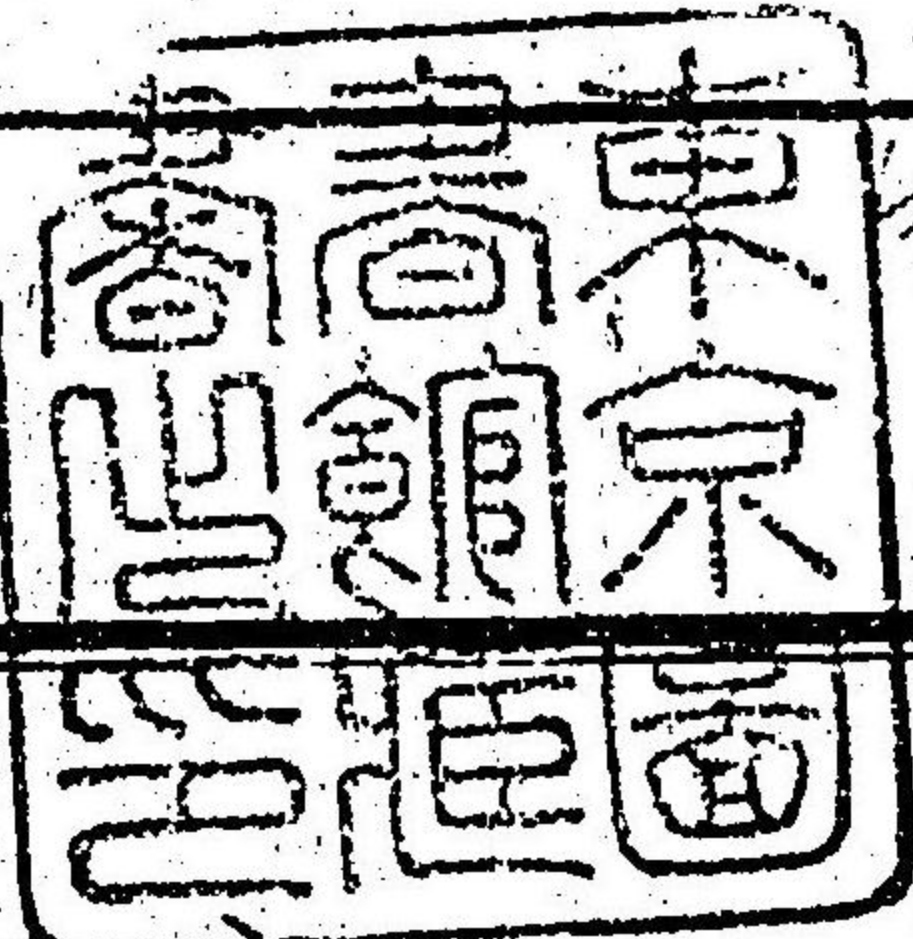
○太古ノ歴史ハ盡ク歌曲ナルヲ論ス、二節

○書寫ノ發明ハ歴史謬妄ノ一原因タルヲ論ス、五

○宗教ノ變遷ハ、各國太古史ノ敗壞ヲ因起セシヲ

論ス、五節

○歴史敗壞ノ最大原因ハ、僧徒推勢ノ熾盛ナルニ



在ルヲ論ス 一節

○史秉ノ敗壞ヨリ古事口碑ノ訛傳ヲ論ス 五節

○トルピン氏ノチアーレマーゲ史ヲ引用シテ、前論ヲ證明ス 四節

○ゼオフライ氏ノブリトン史ヲ引用シテ、前論ヲ證明ス、四節

○歴史學改良ノ第一着ハ、千三百年代及千四百年代ニ興起セシヲ論ス、一節

○コマイ子ス氏ノ説ヲ引用シテ、歴史改良ノ年間ニ在リテ、歐洲諸國ノ亂信迷溺ヲ證明ス、三節

○ストッレル氏ノ大洪水ノ預説ヲ引用シテ、前論

ヲ證明ス 一節

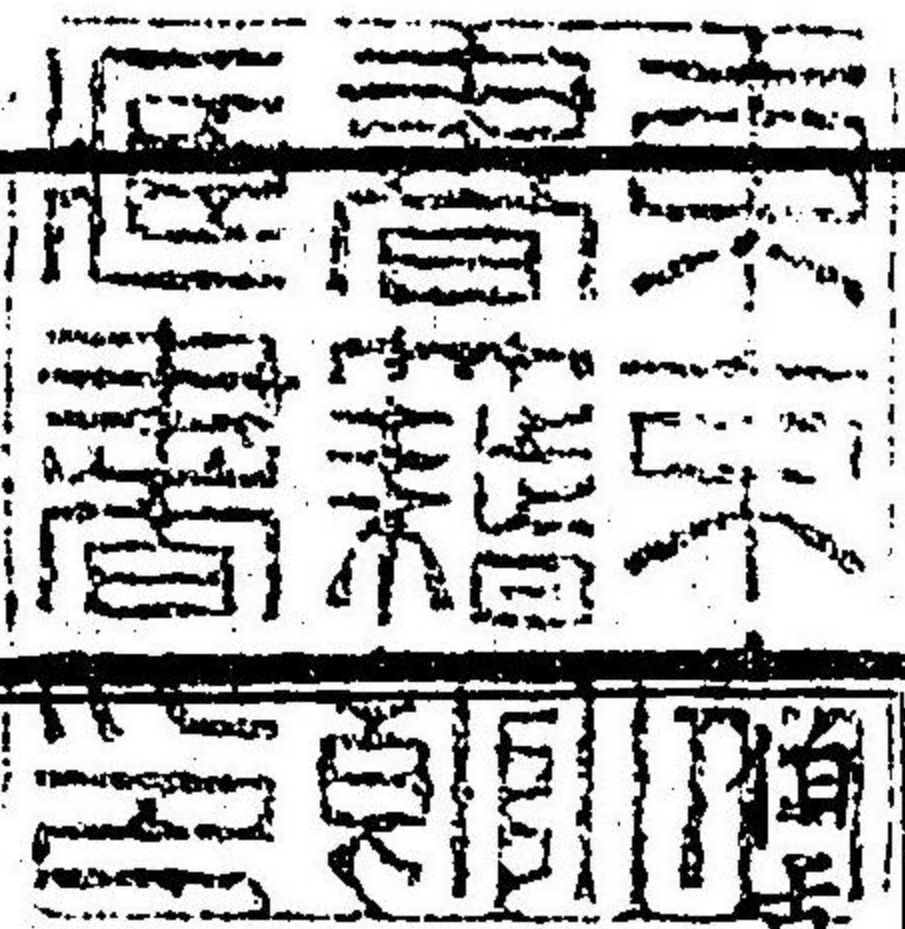
○ドクトルホルスト氏ノ黄金齒ノ説話ヲ引用シテ、重テ前論ヲ證明ス、一節

伯克爾英國文明史第六編

土居光華

萱生奉三

同譯



歴史ノ起原、及中世史學ノ形狀ヲ論ス、

余ハ前編ニ於テ、一般世人ノ把リテ以テ、世道上進ノ本源ナリト、識認スル所ノ顯明ナル、諸般ノ事蹟ヲ探討列舉シ、其ノ事蹟ノ曾テ世道上進ヲ幫助シ得ヘキ者ニアラス、却リテ世道上進ノ功效ニ由リテ生出スル所ノ成果ナル所以ヲ証明シ、又宗教。文。學。政。府。ノ三者ハ、多少人間ノ形勢ヲ變更セシメナキニアラスト雖モ、亦人間ノ

宗教文學政  
府ノ三者

形勢ニ隨ツテ、變化鎔成セラル、者ノ許多ナルヲ詳論セリ、寔ニ宗教、文學、政府ノ三者ハ、其ノ外面ハ如何ニ有益穩當ノ体裁ヲ得ル、一アルモ、到底其ノ前事變遷ノ結果ニシテ、其ノ結果ハ、其ノ常ニ進動流布スル所ノ社會ハ、形勢ニ隨ツテ、共ニ變更改良セサルヘカラサルヲ以テ、唯ニ第二ノ管理者タルニ過サルナリ。

以上一節ハ、前編ノ大意ヲ再説ス、

斯ク其ノ推究ノ功績ヲ奏スルヲ以テ、今余輩カ考究占有ス可キ所ノ原野ハ、大ニ其ノ區域ヲ縮シ、向後ノ考究ニ於テ其ノ要スル所ノ者ハ、惟歐洲世道、進ハ常ニ智識ノ開明、進歩ト駢馳シ、而ノ其ノ智識進歩ハ、人智ノ能

向後ノ考究

ク、發見シ得ル所ハ、真理ノ多少ト、其ノ蔓延セシ所ハ、廣狹如何ニ在ルハ、僅々數頂ニ過キサルニ至レリ、此等事理考索ノ幫助トナサンカ爲メニ、余輩屢前編ニ於テ、數條ノ辨論ヲ盡シ、讀者ノ揣摩ニ供スト、雖氏尚ホ此ノ推究ヲ使テ、一層確正ナラシメント欲スル片ハ、更ニ森羅萬象ヲ囊括スル所ノ字内ノ史籍ニ照ラシ、其ノ着實ヲ証セサルヘカラス、夫レ斯ノ如ク、其ノ方術ヲ盡シ、着實真正ノ事蹟ヲ列舉シ、推究上ノ思想ニ就テ、其ノ証明ヲ要求スルハ、余カ平生自家ノ全カヲ盡シ、拮据黽勉スル所ノ課程ニシテ、敢テ其ノ勞ヲ憚ラサルナリ、然リ而シテ、余ハ今此ノ考索ニ從事セントスル所ノ方策ヲ論述

考索方策

人事及史乘  
ノ改進

セントス、且幸ニ余カ從前續々論進シ來ル所ノ論理ハ、  
 又直ニ余カ今ヨリ考究セントスル所ノ旨趣ト適合ス  
 へキ者ニシテ、其ハ今ヨリ使用セント欲スル所ノ方術  
 ハ、惟歴史上ニ於ケル人事改進ノ考究ト史乘改進ノ考  
 究トヲ融合調和スルニ在リ、故ニ能ク斯ノ二者ノ考究  
 ヲ融合調和セント欲セハ、又更ニ其ノ往時ヲ洞察スル  
 所ノ方策ト現時ヲ觀察スル所ノ法術ヲ使テ、結合連貫  
 セシメテ、其ノ用法ヲ講セサルヘカラス、且ツ此ハ二法  
 術ノ思念ノ形貌ハ、其外情互ニ相異ナリト雖モ、其ノ慣  
 例ニ至ツテハ、自然互ニ相同シキヲ以テ、世々其ノ二者  
 ノ間ニ在ツテ、屢其ノ和合同一ノ狀勢ヲ顯ハシ、之カ爲

二大事實

メニ大ニ社會ノ進動ヲ洞見スルニ於テ、一大光暉ヲ放  
 發セリ、加之余輩若シ能ク歴史タル所以ノ者ヲ探討考  
 究スル所ハ、亦之ニ由ツテ著明貴重ノ二大事實ヲ定立  
 セシ者ノ在ルアルヲ見ルヘシ、即チ其一ハ、近古三百年  
 間ニ在ツテハ、概シテ、歴史家ナル者、常ニ人智ノ貴重ス  
 可キ者ヲ探知シ、且ツ從來人智開進ヲ勤住妨碍セシ所  
 ハ、諸般無數ノ攪擾者ナル者ヲ厭惡セシ、是ナリ、又其一  
 ハ、同シク、近古三百年間、世間歴史家ナル者、曾テ極重最  
 貴ハ要頂ト思惟セシ所ノ事理ヲ放棄シ、且ツ務メテ智  
 識擴充ノ程度ト其ハ人民ノ形勢トヲ相連續セシムル  
 所ノ諸事物ニ注目スルノ念慮ヲ増進セシ、是ナリ、

英國文明史 第六編

修史方向

此ノ二大實事ハ、今ヨリ將ニ論述セントスル所ノ序別ニ於テ、確然定立スルヲ見ントス、而シテ此二大實事ノ定立アルキハ、亦余カ前論ニ於テ節々論述セシ所ノ諸般ノ旨趣ヲ証明スヘシ、又今日社會ノ改良ニ隨ッテ修史學ノ常ニ其ノ一方向ニ傾斜スル者タルヲ確認スルキハ、其ノ次第ニ傾斜スル方向ニ就テ其ノ現出スル所ノ諸般ノ事理ヲ以テ專ラ修史ノ真理ナリト推測セサルヲ得ス、寔ニ何ノ學科ヲ問ハス、社會一般智識ノ上進ニ隨ヒ其ノ學徒之ヲ考究スル時ニ當リテ、若シ幸ニ其ノ器ニ適スルキハ、仮令其ノ進歩ハ、微少見ルニ足ル者ナキカ如クナリト雖モ、其ノ學科ハ、亦必ス多少

上達セサル者ナシ、故ニ學徒タル者ハ、宜ク其ノ學科ノ盛衰顛末ヲ詳悉シ、以テ其ノ傾向ニ就テ、真理ノ所在ヲ推究セサルヘカラス、而シテ歷世間修史家ノ其ノ常ニ着目所見ヲ變換セシ所ノ情勢ヲ觀察スルハ、甚タ重要ノ事項ニシテ、且ツ此ノ變轉ハ、其間些少ノ差異ナキニ非スト雖モ、能ク永年ニ亘リテ、之ヲ察スレハ、其方向常一途ニ出テ一方向ニ傾斜セサルナシ、又實ニ此ノ變換轉化ハ、將來人智其ノ光輝ヲ煥發ス可キ所ノ大進動ノ一端ニシテ、之ヲ以テ徐々ニ古來人智發達ノ途上ニ横塞セシ諸般ノ妨碍ヲ放棄スルヲ得タリト云フヘキナリ、斯クノ如キ立論ノ主旨ヲ以テ、古來我歐洲諸大國ノ經



過實踐ニ來ル所ノ諸種ノ開進ヲ考察スルキハ、又隨テ歐洲諸邦ニ於テ、古來編纂シ來ル所ノ史乘沿革ノ事蹟ヲ詳説セサルヘカラス、然ラハ余ハ又之レカ爲メニ先ツ一國人民ノ實況、及其ノ古來發顯セシ所ノ諸種ノ理論ニ就テ、其ノ探討考索ノ思念ヲ起サ、ルヲ得ス、且ツ此ノ二者ノ連結ヲ使テ、明瞭ナラシメシトスルキハ、余ハ歴史學ヲ以テ、敢テ別種ノ事物ト爲サ、直ニ之ヲ以テ、各國人智歴史ハ、一班ト見做サ、ハルヘカラス、抑本編ニ於テ論述スル所ノ者ハ、大革命以前ニ於ケル佛國開明ノ性質ニシテ、亦之ニ添フルニ、其ノ國當時歴史家ノ事蹟、及其ノ修史ノ學科ニ於テ、當時提起セシ所ノ諸般

各國人智ノ歴史

ノ重大改良ノ景況ヲ以テセントス、夫レ社會當時ノ形勢ニ於テ、能ク斯ノ如キ改良ヲ提起セシ所ノ傳説ハ、最モ珍奇ニシテ、且ツ余ノ最モ詳細ニ探討セントスル所ナリ、而シテ其ノ他諸大邦ノ開明、及ヒ歴史學ノ形況ハ、尚ホ次編ニ於テ之ヲ詳論スヘシ、果シテ此ノ如ク、歐洲歴史ノ本源ニ探入スルキハ、其ノ考察必ス爽快ニシテ、現今未タ探盡シ能ハサル所ノ事理ヲ發見シ、又讀者ヲシテ、今日歴史ノ稍見ルヘク、体裁ヲ得ルニ至ルマテ、古來經歷セシ所ノ諸種ノ困難ヲ理會曉得セシムルヲ得ルヘシ、凡テ歐洲古昔ノ形況ヲ考察ス可キ所ノ材料ハ、既ニ久シク其ノ痕跡ヲ滅シ、今考フ可キ者ナシト雖モ、

天然ノ景狀此彼相同シキハ野蠻ノ形情モ亦古今相同シキヲ以テ余輩尚ホ今日ニ於ケル野蠻諸邦ノ狀況ヲ探討スルトキハ亦之レヲ以テ古昔野蕃ノ形情ヲ測ス可キ所ノ至要ノ材料ヲ領取スルニ至ルヘシ故ニ余ハ今其ノ材識學藝信ヲ世間ニ置クニ足ル可キニ所ノ遊歴人士ノ曾テ拾集編述セル日記ヲ使用シ以テ余輩ノ今日直接ニ探討シ能ハサル所ノ古代歐洲國民ノ形情ヲ推論セントス固ヨリ此ノ如キ極論ハ想像ノ思念ニ就リ唯ニ太古不文ノ時代ヲ推測スルノミニシテ決シテ今世ニ遵用ス可キニアラスト雖モ近古千年間ニ於テ各自カラ史家ノ存スルアリテ其ノ事蹟ヲ追録シ

歴史編纂  
方術

其ノ八百年代以後ニ至リテハ毫モ推測ヲ使用スルヲ要ヒス殊ニ佛蘭西國民ノ如キハ早ク五百年代ニ於テ史家ヲ現出シ其ノ以後ノ興亡隆替ハ歴然トシテ史家ノ徵証ス可キ者ヲ存在セリ而シテ余ハ本編ニ於テ一千五百年代ニ至ルマテ歐洲諸大國ニ於ケル歴史編纂ノ方術ヲ狀寫セントス其ノ千六百年代及千七百年代ニ於ケル各國歴史ノ改良ハ其ノ邦國各自ノ條下ニ就テ之ヲ詳悉セントス且ツ歴史ハ其ノ改良以前ノ景狀ハ唯ニ大誤錯ノ組織構成ニ過サルヲ以テ余ハ首トシテ其ノ史乘一般破壊ノ要領ヲ提出シ以テ又其ノ斯ハ如キ歴史破壊ノ由ツテ來ル所ノ歩級ヲ指示シ古來數

百年間、歐洲全土ニ於テ、曾テ一人ノ能ク、往時ヲ追究シ、或ハ能ク、當時一世ノ事蹟ヲ探盡編述シ得ヘキ者之ナキヲ、辨明セハトス、

以上二節ハ、修史學ノ變遷ヲ推究スルキハ、亦自カラ社會變遷ノ搜索ヲ使テ、分明ナラシムルヲ論ス、人民開化ノ當初、即文字未タ世ニ行ナハレサル以前ニ在ツテハ、其ノ人民平時餘閑ノ鬱懷ヲ散シ、又ハ戰時軍陣中ノ勇氣ヲ鼓舞セント欲セサルハナク、而シテ此ノ所好ヲ充タシメンカ爲メニハ、亦必ス諸般各種ノ歌曲ノ創製ヲ計ラサルナシ、而シテ此ノ種類ノ歌曲ハ、今日尚ホ世界各地ノ蠻民ノ中ニ於テ、其ノ形蹟ヲ實見シ得

各種ノ歌曲

詩客伶人

ル者ニシテ、此ノ歌曲ハ、往昔歴史學ノ由ツテ起リシ所ハ本源ナリ、凡テ此ノ如キ歌謠ハ、特ニ其ノ國民中ノ舊格古諺ヲ保畜スルヲ以テ、已レカ任ト爲ス所ノ部分ニ於テ、誦傳セララル、者ナリ、此ノ如クニシテ、其ノ前代奇異ノ事蹟ヲ誦傳スルノ古風ハ、殆ント自然ニ出テ、古今何レノ邦國ト雖モ、此ノ詩客伶人ノアラサルナシ、今其ノ二三ノ例証ヲ知ラント要セハ、獨リ歐洲諸邦ニ於テ、此ノ如キ詩客伶人アツテ、其ノ國民ノ古傳舊風ヲ誦傳セシノミナラス、尚ホ其ノ他支那西藏韃靼印度スシンドビルチスタン西亞細亞黑海諸島埃及西亞比利加南北亞米利加太平洋諸島ニ於ケルモ皆此ノ詩客伶人

文字創製

古傳口碑

詩歌學

ニ由リテ、其ノ古傳舊風ヲ誦傳保存セサル者ナキナリ、  
 凡テ此等諸邦ノ文字創製ハ、遙カニ其ノ後世ニアリ、且  
 ツ其ノ人民文字未造ノ世代ニ在リテハ、古傳口碑ノ法  
 術ヲ除クキハ、亦他ニ歴史保存ノ方術ナキヲ以テ、古傳  
 口碑ノ方術ハ、最モ能ク其ノ記憶誦傳ニ適應スル所ノ  
 法式ヲ撰擇セサルヲ得、今按スルニ、古今萬邦其ノ學  
 問ノ第一初步ハ、必ス詩歌ノ學ニ起リ、間叶韻ノ文辭ニ  
 發スル者ナリ、蓋シ音響ハ蠻民ノ耳聽ヲ爽快ナラシメ、  
 且ツ世々受授傳習セシムルニ於テ、其ノ誤謬過錯ノ後  
 憂少ナキヲ以テ、專ラ音響ヲ以テ歌曲ニ調和シ、其ノ錯  
 誤ヲ防禦シ、大ニ歌曲直價ヲ増加セリ、是ニ由リテ歌曲

ハ、獨リ娛樂ノ具タルノミニ止マラス、後代永ク考証ノ  
 用ニ供スヘキ貴重要々ノ者タルヲ得タリ、而ノ其ノ歌  
 曲ニ於テ述ル所ノ隱語ハ、之ヲ以テ蠻族偉人ノ功業ヲ  
 考証スヘク、亦當時野蠻夷狄ノ邦土境域ヲ追索スルヲ  
 得ヘシ、故ニ此等歌曲ノ諷誦司、及其ノ創述家ハ、亦諸般  
 爭論ノ裁判官トナリ、且又其ノ諷誦司創述家ハ、屢祭主  
 僧徒タルヲ以テ、務メテ其ノ歌曲ノ風調ヲ嫺雅ナラシ  
 メ、其ノ歌曲ノ本源ハ終ニ神明ノ意思ニ發スル者ナリ  
 トスルニ及ヘリ固ヨリ此等ノ歌曲ハ、其ノ之ヲ作為創  
 造スル所ノ國民ノ風俗氣質及水土ニ隨ツテ、各相同シ  
 カラスシテ、南方ニ於テハ、歌曲ノ風調、自カラ繁躁漫溢

、狀勢ヲ有シ、北方ニ在ツテハ、戰鬥悲壯ノ風調ヲ帶フ、斯ノ如ク其ノ風調種類ハ相異ナリト雖モ、之ニ由ツテ胎生スル所ノ結果ニ至ツテハ、此彼悉ク同一ノ形狀ヲ顯ハサ、ルハナシ、是ノ如ク地方ノ歌曲ハ、皆當初創作ノ實事ニ起原スルヲ以テ、若シ其ノ風調ニ於ケル詩歌ノ粉飾ヲ剝奪スルキハ、其ノ歌曲ハ皆其ノ傳記ノ真面目ナラサルナシ、故ニ人アリ、若シ其ノ曾テ聽キ得ル所ノ歌曲ヲ暗誦シ、其ノ疑點ヲ以テ、其ノ誦詠ノ大家ニ就テ、之ヲ質問スルキハ、必ス古代隱微ノ事蹟ニシテ、往々望外ノ裨益ヲ得ルコト多シ、

以上二節ハ、太古ノ歴史ハ、盡ク歌曲ナルヲ論ス、

書寫方術

右ノ如キハ世界歴史ノ來歴ニシテ、其ノ最モ古ク且ツ最モ單純ナル所ノ階級ナリ、然リ而シテ、若シ時世ノ經過ニ於テ、災害擾亂ノ其ノ間ニ現出スル者アルニアラサレハ、社會ノ形勢ハ次第ニ上進ノ點ニ趁キ、隨テ至大至重ノ發明タル書寫ノ方術ヲ創建スルニ至ルヘシ、夫レ書寫ノ方術、一タヒ社會ニ行ハル、ハ、數世ナラサルノ間、必スヤ其ノ國民古傳口碑ニ於テ、非常ノ變更ヲ生出セサルヲ得ス、而シテ此ノ變更ノ由ツテ來ル所ノ理ヲ釋スレハ、古今未タ能ク之ヲ詳論明辨セシ者アルヲ見ス、故ニ今此ノ事項ヲ追索詳明スルハ、讀者ノ爲メニ更ニ有益珍奇ノコトタルヘシ、

夫レ書寫ノ流行ハ、大ニ國民ノ智識ヲ使テ、耐久ナラシメ、且併セテ上古無文人民ニ於テ、其ノ貴重至要ノ才藝トシテ、保持セシ所ソ誦傳ノ利用ヲ減省セサルヲ得ス、蓋社會ノ上進ニ隨ヒ、書寫益其ノ勢ヲ増シ、口傳口碑ハ自カラ其ノ勢力ヲ減シ、又其ノ信憑ノ薄弱ナラシムルノミナラス此ノ如キ世代ニ及テハ、從來傳誦口碑家ナル者ハ、大ニ其ノ權勢ヲ墜スニ至ル者ナリ、抑無文蒙昧ノ人民中ニ在ッテハ、歌曲ノ傳誦家ハ、獨リ歷史上ノ事蹟ヲ傳フルニ論ナク、其ノ主公酋長ノ名譽資財ノ如キモ、一二傳誦司ノ左右スル所ヲ限ルハ、余力既ニ論辨セシカ如クナリト雖モ、書寫ノ方術一トタヒ世間ニ流行ス

ルニ及ンテハ、其ノ國民ハ、己ノ名譽異蹟ヲ以テ、此ノ如キ飄泊定マリナキ一介ノ行路人ナル唱歌者伶人ニ附托スルヲ欲セス、必ス書寫ノ術ヲ以テ、耐久永遠ニ之ヲ保存セシヲ望マサルナシ、然リ而シテ、一旦書寫ノ術ヲ以テ、其ノ事蹟ヲ保存スレハ、自然ニ口碑及誦傳家ノ勢力ヲ減少シ、漸次ニ其ノ地位ヲ下シテ、下等社會ニ混同セシメ、斯ノ如クニシテ、傳誦者流ハ自家從來ノ尊崇ヲ失ヒ、下等社會ニ混淪スルニ當ツテ、亦從前ノ誦傳家ヲ以テ、其ノ名譽ヲ博取セシ所ノ有力上等ノ人士ハ、其ノ群中ニ入ルヲ耻チ、其ノ業ヲ廢スルニ至ルヤ必然ナリ、無文ノ世代ニ於テハ、人智甚タ粗略ニシテ、其ノ爲

歴史紀傳ノ  
損傷ニ頂

妄説發生ノ  
根

ス所見ルニ足ル者ナク、書寫創建ノ世代ニ至リ、漸ク始  
メテ此ノ缺漏ヲ補益スルヲ得ヘシト雖モ、余ノ見ヲ以  
テ之ヲ論スル片ハ、書寫創建ノ為メニ、又大ニ歴史ノ  
紀傳ヲ損傷セシ者ニ頂ノアル在リ、其ノ一ハ口碑ハ勢  
カヲ軟弱ナラシメ、是ナリ、其ノ二ハ口碑ヲ保存スル  
ヲ以テ、己ノ職務トナス所ノ人士ノ勢力ヲ軟弱ナラシ  
メ、タル是レナリ。

然ルニ歴史ノ損傷ハ、惟ニ此ノ二頂ヲ以テ盡セリト云  
フニアラス、凡テ、盡寫ノ方術ハ、獨リ口碑ノ証憑トナス  
可キ者ヲ減少セシムルノミナラス、尚ホ妄説發生ノ根  
ヲ培養スル者ト云フヘシ、抑此ノ妄説ノ由ツテ起ル所

ノ本源ハ、畜積主義ト名クル所ノ方術ニシテ諸種ノ証  
憑ヲ蒐集保存スル者ニアラサルナシ、例セハ古者ニ在  
ツテ、ヘルキユレスナル名稱ハ大盜強賊ノ天下ニ横行  
シ殘害憚ルヲナク、其ノ暴虐意ノ如クナラサルナク、且  
ツ其ノ事蹟ノ特絶ナル者ハ、死後之ヲ尊崇レ、之ヲ祭祀  
スル所ノ尊號ナリ而レテ此ノ稱號ノ由ツテ興ル所ノ  
根源ハ、今輒ク明瞭スヘカラスト雖モ、當初一箇人ノ此  
ノ名稱ヲ負フ者アリ、其人太夕世ニ顯ハレシヲ以テ、其  
ノ後性質行為ノ其レト相類似スル者アレハ、亦之ニ附  
與スルニヘルキユリス、稱號ヲ以テセシ者ナルヘシ  
斯ノ如ク一名ヲ以テ、數人ニ附與スル風習ハ、蠻民一般

ノ通例ニシテ、其ノ國民口碑ノ一地方ニ限リ、廣ク相交  
 接連合セサル間ハ、毫モ其ノ際ニ於テ、紛亂ヲ生セサル  
 者ナリ、然レモ此等ノ口碑ノ如キモ、一トタヒ書寫ノ術  
 ニ由ツテ、其ノ事蹟ヲ定認スルヲ得ルノ期ニ及ンテハ、  
 其ノ編者ハ、必ス其ノ名稱ノ同一ナルニ眩惑セラレ、又  
 其ノ事業ノ相類似スルヲ見テ、數多ノ事業ヲ以テ一人  
 ノ行為ト誤認シ、之カ為ノニ、終ニ其ノ歴史ヲ使テ、奇怪  
 不可思議ナル神學ト其位置ヲ同シウセシメシヤ必然  
 ナリ、又歐洲ノ北部ニ於テ、文字ノ使用ヲ創建スルニ當  
 リ、サキゾクランマチキヌナル者夫ノ著名ナルラグナ  
 ルロドブロクノ傳記ヲ編述セリ、又其ノ書中ノ事蹟ハ、

歐洲北部文字ノ使用

故意ナルヤ、將タ誤謬ナルヤハ、知ルヘカラスト雖モ英  
 國ヲ使テ恐怖戰慄セシメシ所ノ、スカンジナヒヤノ英  
 傑ナルラグナルハ、其ノ大約百年以前ニ出シ所ノ、  
 ラントノ王ナルラグナルト其ノ名稱ヲ同シクセリ、蓋  
 右ノ如キ暗合同様ナル名稱ト雖モ、各其ノ自國ニ於テ  
 各其ノ事蹟ヲ傳ヘ、其ノ傳記ヲ分立シテ、之ヲ保存スル  
 間ハ、毫モ名稱ノ暗合ヲ以テ、其ノ紛亂ヲ生セサルヘシ、  
 然ルニ若シ文字ノ幫助ヲ得テ、其ノ兩流ノ事蹟ヲ結合  
 スルト得ルキハ、亦必其ノ二流ノ實蹟ヲ銘化シテ、終  
 ニ一條ノ錯誤ヲ釀成セサルナシ、斯ノ如クニシテ、此ノ  
 ラクナルノ傳記ニ於ケルモ、亦此ノ錯誤ヲ造作スルヲ



歐洲北部ノ  
史記

以テ古來世人ノ真據實証ナリトシテ、相尊崇スル所ノ  
サキヅ氏ノ如キモ、此等兩ラグナルノ事蹟ヲ打合シ、全  
ク之ヲ其ノ已ノ愛寵スル所ノラグナルノ功績トナシ  
之カ為メニ歐洲上代ニ於ケル所ノ一大事項ヲ迷蒙ナ  
ラシムルニ及ヘリ、  
歐洲北部ノ史記ヲ閱スルハ、尚ホ此ノ種ノ誤謬ニ屬  
スヘキ奇異ノ例証ニ乏シカラス、コアンスト稱セシヒ  
ンスノ一種族ハ、ボツニヤ灣ノ東岸ニ居住シ、其ノ邦土  
ヲコアンランドト呼ヒシヨリ、其ノ種族ヲ稱シテ、コア  
ンスト云フ、而シテコアンランドノ名稱ノ此ノ地方ニ  
在ルカ為メニ、アマジンス種族ノ邦土モ、亦パルチツク

海ノ北方ニ在リトスル所ノ假想ヲ生スルニ至レリ、蓋  
シ此ノ誤謬ハ其ノ地方ノ景狀ニ明ラカナル者ハ、容易  
ニ之ヲ匡正スルヲ得ヘト雖モ、文字幫助ノ為ニ却ツ  
テ斯ノ如キ虚妄無根ノ流言ヲ確認セシメ、終ニ歐洲古  
代史中、或ハアマソン種族ノ如キ、無何有ノ人種ヲ現出  
スル者アルニ至レリ、又ヒンランノ首都、アボ府ハ、一  
名トルクト云ヘリ、トルクトハ、瑞典語ニシテ、市場ノ義  
ナリ、然ルニ歴史家中ニ於テ、有名ナルブレメンノ強  
氏ハ、其ノパルチツク海沿岸ノ邦土ヲ論述セシ條下ニ  
於テ、大ニトルクナル一語ヲ誤解シ、讀者ヲシテ亦ヒン  
ラントニ於テ、土耳格種族ノ居住セシトスル感覺ヲ想

起セシムルニ及ヘリ、

斯ノ如キ例証ハ、尚ホ枚擧ニ遑アラズ、是レ惟其ノ名稱ノ為メニ古代ノ歴史家ヲ騙瞞シ、彼此固ヨリ相關係セ、一語一點以テ明ニ匡正シ得ヘキ所ノ事物ヲシテ、終ニ混同結合セシメレト雖モ其ノ混同ノ錯誤ハ今日ニシテ之ヲ見レハ、其ノ行ナハル、所ノ區域早已甚々廣大ニシテ、亦容易ニ駁撃匡正シ得ベカラサルモノアリ、今若シ重ネテ其ノ一例ヲ擧クレハ、我英國史中第一世リチャルド帝ハ、我國最惡ノ暴君ニシテ、帝ノ行為ノ暴戾ナルト、其ノ天性ノ猛烈ナルカ為メ、時人帝ヲ指シテ獅子王ト綽號セリ、而シテ此ノ綽號アルカ為メニ、後ノ

リチャルト  
帝

人士皆ナ曰ク、帝ハ常ニ獅子ノ猛心ヲ持セリトシ、帝ノ尊號ヲ稱スルルキハ、之ニ連呼スルニ獅子心獅子心ノ語ヲ以テセリ、是ヨリシテ、後世好事ノ著作家ハ、帝ハ曾テ獅子ト格闘シテ、一搏ノ下ニ之ヲ打殺セシ等ノ奇話ヲ作為スルニ至レリ、此ハ如キハ、名稱ニ由ツテ奇話ヲ造出シ、奇話ニ由ツテ、亦其ノ名稱ヲ確定セシ者ニシテ、此ハ他尚ホ中世ノ歴史ヲ、混濁セシ所ハ、謊言妄説ハ、簇々トシテ枚擧スルニ、遑アラザルナリ、

以上五節ハ、書寫ノ發明ハ、歴史謬妄ノ一原因タルヲ論ス、

右等歴史謬妄ノ一原因タル、書寫ノ創建ヲ幫助セシ事

基督教ノ  
實

ニ於テ歐洲ニ於テハ、更ニ其ノ他一種ノ一原因アリ、夫  
ノ基督教ノ智識ハ、書寫ノ方術ヲ以テ、其ノ區域ヲ増  
加セシ者太タ多ク、且其ノ新教ノ教興スルニ當ツテ、從  
來外教國ニ流傳セシ所ノ古來ノ口碑ヲ消滅セリ、或ハ  
其ノ遺存スル者アルモ、其ノ意味ヲ變更シテ、直ニ之ヲ  
其ノ宗教ノ古典ニ混用セリ、今其ノ宗教ノ傳播ニ由リ、  
口碑ヲ變更セシ所ノ景狀ヲ論述スルハ、人或ハ其ノ  
奇ヲ咎ムル一アルヘシト雖モ、尚ホ二三能ク其ノ証例  
ヲ列示スルハ、讀者ハ幸ニ其ノ概旨ノ如何ヲ識認ス  
ルニ至ルヘシ、

歐洲北部ノ  
國民

抑モ歐洲北方ニ於ケル國民、古代ノ景狀ニ就テハ、余輩

スカンジナ  
ビヤ詩祖

太其ノ窺測ス可キ所ノ証左ニ乏シト雖モ、現今尚ホ遺  
存スル所ノスカンジナヒヤノ詩人、其ノ祖先、或ハ其ノ  
同輩ノ事蹟功業ヲ頌述セシ所ノ詩篇ヲ把リテ、其ノ性  
質ノ次第ニ敗壞ニ趣クニ關セス、正當ノ眼目ヲ具シ、能  
ク之ヲ判定スルハ、其ノ頌述セシ所ノ事實ハ、孰レモ  
皆歷史上ノ事蹟ニシテ、且ツ確實ナラサルハナシ、然ル  
ニ八百年代及九百年代ニ及ンテ、基督牧師ノハルチツ  
ク海峽ヲ航シ、其ノ教旨ヲ歐洲北部ノ國民中ニ立ルニ  
及ンテ、其ノ傳教ノ功績ノ少シク發顯スルト共ニ、始メ  
テ歴史ノ材料ヲ使テ茶毒晦迷ノ禍害ヲ引起セシメタ  
リ、其ノ後一千年代ニ至ツテ、基督教ノ僧徒タル、サミュン

ド、シグヒュセンナル者、其ノ北部地方ノ事蹟ニ關ハル所  
 ノ前代未曾有ノ歴史ヲ編成シ、之ヲイルデルイッダト名  
 ケ、大ニ一世ノ稱讚ヲ得タリ、而シテサミュンド、シグヒュス  
 セシハ、基督教歌ノ改正ヲ以テ、其ノ編書中ニ附載セリ、  
 其ノ後一百年ニシテ、北部地方ノ歴史ヲ編纂セント欲  
 スル者アリト雖モ、余ノ前ニ辯論セシカ如ク、混同ノ弊  
 害ハ、已ニ久シク世間ニ流傳セシヲ以テ、此ノ時ニ至テ  
 其ノ餘毒ヲ及ホセシ了亦甚ク廣大ニシテ、其ノヨソゲ  
 ル、イッダト名ツル所ノ第二編成ノ歴史ハ、專ラ希臘猶太  
 基督三教ノ混同説話ヲ載セ又其ノスカンジナヒヤ史  
 記ニ於テ、始テ其トロシヤンノ後裔タル妄誕ヲ作出セ

印度婆羅門

リ、  
 此ノ主旨ヲシテ、尚ホ一層明瞭ナラシメント欲シ世界  
 其ノ他ノ地方ニ就テ、其ノ証左ヲ探討スル片ハ其ノ看  
 出ニ於テ、亦甚ク難カラストス、凡テ古來宗教ノ變革ヲ  
 生セシ了是ナキ邦國ハ、之レヲ其ノ變革興亡數次ナル  
 所ノ邦國ニ比スレハ、其ノ歴史ハ、必ス常ニ信憑ス可キ  
 者多ク且其ノ實事ニ背違スル了太タ少シ、抑印度婆羅  
 門ノ創建ハ、遙遠ノ古代ニシテ、其ノ起原ノ年月ハ、今人  
 ノ得テ探知スル了能ハサル者ニシテ、其ノ勢力ハ、印度  
 國ニ在ツテ、古今常ニ最上ノ地位ヲ占有シ、毫モ屈撓ア  
 ル了ナレ、故ニ其ノ國古來ノ傳説ハ、曾テ新奇迷溺ノ為

支那國

ノニ敗壞セラル、一ナキラ以テ歷史上ノ口碑ニ於テハ、亞細亞諸邦ノ中、最モ古昔ノ傳説ヲ保存セリ、又支那國ニ在ッテハ、已ニ二千年前ノ昔時ヨリ今日ニ至ルマテ、釋教ノ一派ヲ保守信崇シテ相改ノス、故ニ支那ハ佻令其ノ開明進步ノ性質ハ、印度ノ如クナラスシテ、其ノ古代ヲ追索シ得ル、其ノ邦人ノ主張スルカ如ク、其ノ遙遠ナルハ信シ難シト雖モ、尚ホ其ノ歴史ハ基督紀元以前幾百年ノ古代ニ至ル迄、歴然トシテ見ル可キ者ヲ存シ、今日ニ及フ迄、古典舊記ニ於テ、曾テ敗壞ノ痕跡ヲ見ス、又百見西亞ノ如キハ、古代智慧ノ進達ハ、支那ノ開明ニ超越ス、ト雖モ、今日ニシテ之ヲ見レハ曾テ其ノ國

百見西亞

古代帝王ノ行為ニ論ナク、其ノ國民ノ景狀ヲ俟セテ、更ニ窺ヒ知ルヘカラス、其ノ故何トナレハ、百見西亞國ニ於テハ、細々ノ天經宣揚ノ後、百見西亞固有ノ宗教ハ回々教徒ノ爲メニ全ク轉覆セラル、所トナリ、盡ク其ノ國ノ古典流傳ヲ滅絶セリ、故ニゼンダウスタナル小説ヲ除ク片ハ、紀元一千年代ニ至リ、サナニノ編述其ノ成ルヲ告クルニ及フマテ、其ノ百見西亞國人ノ手ニ就ル所ノ歴史ハ、一モ見ル可キ者アルナシ、而シテ此サナニ史ト雖モ、其ノ編者ナルヘルドールノ誤謬ニ由リテ、其ノ邦國曾テ迭ニ信崇セシ所ノ、ニ教法中ノ相類似スル事跡ヲ混同結合セル者許多ニシテ、今其ノ分明ナル

事實ヲ見ルヘカラス、歴史ノ事情此ノ如クナルヲ以テ、若シ古人遺物ナル石碑彫刻物、及錢貨等ニ由ツテ、近世人ノ推究シ得シ所ノ諸般發明ナカリセハ、夫ノ亞細亞諸邦ノ中ニ於ケル、最モ著明緊要ナル百兒西亞國ノ歴史ノ如キモ、稀少粗略ナル希臘著作家ノ記述ヲ以テ、唯ニ其ノ一端ヲ探知スルニ過サルナルヘシ、蠻夷諸邦ニ於ケルモ、尚此ノ大主義ニ在ツテハ、毫モ變更アルコトナシ、夫ノ「マラヨ、ホリ子シア」人種ノ如キハ、人種學者ノ説ニ隨フ所ハ、西ハマダカスカルヨリ始マリ、東ハ亞米利加ノ西岸二千里以内、太平洋諸島ニ居住スル者ナリ、此ノ如キ廣大無邊ノ土地ニ散居スル其ノ

マラヨ、ホリ子シア人種

人民ノ宗旨ハ、元來多神宗教ニシテ、其ノ純粹固有ノ宗體ハ、久シクヒリビン羣嶋ノ中ニ遺存セリ、然ルニ千四百年代ニ及ンテ、ポルトガル葡萄牙ノ國民多ク回々教ヲ崇信セリ、而シテ此ノ改宗ハ、余カ已ニ他國ヲ引テ論証セシカ如ク、均シク其ノ順序成果ヲ顯出セリ、新宗教ノ一タヒ其ノ人種ニ流傳セシヨリ、人民固有ノ思念ヲ變換シ、亦隨ツテ其ノ固有純粹ノ歴史ヲ敗壞セリ、抑モ印度多島海ニ於ケル諸島ノ中、其ノ最モ文物進達ノ島嶼ハ、獨リ渣<sup>ヤ</sup>蛙島ナリ、然ルニ新宗教ノ其ノ島内ニ流傳セシヨリ、渣蛙人ハ獨リ其ノ國歴史上ノ口碑ヲ消滅セシムミナラス、尚ホ其ノ古代ヨリ傳承セシ所ノ帝王ノ名籍モ、併テ

回々教中ノ聖師真人ノ名稱ニ混同結合スルニ至レリ、然ルニ、其ノ鄰島ナルバリ島ヲ見レハ、其ノ固有ノ舊教尚ホ今日ニ行ハル、カ為メニ、渣蛙ノ古傳ハ、却テ此地ニ遺存シ、其ノ邦人ハ、太タ之ヲ尊貴愛養セリ、右ニ列舉セシ所ノ例証ノ如ク、開化未タ完全ナラサル國民間ニ、新宗教ノ傳播スルアルキハ、必ス其ノ上古史乘ノ攪亂混同ヲ惹起スルハ、讀者亦將ニ十分ニ之ヲ了知セントス、然ラハ則余ハ敢テ其ノ他ノ例証ヲ引用シ、其ノ攪亂混同ノ由ツテ起ル所ノ狀勢ヲ贅論スルヲ要セス、今ヨリ余ノ將ニ觀察探討ス可キノ條款ハ、唯ニ古來歐洲諸邦ニ於テ、基督教ノ僧侶、其ノ權勢ヲ得シカ為

觀察探討ノ條款

メニ其ノ服從改宗セシメシ所ノ、ブールウエルスイリスアングロ、サキソンスクラオニックスヒンスアイスラシテルス等ノ種族ニ於テ、其ノ口碑ヲ敗壞破毀セシヨリ、亦隨ツテ其ノ史記年表ヲ妨碍損害セシ所ノ情狀如何ヲ辨明スルニ在リ、

以上五節ハ、宗教ノ變遷ハ、各國太古史ノ敗壞ヲ因起セシヲ論ス、

歐洲、文學  
尚ホ此外歴史ノ敗壞ヲ因起スル所ノ數多ノ事情ノ在ルアリ、歐洲ノ文學ハ、羅馬帝國最後崩壞ノ前ヨリ、全ク僧徒ノ手裏ニ陷落シ、僧徒ヲ使テ、久シク人間教育ノ全權ヲ專有セシメタリ、其ノ此クノ如キ事情ニ馴致セシ

所ノ理由顛末ハ、余ノ是ヨリ次第論述辨明スルカ如ク  
ニシテ、實ニ數百年間通常人民ニシテ、能ク書ヲ讀ミ、字  
ヲ寫シ得ル者太ク少ナク、殊ニ一論說ヲ草シ、一書冊ヲ  
編述シ得ル者ナク、文學ハ獨リ僧徒ノ占斷スル所ト為  
ルニ由リテ、亦自然其ノ新保守者ノ性行ヲ稟受セサル  
ヲ得ス、且僧侶ハ、概スルニ世上ノ考索心ヲ鼓舞セス、唯  
ニ其ノ教法ヲ弘通スルヲ以テ、自己ノ本分トナセシカ  
為メニ、自カラ其ノ文書ニ於テ、其ノ自家習慣ノ氣風ヲ  
現出セリ、是亦深ク怪シムニ足ラサル者ニシテ、余カ既  
ニ論辨セシ如ク、數百年間文學ノ景狀ハ、毫モ社會ノ上  
進ヲ幫助スルヲナク、只管亂信ヲ攪起シ、智慧ノ發達ヲ

歐洲人民

阻攔シ、大ニ社會ヲ荼毒セリ、蓋當時虛妄謊言ノ流勢ハ  
寔ニ廣大急激ニシテ、其ノ人民何等ノ奇言異說ヲ見聞  
スルヲアルモ、更ニ之ヲ怪シミ、之ヲ疑フ者アルヲナク、  
耳目已ニ亂信貪婪ニ慣レ、兆象奇怪九テ背理的ノ事蹟  
ハ、續々歷史上ニ現出シ、或ハ天上ノ妖魔ヲ談シ、或ハ興  
隆ノ吉祥敗亡ノ凶兆等、日ニ増シ月ニ加リ、書トシテ之  
アラサル者ナク、恰モ人間智識ノ珍寶ハ、獨リ此等ノ怪  
事ニ止マル者ノ如キニ至レリ、抑モ社會ノ景狀斯ノ如  
ク迷溺數多ニシテ、智慧發達ノ進路ヲ遮斷スルヲ、亦斯  
ノ如ク過甚ナルノ中ニ在ツテ、歐洲人民ノ能ク之ヲ離  
脱シ得タル所以ヲ見レハ、人民ノ威力亦雄大ニシテ、智



慧發達ヲ熟望スル亦過甚ナルノ例証トスルニ足ルヘシ然レハ迷溺ハ脱離全ク其ハ功ヲ奏セサル以前ハ景況ハ妄信放肆ハ思念亦同シク普遍ニシテ考索ハ何物タルヲ辨スルト能ハス惟考索ハ思念ヲ發起セサルハミナラス過去ハ事蹟ヲ追究シ或ハ正シク當時目撃スル所ハ事實ヲ記載論述スルト能ハサリシヤ明ラカナ

以上一節ハ歴史敗壞ノ最大原因ハ僧徒權勢ノ熾盛ナルニ在ルヲ論ス

歴史敗壞ノ三大原因

以上論述セシ所ノ事實ヲ玩味熟考スルハ歐洲中世歴史ノ敗壞ハ大略三大原因ニ由ル者ト云フ可シ則其

ノ第一ハ書寫ノ方術ノ創建セラレ之ニ次テ口碑ノ混雜ヲ以テ各自純粹ノ古傳破壞シ謊誕謬妄ニ陥ラシメシ是レナリ第二ハ宗教ノ變更ノ為メニ古傳口碑ノ流傳ヲ阻遏シ又其ノ意味ヲ添削セシ是レナリ第三ハ三大原因ノ中其ノ勢力最モ大ニシテ歴史編述ノ事業ヲ以テ全ク僧侶ノ手ニ歸ヒシメシ為メニ僧侶ハ其ノ本職タル信仰ノ思念ヲ普及トラシメ且自己ノ地位ヲ安全ナラシメント欲シ歴史ヲ使テ妄言増殖ノ器具タラシメシ是ナリ

此等三大原因ノ運動ニ由ッテ歐洲中世ノ歴史ハ古今無比ノ敗壞ニ沉淪シ實ニ中世數百年間ニ在ッテハ歐

一証  
謊言作為

洲中一部ノ歴史アルトナシトスルモ、敢テ異論アルトナシ、仮令、間或、中世實事ノ煙滅ヲ慨歎スル者アリト雖モ、亦不幸ニシテ意ヲ事實探討ニ注ク者ナク、却リテ無稽ノ謊言ヲ作為シ、其ノ缺漏ヲ補綴セリ、今其ノ謊言、作為ノ例証ヲ舉ントスレハ、亦甚夥多ニシテ、指數スヘカラスト雖モ、就中其ノ最モ論辯スルニ足ルヘキ一証ヲ掲ケ、以テ當時歴史家ノ景狀ニシテ、古時追愛ノ事情ヲ明示セントス、中世ニ於テ、殊ニ最モ特異ナル氣風ハ、各國共ニ其ノ人民其ノ祖宗ヲ論スル所ノ假説ナリ、凡ソ數百年間各國人民、孰レモ其ノ祖先ハ、トロイ攻圍ノ中ニ苦辛セシ所ノ人士ナルトヲ確信シ、萬口一様、毫モ其

祖先ノ系譜

ノ間ニ疑議ヲ發セシ者アルヲ見ス、惟專ラ詳悉討究セント企望セシ者ハ、其ノ祖先統傳系譜ノ一事ナリ、然レ氏其ノ間亦自カラ各國同一符合ノ通説アツテ存シ、邦國ノ貴賤ヲ分別セシカ爲メニ、佛國人民ハ、ヘクルノ男ナル、フレンキユスノ後裔ナリト稱シ、英國人民ハ、エー子ースノ男タル、ブルチユースノ統裔ナリト認定セリ、中世ノ歴史家ハ、各地方各人民ノ根本ヲ穿鑿シ、好シテ互ニ之ヲ談論報通セリ、修史大家ノ編集セシ所ノ史衆及古代ノ偉人豪傑ノ傳紀ニ至リテハ、其ノ記事常ニ遙遠ノ古代ヨリ起リ、屢ノアノ弓形舟ヲ去リ、亞當ノ極樂園ヲ出ル如キ、太古ノ世代ヨリ、其ノ事蹟顛末ヲ列序

セシ者アリ、凡テ歴史ニ於テ、其ノ定限セシ所ノ古代ハ、  
 稍短小ナリト雖モ、其ノ啓發論示セシ所ノ事蹟ノ次第  
 ハ、頗ル異常ナリ、彼ノ歴史家ノ説ニ曰ク、佛國ノ首都、巴  
 黎ハ昔時トロイ敗滅ノ期ニ當ツテ、プライアムノ男プ  
 アリスナル者其ノ地ニ逃避セシヲ以テ、故ニ名クト、又  
 曰ク、ツールスハ、トロジヤン種族ノ一人ナル、トロニユ  
 ースノ墓地ナルヲ以テ故ニ此ノ名アリト、又トロイヌ  
 ノ名ハ、之ヲ文字論ニ就テ之ヲ考フルニ、必ストロイ種  
 族ノ創建タルヲ明瞭ナリト、又ノレムビルグハ、子口皇  
 帝ノ名稱ニ象トリ、レエルザレムハ中世最著有名ナル一  
 人タル、レエピヌス王ノ名ニ則トル者ナリト、然レ氏此ノ

車

ピスナル王ハ、果シテ存在セシ者ナルヤ、否ヤハ後世ノ  
 歴史家能ク之ヲ証明スルヲ能ハス、又ホングル河ハ往  
 古ホンスノ一王、此ノ河流ニ溺死セシニ由リ、此名アリ  
 トレ、ゴールノ名稱ハ、一説ニ由レハ、ジャハ、後裔タル  
 ガラチヤニ象トル者トシ、又一説ニハ、同シク、シヤヘトノ  
 男、ガメルニ起レリトス、プロシヤノ各ハ、オーグスチニ  
 帝ノ同胞ナル、プロシヤスニ起原スル者トス、此ノ如キ  
 ハ、皆ナ近世ノ穿鑿ニ成ル者タリト雖モ、尚ホ古代ニ在  
 リテハ、シラシヤハ、レレシヤン種族ノ祖先タル預言士  
 イリザノ名稱ヲ冒セシ者トシ、又スリチ府ノ如キハ、其  
 ノ創建ノ年紀ハ、分明ナラスト雖モ、必スアブラハム時

代ノ創立ニ屬セルヤ知ル可シ而其ノ府内ヨリ常ニ多ク遍歴者ヲ現出スルハアブラハム及サラノ縁故ニ因ル者ナリトシ、又サラセン種族ノ血統ヲ以テ、多少ノ汚穢ナキ能ハサル者トス、何トナシハ、仮令古來其ノ明記ナシトイヘトモ、必スサラ一人ノ血脉ヲ稟受セシ者ニシテ、其ノ胚胎ハ、サラノ他夫ヨリ受ルニアラサレハ、必ス埃及人トノ私通ニ就ル者トス、又蘇格蘭種族ハ、必ス埃及ヨリ渡來セシ者ニシテ、其名稱ハ乃チ其祖先タルバラオ王ノ公主ナル、スコタ公女ヨリ訛傳セシ者ナリトス、凡テ右ニ均シキ例証ハ、歐洲中世歴史ニ於テ、最も多ニシテ、亦最も當時太々尊信セラレシ者ナリ、又古

來能ク人口ニ膾炙スル通説ニ由レハ、ナーアルス府ノ基礎ハ卵顆ナリシ、又シントミツチエルノ法制ハ、天使ノ降臨シテ、人類ニ附與セシ者ニシテ、且其ノ天使ハ、騎士ノ曩祖ニシテ、亦實ニ世上武官ノ起原ナリトス、地獄主ノ種族ハ、其ノ始メタルタリユースヨリ出シトシ、又ニ三神學者流ノ所説ニ隨ヘハ、其ノタルタルハ、即チ下等地獄ノ區域中ノ者ナリトス、然ルニ亦一派ノ神學者流ハ、其ノ出處ヲ唯ニ地獄ナリトシ、又一種ノ論者ハ、仮令其ノ果シテ然ルヤ否ヤハ之ヲ保セストイヘトモ、其ノタルタル種族ノ地下ヨリ生出セシト云フノ一事ニ至リテハ、毫モ疑ヲ容レス、且其ノ証左ハ、生出ノ間實歴シ

来ル所ノ艱難、及奇怪ヲ以テ、明瞭ナリトス。又土爾格種族ハ、全クタルタル種族ト同一種ナリトシ、且十字架ノ一朝斯ノ如キ賤卑下等ノ土爾格種族ノ手ニ落チテヨリ、是レカ為ノニ、基督教徒ノ生見ハ、固有ノ齒數ヲ減少スルヲ十葉ナリトス。此等ノ妖妄ハ、永遠回復ス可カラサルノ迷溺ニシテ、豈基督教徒ノ為メニ、慨歎ノ至リト云ハサルヘケンヤト。

此ノ如キノ事蹟ハ、中世ノ史衆中、尚ホ夥多ナリトス。夫レ歐洲ニ在ッテハ、數百年間、其ノ肉食ノ用ニ供スヘキ者ハ、獨リ家猪ノミニシテ、牛羊仔牛ノ如キハ、之ヲ用フルヲ太夕稀少ナリ、故ニ十字軍士ノ東方ヨリ販リ、猶太

國人ハ豚肉ヲ以テ汚穢ノ物トナシ、之ヲ食スルヲ肯セサルヲヲ語レハ、聽者皆吃驚シテ信セサレ、能ク其ノ事情ヲ曉得スルハ、毫モ怪シムニ足ラサルニシテ、亦自ラ其ノ原アルヲ曉得スヘシ、千二百年代ニ在ッテ、歴史家ヲ以テ最モ顯著高名ナル、マゼウパリス氏ノ是等東方人民ノ風習ヲ辨明スルアリ、曰ク回々教徒ノ此ク豚肉ヲ汚穢視スル所以ノ原因ハ、其ノ豫言者タル、モハメツトノ一日、曾テ暴食暴飲セシヨリ、自己前後ノ感覺ヲ失シ、糞塊中ニ倒卧セシテアリシニ、宛モ家猪ノ一群此處ニ来リ、糞中クモハメツトヲ或ハ啜ミ或ハ踏ミ、モハメツトヲ使テ、殆ント絶命セシムルニ至リシヲ以

モハメット  
ノ一大奇事

テ之カ為メ其ノ信徒ハ、爾後家猪ヲ忌惡シ、其肉ヲ喰フ  
ヲ肯セスト、是レモハメット一世中ノ一大奇事ニシテ、  
之ニ次ク所ノ大奇事ハ、モハメットハ、已ニ基督教ノ一  
僧官ナリシモ、猶ホ法王ノ位階ヲ得ント欲シテ、其ノ願  
望ノ達セサルヲ憤カリ、終ニ志ヲ翻シテ、一派ノ宗教ヲ  
設建セシ者ナリトスル是レナリ、

基督教古  
代史

基督教。古。代。史。ハ、中世歴史大家殊ニ注目スル所ニレ  
テ、之レカ為メ、既ニ埋滅セントセシ所ノ事蹟モ、幸ニ多  
ク今世ニ留存スルヲ得タリ、千三百年代ニ於テ、最著有  
名ナル、フロイサートアリ、又之ニ亞テ、ウキスト、ミンスタ  
ーノマタウアリ、此ノ兩氏ノ如キハ、少シク文字アル人

士ハ、必ス其ノ名ヲ知ラサルナレ、マタウ氏乃チ異端背  
信家タル、ジユダスノ性行發生ノ起原ヲ搜索セント欲  
シ、殊ニ意ヲ其ノ歴史ニ注キタリ、而シテ其ノ考察ノ區  
域ハ頗ル廣博ニシテ、貴重スヘキニ似タリト雖モ、其ノ  
結果ハ、唯ニジユダス成長ノ狀景ヲ探討シ、ジユダスノ  
幼時父母ニ離レ、スカリオツ島ニ放棄セラレ之レカ為  
メニ、其ノ後ジユダスイスカリオトノ名稱ヲ得タル者  
ナルヲ見出セシニ過キス、而シテ又ウキスト、ミンストル  
ノマタウ氏ハ、右ノ事情ヲ探知シテ、是ニ附會スルニ、ジ  
ユダスハ成長ノ後、其ノ父ヲ弑害シ、其ノ生母ト通ル等  
ノ事ヲ記載セリ、又マタウハ其ノ自著歴史中ニ於テ、羅

馬法王ノ奇事ニシテ、學士ノ爲ニ最モ有益ナル一事ヲ  
辨明セリ、古來羅馬人民ノ其ノ法王ノ大趾ヲ吮舐スル  
所ノ禮式ニ於テ、世間久シク其ノ議論ヲ存シ、神學者流  
ト雖モ能ク之ヲ曉解セシ者ナカリシナリ、然ルニマタ  
ウハ、遂ニ此ノ疑惑ヲ解釋シ、其ノ禮式ノ本源ヲ説示セ  
リ、其ノ所説ニ依レハ、往昔ハ通例法王ノ手掌ヲ吮舐ス  
ルヲ以テ禮式トナセシニ、七百年代ノ末葉ニ及シテ、嘗  
テ邪辟ナル一女子アリ、法王ニ謁見シ、其ノ手ヲ吮舐シ、  
併セテ其ノ手ヲ握捉セリ、當時ノ法王リオハ、其ノ景狀  
ヲ見テ、禍害ノ其ノ身ニ及ハシトテ、怖レ、其ノ手腕ヲ切斷  
シテ、急迫ノ危難ヲ逃レタリ、是レヨリ以後、其ノ危難ヲ

防カンカ爲メ、手掌ノ吮舐ヲ許サス、更ニ大趾ノ吮舐ヲ  
以テ之ニ換ヘタリト、而シテ後世歴史家、又世人ノ或ハ  
此ノ事蹟ヲ疑ヒ、恐クハ遂ニ其ノ詳細ヲ失スルニ至ラ  
ント、此ニ於テ更ニ附會シテ曰ク、往昔切斷セシ所ノ手  
腕ハ、五六百年後ノ今日ニ及シテ、尚ホ羅馬ニ現存シ、毫  
モ臭腐ノ色ナク、ラテラシナル、法王ノ宮裡ニ存留スル  
ハ、實ニ奇妙ノ至リト云フヘシト、讀者若シ其ノ手腕ヲ  
貯藏セシ所ノ、羅馬法王ノ宮殿ノ來由ヲ知ラント要セ  
ハ、宜シクマタウノ著作ナル、羅馬國史ニ就テ之ヲ探ル  
ベシ、羅馬歴史ハ、子口皇帝ノ治世ニ始リ、稍詳密ヲ盡セ  
ル者ト云フ可シ、又古傳ニ曰ク、此ノ宗教ノ奇宦家タル

暗黒世代

子口皇帝ハ、時々全身染血ニ塗ミレタル田蛙ヲ吐出シ、之ヲ以テ已カ子ト稱シ、取ツテ以テ之ヲ窖中ニ蓄藏シ、時々亦之ヲ出セリト、蓋羅甸語ニ於ケル「ラテシタナ」ル語ハ、即密藏スルノ義ニシテ、「テナ」ハ田蛙ノ義ナリ、故ニ此ノ二語ヲ連呼スルキハ、「ラテラシトナルヘシ、是則古代羅馬法王ノ住居セシ「ラテラシ」ノ根源ニシテ、「ラテラシ」ナル語ハ、子口皇帝ノ田蛙ヲ吐出セシト稱道スル地ニ建設セシ所ノ宮殿ノ號ナリ、

以上五節ハ、史衆ノ敗壞ヨリ、古事口碑ノ訛傳ヲ論ス、

前論列舉シ來ル所ノ意見議論ハ、中世暗黒ノ世代、即チ

歐洲開進ノ  
本源タル世  
事及僞疑心

妄信ノ時世ニ在ツテハ、世人ノ之ヲ信スル一最甚久且ツ其ノ所見最モ饒多ニシテ、之ヲ蒐輯網羅スレハ、容易ニ夥多ノ書冊ヲ編成スルヲ得ヘシ、實ニ此ノ妄信ノ時世ハ、僧侶ノ黄金世代ニシテ、世人ノ亂信ハ、最高ノ頂點ニ達シ、僧徒ノ爲メ、最大至廣ノ大権ヲ附與セシ者ノ如シ、而シテ其ノ昌盛ノ寺觀、次第ニ衰落ニ赴キ、人間ノ道理漸ク寺觀ノ錯置ト相背馳セシ、狀勢ハ、本史ノ總論中別ニ之ヲ詳説シ、俟テ歐洲開進ノ本源タル、世事及僞疑心ノ由ツテ生セシ所以ヲ説明セント欲ス、雖モ余ハ本編ノ結尾ニ臨テ、更ニ二三ノ例証ヲ掲ケ、中世世間ニ流行セシ所ノ意見論説ヲ辨明セントス、而シテ此辨明ニ要ス



アルソル及  
チャーレマ  
イグンノ登  
史

ル所ハ例証ハ歴史中最モ能ク人意ニ適合シ且最信用  
セラレ、亦最モ勢力著明ナル者ヲ撰擇セサルヘカラス、  
即右ノ例証トシテ、余カ撰擇セントスル所ノ歴史ハ、則  
アルソル、及チャーレマーゲンノ歴史是ナリ、此ノ二歴  
史ハ、寺觀ニ附與セシ官爵ノ名稱ヲ載スルノ最モ多ク  
シテ、且其ノ著者名望ノ顯明ナルカ爲メニ、世人ノ稱讚  
ヲ得ルヲ、亦最モ厚キナリ、所謂チャーレマーゲンノ歴史  
トハ、トルピンノ曆譜ニシテ、乃チ帝ノ好友ニシテ、且軍  
中ニ在ツテ、帝ノ同伴タル、レイムスノ大教正、トルピン  
氏ノ手ニ就ル者トス、而シテ其ノ書中載スル所ノ事蹟  
ヲ以テ、之ヲ考察スルニ、其ノ書ハ、蓋シ千百年代ノ初年

ニ成ル者ニシテ、中世其ノ編成ノ年月等ニ於テ、意ヲ注  
シ、其ノ正確如何ヲ探討セント欲セシ者トケレハ、レイ  
ムス大教正ノ名ハ、其ノ付託ニ出シ、實ニ疑ヲ容レス、  
故ニ余輩ハ此曆譜ヲ以テ、千百二十二年ニ於テ、始メテ  
法王ノ是認セシ者ナルヲ見ル、又ロイス九世ノ太子ノ  
傳ニシテ、千二百年代ニ於ケル、著作大家ノ一人ナル、  
シセント、デ、ビユーワイスハ、此歴史ヲ評シテ、一大要書  
ナリト云ヒ、亦チャーレマーゲンノ治世ニ於ケル、著作中ノ  
至大ナル者ト稱セリ、  
是等ノ書類ト雖モ、其ノ誦讀セラル、ト斯ノ如ク普通  
ニシテ、且ツ大家博士ノ稱道セシ、亦斯ノ如ク廣大ナ

意見知識ノ  
定準

レハ、此ノ書ヲ以テ、凡ソ其ノ一世ニ行ハレタル意見知識ノ定準ト為スモ、敢テ過當ニアラサルヘシ故ニ、余輩ハ茲ニ其ノ書ノ要ヲ摘ミ、萃ヲ抜キ、以テ讀者ノ便覽ニ供シ、一千七百年代ニ至リ、大家學士ハ輩出スル在ツテ、古来ノ歴史學ヲ一洗スルニ至ルマテハ、歴史ハ進步最モ弛緩ニシテ、殆ト全ク其進登ノ跡ヲ見サルカ如キ形情ヲ舉示説盡セシトス、

トルピン氏ノ  
曆譜

トルピン氏ノ曆譜ニ曰ク、チャールマーゲノ西班牙入寇ハ、シントジョンノ同胞ナル、シントゼームスノ煽惑ニ由ル者ニシテ、シントゼームスハ、其ノ陣中ニアリテ、種々ノ謀計ヲ運ラセリ、チャールマーゲノパンプロナ城ヲ圍

魁男子

一キツトハ我  
一尺零五厘  
五毛ニ當ル

ムニ當ツテ、城兵之ヲ妨禦スル一太々堅固ニシテ、抜クヘカラス、然ルニチャールマーゲノ攻兵ハ、禮拜ヲ行ヒ、天神ニ向ツテ、其ノ勝利ヲ祈リケレハ、城壁忽チ破壊シテ、敵兵亦タ抗禦ス可キノ術ヲ失ヘリ、是ニ於テチャールマーゲ帝ハ、直ニ西班牙全國ヲ掃蕩シ、殆ント回々教徒ヲ誅滅シ、數多ノ寺院ヲ建設セリ、然ルニ國中尚ホ魔道妖術ヲ行フ者多ク、幾ナラスレテ、又一箇ノ魁男子ヲ出セリ、其名ヲヒナクツトト云ヒ、古昔有名ナル魁丈夫ナルゴリヤスノ後裔ト稱ス、此ノヒナクツトハ、基督教徒ノ爲メ、最モ苛虐ナル勁敵ニシテ、其ノ長二十「キツト」ニシテ、其ノ膂力ハ、四十人ニ當ル可ク、其ノ面貌ノ長度、一「キ

一ハルハ六我  
ニサ四歩ニ  
當ル

ビットニノ脛各四「キビット」ナリ、チャーレマーゲハ、此ノ妖  
賊ヲ斃サント、其ノ軍中ニ令シテ、數人ノ勇士ヲ募リテ、  
之ニ向ハシメシニ、固ヨリ其力ニ敵シ難クシテ、皆魁男  
ノ爲メニ斃サレタリ、蓋シ魁男ヒナクツトノ怪力ハ、其  
ノ手指ノ長度ノ四「ハルム」ニ稱フテ、通常世人ノ力量  
ニ超越スレハ、世人ノ恐怖亦知ルヘキナリ、斯クノ如ク  
ニシテ、基督教徒ハヒナクツトノ怪勇ニ驚駭シテ、一人  
之ニ抗セントスル者ナキヨリ、更ニ國中ニ令シテ、二十  
人ノ勇士ヲ擇ヒ、復之ニ向ハシメシト雖モ、皆空シク其  
ノ捕フル所トナリ、或ハ斬殺スル所トナリ、或ハ俘虏ト  
ナリ、曾テ一人一箇ノ還リ来ル者ナケレハ、茲ニ至リテ

チャーレマーゲノ軍中ヨリ、古代著名ノ勇士ナル、オルラ  
ントーナルアリ、帝ノ前ニ進ミ出テ、ヒナクツトト生死  
ノ格闘ヲ試ミント呼ハリケレハ、帝直ニ之ヲ遣シ、之ヲ  
挑ミタルニ、ヒナクツトハ、由来其ノ勇ニ誇リタル者ナ  
レハ、直チニ躍リ出テ、其ノ腕力ヲ奮ヒ、相挑ミ相闘ビシ  
ニ、勝負更ニ相分カタサレハ、剛勇ナルオルラントーモ、  
其心中ニ以爲ラク、此ノ如キ小敵何ノ難キノアル可キ  
ト思ヒシニ、此クノ如ク勝負ノ分タサルハ、寔ニ不可思  
議ノ至リナリ、寧神力ヲ假ツテ之ヲ斃スニ如カスト、深  
ク其心中ニ祈念ヲ凝ラセハ、剛敵ナルヒナクツトモ頓  
ニ其ノ力ヲ減セシヲ以テ、オルラントーハ、漸ク之ヲ推

伏シ、劔ヲ奪ヒ其ノ胸喉ヲ刺シ、此ノ魁男ヲ斃セシヨリ、  
回々教徒ノ勢力全ク蕩盡シ、基督教ノ軍勢ハ終ニ西班  
牙全國ヲ征服シ、チャールマーゲハ、其ノ國土ヲ分畫シ、此  
ノ戰爭ニ功績アル已カ臣下ニ之ヲ賞與セリト

以上四節ハ、トルピン氏ノ、チャールマーゲ史ヲ引用  
シテ、前証ヲ證明ス、

アルゾル史

又アルゾル史ヲ以テ、之ヲ徵スルモ、中世歴史家ノ奇事  
ヲ信愛セシ情状ヲ察知スルヲ得ヘシ、蓋アルゾル帝ノ  
事蹟ニ於テハ、其ノ珍說奇話ニ乏シカスト雖モ、能ク世  
人ヲ使テ、其ノ珍奇ヲ信セシムヘキ所ノ者ハ、更ニ世間  
ニ之レナキナリ、然ルニ千一百年代ノ當初、モンモーツ

ノ有名ナル教正、ゼオフライナル者出ルニ及ニテ、專ラ  
アルゾル帝ノ奇蹟ヲ搜索シ、牽強附會終ニ世人ヲ惑ハ  
スニ至レリ、ゼオフライハ、一千百四十七年ニ於テ、嘗テ  
自己ノ搜索セシ所ノ事蹟ヲ編述シ、ブリトン歴史ト題  
シ、之ヲ世上ニ發行セリ、其ノ事蹟ハ、太ダ多ク、其ノ網羅  
スル所モ、亦頗ル廣クシテ、獨リアルゾル帝一世ノ傳記  
ヲ述ルノミニ止ラス、此ノ大豪傑ノ、其ノ地ニ發顯セシ  
由來景狀ノ如キモ、皆盡ク追索レテ之ヲ列序セリ、而シ  
テ其ノアルゾル帝ノ行爲事蹟ノ考索ニ於テハ、其ノ已  
レノ手ニ就ル者太ダ少ナク、大抵其ノ親友ニシテ、オキ  
スホルドノ教正ナル、ウワルテルノ編撰セシ者ヲ引用

セオフライノ考索

セリ、故ニゼオフライノブリトン歴史ハ、此ノ兩教正ノ合作ニナル者ニシテ、其ノ書ノ貴重セラル、所以ハ、此ノ書ノ著顯有名ナル兩教正ノ手ニ就ルヲ以テセス、惟ニ其ノ書中事蹟ノ珍奇ニシテ、中世諸著作家多ク之ヲ信愛シ、衆人亦最モ之レヲ喜フ所ノ者タルヲ以テナリ、此ノ大著作ノ卷首ノ部分ハ、悉クモンモースノ教正ゼオフライノ考索ニ係ル者ニシテ、アルソル帝登位ノ以前ニ於ケル、フリトン事情ヲ記載セリ、此ノ書ハ、余輩ノ爲メニ敢テ緊要ト爲スニ足ラスト雖モ、其ノ中採ル可キ所ノ者ハ、惟ブリュチースノ一事ノミ、今ゼオフライノ説ニ由レハ、トロイ府強奪ノ後、アスカニウスハ、其ノ府ヲ

逃脱シ、後一箇ノ男子ヲ擧ケタリ、是レ即チブリュチースノ父ニシテ、當時英國ハ、魁男數人ノ爲メ、割據スル所トナリ、國中更ニ之レニ抗スル者ナレ、ブリュチースノ興ルニ及ンテ、此等ノ妖賊ヲ斃シ、國難ヲ靖メ、始テ龍動府ヲ創建シ、且ツ自己ノ姓氏ヲ冒シ、其ノ國土ヲブリタイント號ケタリト、又ゼオフライノ外尚ホブリュチースニ繼立セシ所ノ諸帝ノ行爲ヲ記述セル者アリ、其説ニ隨ヘハ、此等諸帝王ハ、皆天性多能ナルヲ以テ、其治世中ニ發顯セシ所ノ事蹟ハ、皆奇怪驚ク可キ者多シ、今其一ニヲ擧レハ、曰クリヴァルロー帝ノ治世ニ當リ、鮮血ヲ兩下スル丁三晝夜ナリト、又曰クモルウヂース帝ノ御宇ニ於

テ一怪物アリ、海中ヨリ現出シテ、海濱ヲ暴行シ、無數ノ國民ヲ貪食シ、終ニ皇帝ヲ吞噬シ去レリト、此ノ如キ事蹟ハ、モンモースノ教正、ゼオフライノ考索ノ結果ニシテ、其ノ著書中、此類枚舉ニ遑アラズ、然レモアルガル帝ノ事蹟ヲ識スニ至ツテハ、其ノ友オキスホルドノ教正ヨリ其ノ幫助ヲ蒙リシト太々多クシテ、此ニ教正ノ記述セシ所ノ者ニ從ヘハ、アルガル王ノ此ノ世ニ出現セシハ、全ク有名ナル男巫メルリンノ魔法ニ依ル者ナリト、蓋此ニ教正ハ斯ノ如キ奇談ヲ探ルヲ以テ、歴史家ノ神聖奇妙ナル一、大事業ナリト假想シ、アルガル帝ノ顛末ニ於テ、殊ニ最モ其ノ詳密ヲ極メタリ、其

ノ書ニ云ク、アルガル王ノ生後ノ功業ハ、其ノ出現ノ不可思議ニ齊シク、其ノ勢力偉大絶倫ニシテ、向フ所敵ナシ、故ニ最初無數ノサキソン人ヲ屠リ、進ンテノールウエリヲ蹂躪シ、又進ンテゴールニ闖入シ、朝廷ヲ巴理斯ニ奠キ、頻リニ歐洲全國ヲ壓伏センカ爲メニ、其ノ準備ヲ促カセリ、又云クアルガル王ハ、曾テ二人ノ魁男ト格闘シ、共ニ皆之ヲ屠殺セリ、其ノシントミツェル山ニ住セシ者ハ、甚タ兇猛獍惡ニシテ、嘗テ之レカ征討ニ送遣セシ軍ヲ破リ、生ナカラ其ノ生虜ヲ食シ、其ノ凶虐ヲ肆ニスルヲ以テ、全國人民之レヲ恐怖セサルナシ、然ルニ其ノ勇固ヨリアルガル王ニ敵セス、遂ニ其ノ性命ヲ以テ、王ノ

犧牲ニ供シタリ、又リゾト稱シ其ノ兇暴ハ、右ノ妖賊ニ  
超過シ、其ノ已カ屠殺セシ所ノ諸帝王ノ鬚髯ヲ以テ、自  
カラ毛皮ノ甲冑ヲ製シ、常ニ強敵ト其ノ勇ヲ格セシ  
ヲ欲望セシ者ノ如キモ、亦同シクアルヅル王ノ爲メニ  
其ノ命ヲ損シタリト、

此等ハ一千百年代ニ於テ、健筆名手ト稱道セラレタル  
堂々大寺ノ高僧ノ手ニ成リ、世界ニ公發セラレシ所ノ  
歴史ノ体裁ナリ、而シテ當時此ノ書編述ノ用ニ供ス可  
キ記録材料ニ於テ、更ニ缺乏セシ者アルニアラス、又其  
ノ之レヲ証明シ、且之ヲ編纂セシ者ノ誰人ナルヤヲ問  
ヘハ、モンモースノ教正ト、オキスホルドノ教正ニシテ、

其ノ書ハ第一世ヘンリー王ノ公子、グローセスターノ  
伯ロベルト爲メニ國家文學上ニ於テ、非常ノ有功著作  
ト賞賛セラレ、且其ノ功ヲ賞シテ、アサフノ監督官ノ貴  
職ヲ與ヘラレ、編者亦自カラ此ノ昇進ヲ自負ノ、余ハ全  
ク英國歴史ノ年紀ヲ搜索セシカ爲メニ、此ノ光榮ヲ受  
タリト評セリ、此ノ如ク深切ナル用意ニ因リテ、其ノ印  
行セシ書籍ト雖モ、今其ノ成果如何ヲ評論スル片ハ、唯  
ニ其ノ之ヲ尊崇セシ所ノ、當時、形情ヲ忖度ス可キ尺度  
タルニ過キスレテ、此等ノ如キ歴史ノ感情ハ、當時ノ世  
間更ニ之ヲ怪シム者ナク、或ハ其ノ詳ヲ探討セント欲  
スル者ハ、僅々、二三ノ考索家ノアルノミ、其ノ後ビウ井ル

ソニアアルフレットナル高名ノ歴史家アリ、羅匈語ヲ以テ此ノ歴史ノ大略ヲ印行セリ、又此ノ大略歴史ノ流布セシトテ懇望シ、ラヤモン氏ハ之ヲ英語ニ譯シ、ガイメル氏ハ其ノ端初ヲアングロノルマシ語ニ翻譯シ、次テワース氏ナルモノ其ノ終尾ヲ翻譯セリ、而シテ此ノワース氏ハ、殷勤謹勅ナル人物ニシテ、大ニ世情ノ變遷ニ從ツテ、其ノ書ノ真味ヲ失シテ、慨嘆セリ、

以上四節ハ、ゼオフライ氏ノフリトシ史ヲ引用シテ、前論ヲ證明ス、

今余輩此間ニ於テ、歐洲中世ニ勃興セル歴史景狀如何ヲ陳述証言スルハ、敢テ緊要ノ事項ニアラサル可シ何

トナレハ、歐洲後世ノ史衆ハ、毫モ古來先輩ノ規矩ニ則トル者ナク、其ノ体裁ハ唯ニ、古今最練達最秀拔ナル記者ヲ學ビ、此ヲ以テ當時歐洲内ノ知慧、及事理裁斷法ノ好模形トナスニ過キサリナリ、千三百年代末ヨリ、千四百年代ニ至ツテ、始メテ歴史改良ノ時期、將ニ來ランニシテ、其ノ後千五百年代、或ハ千六百年代ノ終期ニ至ルマテハ、更ニ著大ナル事アルコトナシ、此歴史改良ノ大進歩ニ係リテハ、余別ニ此總論ノ中ニ於テ、千六百年代ノ歴史進歩ノ如キハ、未タ明カニ誤錯トナスヘカラスト、雖モ、千七百年代ノ中葉ニ及フマテハ、尚ホ歴史ノ



歐洲諸大國ノ文事

体面ヲ使テ、完全ナラシメント欲スル者ナリ、漸ク千七  
百年代ノ中葉ニ至リ、佛蘭西ノ大家碩學、始メテ意ヲ此  
ノ旨趣ニ注キ、亞テ蘇格蘭ノ二三大家、其ノ舊習ヲ改メ、  
其後數年遂ニ日耳曼人等ノ之ヲ改良セント企望セシ  
所以ヲ討究論述セントス、抑モ此ノ歴史改正ノ事起ル  
ニ隨ツテ、又之ト連結メ、歐洲諸大國ノ人文浮沈ニ關ス  
ル所ノ文事ニ於テモ、亦諸般ノ變更ヲ因起セリ、然ルニ  
此等ノ事情ニ就テハ、今本書總論ニ中ニ於テ、余カ別ニ  
之レヲ討究揣度スルヲ待タス、千五百年ノ終期ニ至ル  
マテハ、獨リ一部ノ歴史ト稱セラル可キ者ノ、編纂セラ  
レサリレノミナラス、尚當時社會ノ情勢モ、亦人ヲ使テ

一部ノ歴史ヲ編述セシムルニ足ラサルカ如シト斷言  
スルヲ得ヘシ、蓋シ當時歐洲ノ知識ハ、尚ホ淺近微少ニ  
シテ、尚ホ詳ニ往時ノ事蹟ヲ探討論究スルニ足ラサリ  
シナリ、斯ノ如ク、古代修史家ノ完全ナラサルハ、其ノ天  
然、智能ノ缺乏ヨリ起ルニアラス、シテ、其ノ世之ヲ使テ、  
然ラシムルナリ、夫レ人智平分ハ程度ハ、古今同一ナリ、  
ト雖モ、古今人智ノ常ニ其ノ軌ヲ異ニスル所以ハ、社會  
壓迫ハ、勢カ相異ナルニ由ル者ナルヲ以テ、往時ニ在ッテ、  
其ノ最モ賢良有識ト稱スル所ハ、著作家ヲ使テ、其ノ最  
モ愚昧背理ノ惑溺ニ墮ラシメシ者ハ、是レ、全ク社會一  
般ハ、通勢ニシテ、此ノ通勢ハ、改良ニ赴カサル間ハ、固ヨ

リ真正歴史ハ存立ヲ見ルコトハ、  
亦古傳事蹟ノ中ニ於テ孰レヲ捨テ孰レヲ取リ孰レヲ  
以テ重大至要ハ事蹟ナルヤヲ識別シ得ヘカラス

以上一節ハ、歴史學改良ノ第一着ハ千三百年代及  
千四百年代ニ興起セシヲ論ス

政治上ノ妄  
像

故ニマクチャウリー及ボゲン氏ノ如キ、大家碩學ノ輩  
出スルアリテ、其ノ考察ニ從事セシ時ト雖モ、唯ニ其ノ  
歴史ヲ以テ政治上ノ妄想ヲ寫出スルノ要具ニ供スル  
ニ過スレテ、是ヲ以テ世間人事ノ顯象、即身外事物ノ形  
情ヲ總羅スヘキ、貴重完全ナル器具ヲ製作セント企圖  
スル者ナシ、コマイ子ス氏ノ如キモ、亦同一然ラサルナ

コマイ子ス氏

シ、蓋氏ハマクチャウリーボゲンノ兩氏ニ比セハ其ノ  
學力稍々其ノ歩ヲ讓ルト雖モ、事物觀察ノ事ニ於テハ  
又太夕精密ニシテ、其ノ各種特異ノ徵候ヲ比較シ、事物  
ノ商量ヲナスニ至テハ、亦絶代聰明ノ眼ヲ具セシ者ト  
云フヘシ、然ルニ是唯其ノ自己一身ノ智慧上ニ止ル者  
ニシテ、其ノ當時ノ形勢ハ亦彼ヲシテ、惑溺妄想ノ境界  
ニ墮落セシノ、其ノ大主眼ノ如キハ、亦全ク之ヲ遮蔽忘  
失セシメタリ、氏ハ此ノ如ク重大ナル中世封建制度ヲ  
轉覆シ、駁々進前スル所ノ智慧進步ノ形勢ニ於テ、更ニ  
注目スルコトナク、唯ニ鎖々タル政治上ノ詭計謀略ヲ探  
討論述スルヲ以テ、修史ノ本分ナリト信認セリ、此ノ外

氏ノ妄信ヲ論セハ、尚ホ救擧ニ違アラスト雖モ、今一々之ヲ詳悉スルヲ用ヒス、何トナレハ、千二百年代ノ當時ハ、世界一般ノ亂信ニシテ、一人其ノ心意ヲ剛勁ニシテ、其ノ誘惑ヲ蒙ラサル者ナシ、獨コマイ子ス氏ヲ咎ムヘカラサルナリ、然ルニ尚ホ茲ニ一言スヘキ者アリ、コマイ子ス氏、身常ニ内外ノ政治學者ト親シシ、又常ニ政治家ノ其ノ意ヲ用ヒサルヨリ、至良ノ盟約屢其ノ功效ヲ誤失スル丁アルヲ見テ、深ク其ノ本来ノ原因ヲ考察スル丁ナク、唯ニ神明ノ震怒ニ由ツテ、之ヲ消滅セシ者ナリト信認セリ、寔ニ千三百年代ニ於ケル妄信ノ勢力ハ、斯ノ如ク強大敵スヘカラサル者ニシテ、氏ノ如キ當世

第一流ノ政事家ト呼ハレ、能ク世故ニ練達セシ者ト雖モ、若シ戰陣ニ於テ、其ノ國人敵ノ爲メニ擊破セラレ、等ノ丁アル片ハ、之レヲ兵士不鍛鍊ノ故トナサス、亦出征其ノ當ヲ得ス、或ハ將帥其ノ任ニ堪ヘサルノ故トセス、其敗北ハ必ス其ノ國君或ハ人民ノ罪惡ニシテ、神明ノ之ヲ懲罰シ賜フニ由ルナリト斷言スルニ至レリ、氏故ニ謂フアリ、云ク夫レ兵事ハ神機ナリ、神明之ヲ使用シテ、其ノ所志ヲ違シ賜フモノナレハ、其ノ勝敗ハ唯ニ神明ノ左右ニ之レ隨フ者ナリ、又國事壞亂ノ如キモ、獨リ神明ノ震怒ニ由ツテ因起スル者ナレハ、若シ一國ノ人民一ヒ其ノ昌盛ノ域ニ進登レ、能ク其ノ昌盛ヲ致セ

シ由来本源ヲ忘失セサル間ハ、決テ擾亂難事ノ發生スルヲナシト、  
 斯ノ如ク政事ヲ使テ神學ノ一端タラシメントスルノ  
 欲望ハ、當時普通ノ情勢ニシテ、其ノ欲望企圖ハ、當時有  
 カノ人士、及其ノ他久シク公事ニ服従スル所ノ諸士、事  
 業ト爲リシモ、亦實ニ怪ム可キナリ、右ノ如ク神學思想  
 ノ企圖定見ヲ有スル者、獨リ寺院ノ僧侶ノミニ止マラ  
 ス、能ク老鍊著名ノ政事家ニ浸入ストナスキハ、其ノ一  
 般國民ニ於ケル、其ノ平分智識ノ程度ハ、亦容易ニ之ヲ  
 推測シ得ラルヘクシテ、其ノ人民當時ノ智慧ニ至リテ  
 ハ、其ノ見ルヘキ者ナキヲ知ルヘキナリ、歐洲諸國能ク

妄想歴史

此ノ如キ、惑溺亂信ノ區域ヲ脱離シ能ク、其ノ豎横填塞  
 セシ所ハ、将来進歩ノ障害ヲ撞破シ、始テ少シク其ノ進  
 前ハ針路ヲ看出シ、其ノ方向ヲ得ルニ至ルハ、中間ニ於  
 テ、其ハ幾多ハ、磴階ヲ經、幾回ハ困難ヲ凌キシヤハ、余輩  
 寔ニ臆度シ得ハカラスシテ、皆盡ク想像ノ外ニ出テ、カ  
 ルヤ明カナリ、  
 此ノ如ク許多ノ障害磴階ノ前途ニ横塞スルアリト雖  
 モ世道上進ノ氣運ハ尚ホ其ノ歩ヲ止ムルコトナク、コマ  
 イ子ス氏ノ妄想歴史ノ年間ト雖モ、其至大ナル變更ノ  
 事蹟ハ、著々トシテ証認セラルヘキ者アリ、此等變更ノ  
 事蹟ハ、其ノ将来世道上進ノ一大革命ノ前導者ニシテ、